

○五月廿二日

一 御數寄屋頭倉田道清明後廿四日發足罷下候ニ付 御朱印等爲受取相越  
 自分平服大書院例席ニ着坐預 御朱印共貳通白木三方載公用人勝手上  
 之口ヲ持出右之方ニ差置年寄衆并若年寄ニ書狀貳封人足證文壹通小  
 廣蓋ニ載是又同様持出右之方ニ差置夫より公用人案内ニ道清罷出側  
 進ミ 御朱印并人足證文書狀二封共相渡道清二之間ニ下リ相應及挨  
 搦夫ヲ入側ニ披キ衝立際ニ平坊主兩人罷出道清取合退去夫より道清も  
 退去自分勝手ニ入

一 町奉行關出雲守ニ於小書院逢御用談いたし候

一去ル十六日出大和殿ヲ被差越候宿次今已上刻到來いたし候

一 慎徳院様御忌日ニ付知恩院ニ參詣可致之處御用多ニ付其儀無之

一 外國奉行支配組頭白石忠大夫兵庫表御用相濟歸府當地通行ニ付入來於  
 小書院逢御用談いたし候

一 奧御右筆組頭早川庄次郎奧御右筆柳澤勉次郎ニ於小書院逢御用談いた  
 し候

○五月廿三日

一 町奉行原伊豫守ニ於小書院逢御用談いたし候

○五月廿四日

一 文恭院様二十一回御忌御法事ニ付御由緒之方々ヲ被獻物使者持參可謁  
 之處痔疾ニ付町奉行名代ニ爲受取候

一 右同斷ニ付梅溪少將被行向公用人ニ被申置候

一去ル十八日出大和殿ヲ被指越候宿次今已中刻到來いたし候

○五月廿五日

一 町奉行關出雲守ニ於小書院逢御用談いたし候

一 奧御右筆組頭早川庄次郎奧御右筆柳澤勉次郎ニ於小書院御用談いたし  
 候



○五月廿六日

一町奉行關出雲守に於小書院逢御用談いたし候

○五月廿七日

一無記事

○五月廿八日

一去ル廿二日廿三日出大和殿を被差越候宿次今巳中刻曉子中刻到來いたし候

○五月廿九日

一無記事

○五月晦日

一無記事

○六月朔日

一月次之禮受候ニ付大書院に出席都る例之通

但今日去日蝕ニ付六ツ半時揃

一伏見奉行林肥後守町奉行關出雲守に於小書院逢御用談いたし候

一奥御右筆組頭早川庄次郎歸府明日出立ニ付於小書院逢預り置候

御朱印相渡畢る御用談等いたし候

一江戸表に申中刻宿次差立候

○六月二日

一去月廿八日出大和殿を被差越候宿次今午上刻到來いたし候

一町奉行より訴狀箱被差越開封之處訴狀無之封印仕替返却いたし候

○六月三日

一町奉行原伊豫守に於小書院逢御用談いたし候

○六月四日

一町奉行關出雲守御目付中川盛物に於小書院逢御用談いたし候

一御藏奉行假役嶋本次郎誓詞いたし候ニ付自分平服ニる上竹之間に出席



町奉行御目付出席本次郎着坐誓詞公用人讀之血判相濟御目付の公用人  
の相渡御目付より自分の爲見候付一覽之上又御目付の渡町奉行にも爲  
見其後公用人の渡本次郎誓詞被 仰付難有旨町奉行取合本次郎退坐自  
分勝手に入

○六月五日

一江戸表の宿次申中刻差立之

○六月六日

一去月晦日出大和殿を被差越候宿次去ル二日出美濃殿を被差越候宿次今  
午下刻到來いたし候

○六月七日

一去月廿七日出大和殿を被差越候宿次今巳中刻到來いたし候

○六月八日

一關出雲守水野新兵衛加納繁三郎の相達候儀有之候ニ付今日五ツ半時呼

出之儀昨日相達し置相揃候上自分平服着用大書院貳之間正面着坐公用人  
達書小廣蓋ニ載持出自分右之方ニ差置引夫の公用人案内ニ衛立際  
より出雲守末如圖出候ニ付左之通り申渡之

關 出雲守

和宮様御下向迄之間御留守居勤方被 仰付戸川播磨守申合相勤 御  
下向之節御供致し可罷下候當地町奉行并 禁裏附之勤向相兼候儀ハ  
可爲是迄之通候

右申渡候と御請申述退去

一夫の公用人案内ニ出雲守同道新衛門末如圖罷出候ニ付左之通り申渡  
之

水野新衛門

和宮様御用人被 仰付勤候内五百俵之高ニ御足高被下御役料三百俵  
被下諸大夫被 仰付其儘在京相勤 御下向之節御供いたし可罷下候



且又當分之内 和宮様御廣敷番之頭勤向々も可相心得候

右申渡候々御請出雲守取合退去

一夫の公用人案内ニ出雲守同道繁三郎末如圖罷出候ニ付左之通り申渡之

加納繁三郎

禁裏御賄頭格被 仰付 和宮様御下向迄之間被爲附御同所御賄向之

御用可相勤候

右申渡候々御請出雲守取合退去

一夫とり尙又公用人案内ニ出雲守末如圖罷出候ニ付左之通り申渡之

關 出雲守

天璋院様御廣敷添番

遠藤條五郎

堤 德三郎

宮田一衛門

湊 又右衛門

岩佐勝太郎

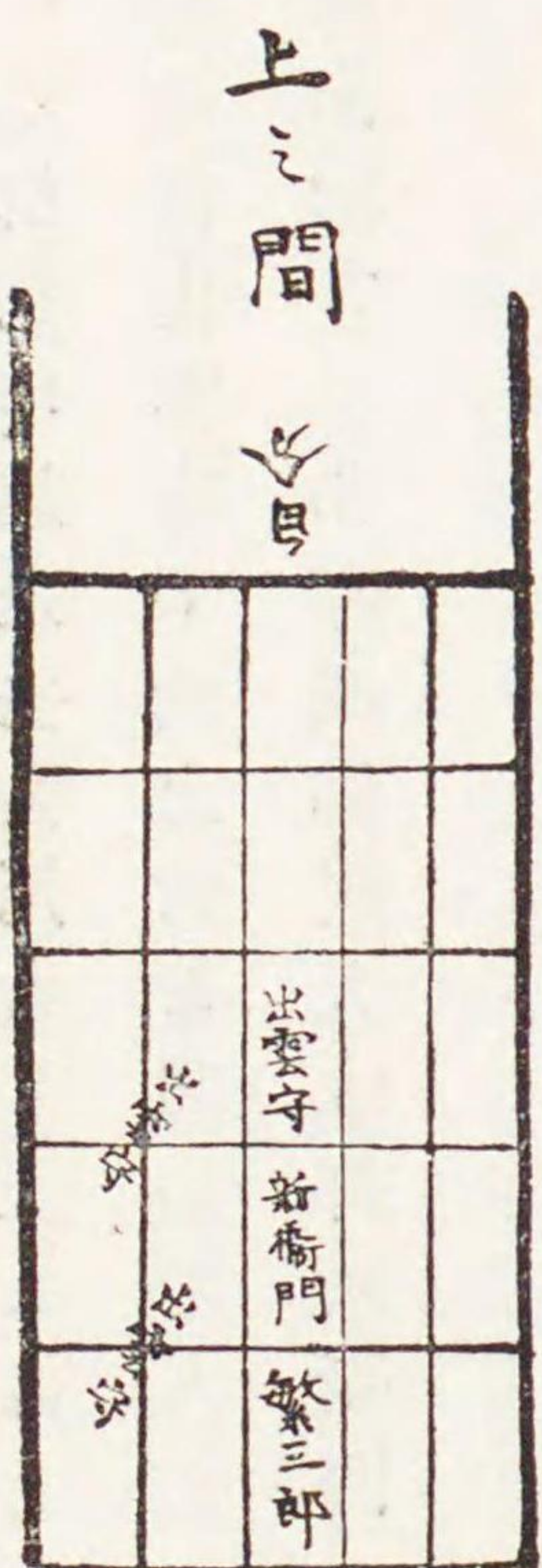
同伊賀者六人

同御小人二人

同御下男五人

和宮様附被 仰付其儘在京相勤 御下向之節御供いたし可罷下候右之通可申渡旨年寄衆より申來候間得御意可被申渡候

六月





右申渡候と御請申述退去公用人 上之口より罷出達書引自分勝手に入  
 一夫より右達書出雲守に於上竹之間公用人より相渡之○圖前頁  
 二掲載  
 一町奉行關出雲守 和宮様御用人水野新衛門に於小書院逢御用談いたし  
 候

一 去月廿九日出大和殿より被差越候宿次今未中刻到來いたし候  
 一 江戸表の宿次戌中刻差立ル  
 一 温恭院様御忌日ニ付養源院に參詣可致之處御用多ニ付其儀無之

○六月九日

一 先達の大御番頭交代相濟候付如例御城内右小屋の見廻り且御番衆にも  
 逢候付四時出宅染帷子麻上下着用北之御門ニ下乗右御門内ニ三輪嘉  
 之助出迎中井保三郎忌  
 中ニ付不罷出先立いたし貳之御門内ニ御番之頭御鐵砲奉行參府  
 中ニ付不罷出御  
 藏奉行等出居及會尺其邊の御破損奉行兩人出迎先立いたし足輕番所前  
 石橋之邊の大御番頭松平丹後守近藤遠江守出迎致會尺附添參り東番頭

小屋の見廻候ニ付丹後守ハ先の駈拔敷出し迄出迎自分刀を取取持之者  
 の渡之敷出しの鳥渡上り着坐交代濟歡相越候段申述暫通可申哉之旨丹  
 後守申聞候間直ニ罷出可申旨申達退坐

一 夫ハ二九大御番頭の相越候ニ付御臺所前邊より大御番頭先の相越敷出  
 薄縁の組頭一同出迎申候自分刀を取手ニ提乍立及會尺大御番所縁頼の  
 大御番頭兩人出居候間是又乍立及會尺大御番所御番衆並候正面の着坐  
 刀を後口ニ置番頭兩人横坐ニ侍坐御番衆ハ一同兼而並居組頭も上り追  
 追着坐番頭の組頭御番衆と被申從自分江戸表 益御機嫌能被成御坐旨  
 申達恐悅之旨番頭取合何も御無事一段之旨申聞番頭又取合有之夫ハ組  
 頭出候を見計自分坐を立退坐如初組頭送申候

一 夫より西番頭小屋に罷越遠江守先の駈拔敷出し被出居次第東之通り夫  
 の退散與力番所角邊ニ大御番頭致暇乞同所ニ御破損奉行披キ會尺  
 夫ハ嘉之助先立御門番之頭西御番所前ニ暇乞西御門御橋之上迄地役



人向送及會尺御橋外ニ乘輿歸宅

○六月十日

一町奉行原伊豫守御附阿部越前守於小書院逢御用談いたし候

○六月十一日

一町奉行關出雲守於小書院逢御用談いたし候

一江戸表刻附宿次西下刻差立

○六月十二日

一惇信院様御祥忌日ニ付知恩院參詣可致之處御用多ニ付其儀無之

○六月十三日

一本多主膳正膳所城主 六萬石近々參勤ニ付伺 御機嫌并暇乞として入來上溜通置自分平服大書院例席出坐公用人案内ニ主膳正被通關東 御機嫌被相伺候ニ付 御機嫌能被成御坐候段申達夫自分之挨拶有之相應及挨拶畢退散之節城主ニ付衝立外迄送之

但痴積氣ニ付送り無之

一江戸表宿次申中刻差立ル

一去ル七日九日出美濃殿被差越候宿次今酉中刻到來いたし候

○六月十四日

一暑中ニ付 三御所例年之通備一箱ツ、献上いたし候ニ付家老代見申付候上進獻いたし候

○六月十五日

一今日月次之禮例之通相濟候後組與力栗飯原專治番代之禮并木嶋社神服雅樂繼目之禮受候ニ付自分平服式日ニ付 子麻上下之儘大書院正面着坐近習之者後詰有之家老用人公用人内椽出席貳之間末襖壹枚開之家老壹人二之間南之方本間中程出席

栗飯原專治

右衝立之方罷出襖際ニ取次披露番代之禮家老取合可入念旨言葉遣



之又取合有之北之方襖明置方の引家老元之席の着坐右相濟る三之間襖左右の開之

木鳴社神主  
服 雅 樂

右繼目之禮取次視披露畢而襖閉之自分勝手に入

一御目付差出候訴狀箱封印ニ付中川監物三淵縫之助不快ニ付不參不入來之旨公用人案内

ニ而監物被通及挨拶公用人封印紙肉入共小廣蓋ニ載持出訴狀箱給仕方

兩人ニ而持出公用人請取上箱書付之方を御目付前に向置一覽相濟封印

紙印肉御目付の差出印形相濟公用人に被相渡公用人請取自分の爲見



但御目付壹人ニ付紙之真中の印形有之

一覽相濟封爲致候旨御目付の及挨拶公用人目通ニ而致封印切取候紙之

兩端相改自分の爲見訴狀箱を給仕方罷出引之御目付退散

○六月十六日

一江戸表の宿次申中刻差立ル

○六月十七日

一御目付差出候訴狀箱再封ニ付中川監物入來三淵縫之助ニハ不快ニ付不罷出自分平服小書

院例席の着坐鍵并印懷中公用人案内ニ而監物被通及挨拶訴狀箱公用人

差添給仕方之をの兩人ニ而持出之給仕方之者引開封可致旨及挨拶公用

人外箱之鍵小刀持出町奉行之封印取之錠前明之外箱取除内箱取出し自

分とり鍵相渡之上錠前之封印切取夫々前之錠前封切取此封印ハ御目付

印形故直ニ監物の差出被致一覽自分も被爲見懷中候と公用人上蓋を取

り監物の向差出今日ハ書狀壹封有之候ニ付直ニ監物取出し自分の持參

被爲見夫とり硯箱印肉粘料紙等用公用人に被相渡此内ニ内外之箱給仕方下ル次之

間の持出目通ニ而右筆訴狀等寫取

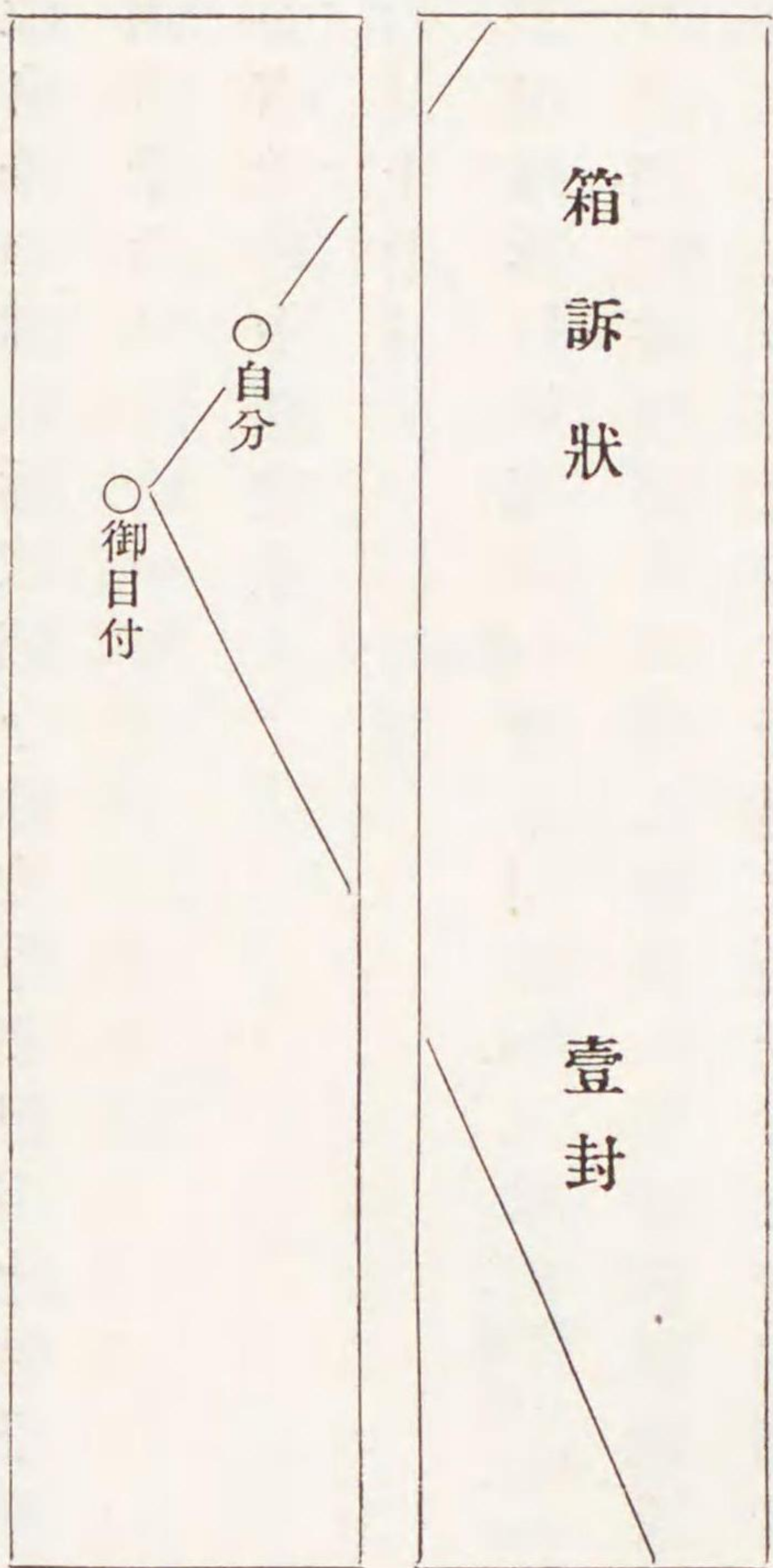


一 訴狀壹封

裏封印貳ツ

月 日

右之通美濃紙ニ認相濟公用人讀合いたし自分は爲見候付壹枚御目付の  
遣候様申聞畢而上封可致旨申付候る用意致置候小奉書ニ右訴狀旅封  
ニいたし上書左之通



右表上書認墨封なく自分の差出及挨拶自分初印監物印形相濟又自分の  
差出請取置歸府以前可相渡候間持參候上年寄衆に可差出旨及挨拶公用  
人の相渡御目付退散

一 右訴狀又自分側ニ假封いたし置今日 御朱印箱に入置追る御目付歸  
府以前相渡關東に差出候事

○六月十八日

一 町奉行兩人に逢御用談いたし候

○六月十九日

一 和宮様御下向ニ付御入用筋爲取扱御勘定奉行小笠原長門守并御勘定小  
田直太郎大竹庫三郎御普請役梶山米太郎同見習大嶋東一郎上京入來ニ  
付公用人取次染帷子麻上下着用其以下同斷

一 爲伺 御機嫌大御番頭町奉行御附水野新衛門御目付御門番之頭迄五半  
時入來之事

何町  
何  
之  
誰



一長門守以下只今到着ニ付押付可致同道旨町奉行とり公用人迄申來承知之旨爲及返答無程長門守出雲守同道染帷子麻上下着被相越直上竹之間被通 御朱印等持參之旨出雲守とり公用人を以申聞之

一御機嫌伺之面々相揃候上自分染帷子麻上下着大書院例席に出席此時公用人白木三方勝手口より持出自分右之方ニ差置夫とり公用人案内ニ而長門守罷出同人持參之 御朱印并直太郎庫三郎持參之 御朱印共一同持出同間に入自分扇子取少し進ミ候と 御機嫌之旨申聞候付恐悦之段申述復坐其節長門守自分側に進ミ 御朱印差出之同人少し下り控居預置候旨申達此時長門守とり年寄衆とり之傳言演說有之挨拶畢而自分安否相尋候ニ付相應及挨拶夫とり 御機嫌伺之面々可指出旨申述町奉行及會尺候と大御番頭始順々罷出 御機嫌相伺 御機嫌之旨申述候と自分に向恐悦之旨被申聞御門番之頭迄相濟年寄衆とり之傳言被申述但御門番之頭ハ傳言無之

一右相濟長門守貳之間に下り着坐之上公用人案内ニ而直太郎庫三郎兩人貳之間貳疊目に罷出候ニ付相應及挨拶退去引續米太郎東一郎一同入側衝立内に罷出相應言葉遣之長門守とり右之者共は逢候禮申聞畢而自分勝手に入

一自分引懸於小書院長門守に逢御用談等いたし候事  
 一長門守持參之證文并直太郎庫三郎米太郎東一郎持參之證文共一同長門守の公用人を以差出候ニ付請取置

○六月廿日

一町奉行關出雲守に於小書院逢御用談いたし候  
 一有徳院様御祥忌日ニ付養源院に參詣可致之處御用多ニ付其儀無之

○六月廿一日

一御移徙相濟候爲御祝儀御由緒之方々被獻物使者并梅溪少將被行向候

梅 溪 少 將



右已刻被參自分染帷子半袴着竹屋口注進ニ如例杉戸内迄出迎大書院於例席御祝儀被申述及挨拶被歸候節上溜前迄送之

- 一條殿 一條大納言殿
- 萬津宮 有栖川宮
- 帥宮 妙勝定院宮
- 岸君 伏見殿
- 仁和寺宮 知恩院宮
- 近衛殿 近衛入道前左大臣殿
- 鷹司殿 鷹司入道准后殿
- 同政所 中宮寺宮
- 圓照寺宮 微妙覺院御方
- 一乘院門跡 興正寺瑞華院

- 廣幡阜淨觀院 醍醐慈雲院
- 勝興寺蓮生院 久我麗君
- 廣幡靜君 興正寺三千君
- 法華寺五十君

右被獻物ハ大書院上之間入側ハ毛氈敷並置自分大書院正面ハ着坐右使者壹人ツ、罷出取次引披露畢ハ自分前ハ進ミ口上申述目錄差出候ニ付受取目錄箱ハ入候分ハ口上計述之

但被獻物可遂披露旨及挨拶

一江州勢田兩橋御普請并橋附兩社等御修覆出來榮見分被 仰付候旨申渡

監物ハ直達相渡御請申述之退去

但前日御目付ハ呼出之手紙遣之

一町奉行ハ訴狀箱被差越開封之處訴狀無之封印仕替返却いたし候

一江戸表ハ宿次酉上刻差立之



○六月廿二日

一去ル三日出美濃殿を被指越候宿次今辰上刻到來いたし候  
一町奉行關出雲守に於小書院逢御用談いたし候

○六月廿三日

一御勘定奉行小笠原長門守に於小書院逢御用談いたし候

○六月廿四日

一去ル廿日出美濃殿を被差越候宿次今申中刻到來いたし候  
一江戸表に宿次申中刻差立ル

○六月廿五日

一無記事

○六月廿六日

一無記事

○六月廿七日

一暑中爲 御尋今日從 禁裏 親王 准后致拜領物候ニ付御臺所口に見  
歩使壹人ツ、附置并竹屋口見歩使附置白洲敷出し門内外に飭手桶出し  
立番人留等差出御臺所口に之見歩使歸候に染帷子長袴着用大書院廊下  
ニ待合 御使より少し前ニ拜領物之御品來候付敷出ニ徒士請取之  
取次附添上溜前杉戶外迄持來ル同所ニ給仕方受取公用人附添大書院  
上段ニ兼出し置候盤臺之上ニ飭之北之方廊下ニ控罷在竹屋口見歩使  
罷歸白洲東之方ニ取次貳人西之方ニ用人壹人公用人貳人罷出家老壹人  
敷出し端に迎公用人先立いたし案内上溜前廊下ニ刀被置自分杉戶外  
迄立向此時案内之公用人渡邊大炊助殿と披露夫より大書院例席北側へ  
着坐御使貳之間敷居際に被控居候間及會尺候と對坐位ニ進候間自分も  
扇子取少進着坐 御使長橋局より御口上被申述少し退坐自分上段際に  
進拜領物之品頂戴畢に復坐御禮可申上旨及會尺御使元之席に被附其節  
自分進ニ御請申述之



益御機嫌能被成御坐恐悅奉存候暑中爲 御尋以 御使一種頂戴仕難  
有仕合奉存候此段長橋局迄宜御沙汰頼入候

右之通申述被歸候節式臺迄送之家老用人公用人取次最初之通白洲に罷  
出

但 御使被歸候と北之廊下に退坐在給仕方早速上段之拜領物小書院  
床に持參見番いたし候事

一禁裏 御使對話之内引續外 御所より一緒ニ被參候歟或ハ拜領物より  
先の 御使被參候節ハ上溜に通し置拜領物等大書院床に飭之相濟る

出迎いたし候事

一從 親王御方 御使虫鹿織部正ヲ以拜領物有之候付半袴着用引續御使  
被參候得  
ハ長袴  
之ま杉戸内迄立向被歸候節中溜前迄送之 御使上臈局より口上被申  
述候付御請も上臈局迄と申述之外次第同斷

但 御使被參候節ハ用人公用人取次敷出し上に出迎家老下坐敷迄罷

出公用人先立被歸候節送り同斷

一從 准后 御使岡本河内介を以拜領物有之次第同斷上臈方より口上  
被申述候ニ付御請も上臈方迄と申述其外次第同斷

但 御使被參候節家老用人公用人取次出迎送等前同斷

一今日拜領物之爲御禮傳 奏衆に相越可申之處痔疾氣ニ付其儀無之

一御附に右拜領物之儀爲吹聽以使者申遣之

一兩御所 親王御方御使に干鯛壹折金三百匹ツ、以使者遣之

一禁裏に水砂糖御進獻ニ付女房奉書申刻前後來候ニ付自分平服大書院例

席に着坐女房奉書入候長箱机に載之公用人持出右之方ニ置之雜掌兩人

貳之間末襖際に罷出尤披露無之是に与會尺兩人側に進ミ奉書箱封之儘

差出候ニ付請取之封印解キ印形相改奉書取出し此方長箱に入封印ハ元

之箱に入紐結候差戻相濟る女房之奉書被差越關東に相達可申旨及返答

雜掌兩人退坐自分退入小机奉書箱ハ公用人引之



一和宮様御下向御用ニ付御留守居戸川播磨守并御廣敷番之頭御用達其外共今日上京播磨守入來ニ付先達而町奉行關出雲守罷越都合宜候ハ、案内可申遣旨公用人迄申聞候付其通可致旨及挨拶無程播磨守罷越上竹之間ニ相通 御朱印等持參候旨出雲守ハ公用人ヲ以申聞之

一自分平服着大書院例席へ出坐此時白木三方勝手口より公用人持出自分右之方ニ指置夫ハ公用人案内ニ而播磨守罷出自分側ニ進ミ同人持參之御朱印并御廣敷番之頭等へ被下之 御朱印共一同持出夫々差出し少下り控居預り置候旨申達相濟自分安否相尋候ニ付相應及挨拶播磨守引夫より水野佐渡守罷出 御用達ニ被下之 御朱印指出候ニ付是又預り置候旨申達佐渡守引自分勝手ニ入

一自分引掛於小書院播磨守ニ逢御用談等いたし候事

一播磨守持參之御證文并其外持參之證文共一同播磨守より公用人を以差出候付請取置

一町奉行關出雲守ニ於小書院逢御用談いたし候

一江戸表ニ宿次西上刻差立ル

○六月廿八日

一奥御右筆柳澤勉次郎ニ於小書院逢御用談いたし候

○六月廿九日

一去ル廿五日出美濃殿ハ被差越候次宿次今未上刻到來いたし候



所司代日記第十一

(自文久元年七月朔日至同年九月晦日)

○七月朔日

一月次之禮受取候付大書院に出席都而例之通相濟

但近藤遠江守不快ニ付入來無之

一引續妙傳寺繼目之禮受候付自分平服式日ニ付麻上下之儘大書院正面着家老用人公用人内椽に罷出近習之者後詰有之三之間襖左右に開之

妙傳寺

右三之間より貳之間三疊目に直披露繼目之禮申述退去

但言葉無之

一和宮様御廣敷番之頭大谷木安左衛門三橋貫之進同御用達石倉小三郎山田金之助に逢候付戸川播磨守水野佐渡守召連罷出自分平服式日ニ付麻上下之儘大



書院例席着坐公用人案内ニ播磨守同間敷居内ニ着坐安左衛門貫之進  
 兩人貳之間上より貳疊目ニ罷出候付相應及挨拶播磨守取合退坐播磨守  
 ニも引夫より佐渡守貳之間敷居際ニ着坐小三郎金之助前同所ニ罷出候  
 付是又相應及挨拶佐渡守取合退坐佐渡守引自分勝手入  
 一御留守居戸川播磨守町奉行關出雲守奥御右筆柳澤勉次郎ニ於小書院人  
 別ニ逢御用談いたし候

○七月二日

一御勘定奉行小笠原長門守ニ於小書院逢御用談いたし候  
 一町奉行より訴狀箱被差越開封ニ處訴狀無之封印仕替返却いたし候

○七月三日

一暑中爲伺 御機嫌梅溪少將被行向候付出會可致之處痔疾氣ニ付其儀無  
 之被申置候  
 一江戸表ニ酉上刻宿次差立之

○七月四日

一相替儀無之

○七月五日

一相替儀無之

○七月六日

一町奉行關出雲守ニ於小書院逢御用談いたし候

○七月七日

一今日七夕ニ禮受候付四時頃白帷子半袴着用  
 一表出禮之者相揃候段茶屋四郎次郎名代之者公用人ニ申聞折本差出之宜  
 旨公用人ニ申聞之  
 一小書院正面ニ着坐貳之間襖左右ニ開之襖際北ニ方公用人壹人南ニ方ニ  
 取次出居三寶寺罷出取次披露目出度ニ言葉遣之鍵屋九左衛門定職人並  
 悴共罷出取次披露言葉無之夫ニ大書院出掛手水ニ間取次披露



勝手通之

町人共

一寸膝を突目出度と言葉遣之公用人取合いたし候  
 一大書院例席着坐大御番頭始地役之面々順々罷出七夕之祝詞申述目出度  
 旨及挨拶布衣以上之衆安否被尋候得ハ無御障哉と及挨拶御番之頭より  
 以下御祝詞申述候節目出度と計申安否尋候向ハ御無事と及挨拶  
 一大書院内椽の家老用人公用人出席自分上段際正面临着坐貳之間末北之方  
 襖壹枚開之取次引出初一頬取次御組與力と披露與力五人ツ、一同衝立  
 際ハ順々罷出目見北之方ハ引言葉無之  
 一右畢ハ北之方襖開之取次引披露大久保大隅守與力長屋左平太阿部越前  
 守組與力窪田政右衛門貳之間壹疊目ニハ目出度と言葉遣之  
 一右畢ハ三之間襖左右ハ開之三之間ニハ諸町人社人共取次視披露目通申  
 付いづをも言葉無之畢ハ襖閉之衝立之内公用人壹人罷出取次障子際ニ

名披露

上 雑色  
 上 町代  
 一右畢ハ衝立開之自分立坐三枚杉戸敷居際北之方ハ公用人南之方ハ取次  
 罷出下雑色と名目披露

下 雑色

一右相濟公用人壹人上溜内椽南向出居取次北向ニ罷出通り下町代と名目  
 披露

下 町代

右相濟上溜之間より勝手ハ入

但林肥後守近藤遠江守ニハ不快ニ付入來無之

一町奉行關出雲守ハ於小書院逢御用談いたし候

一去月廿九日出美濃殿より被差越候宿次今亥下刻到來いたし候



○七月八日

一 温恭院様御忌日ニ付養源院に參詣可致之處御用多ニ付其儀無之  
一 江戸表に宿次戌上刻差立之

○七月九日

一 去月廿五日出美濃殿より被差越候宿次今曉寅中刻到來致候

○七月十日

一 去月廿七日出美濃殿より被差越候宿次今曉子上刻到來いたし候

○七月十一日

一 町奉行關出雲守に於小書院逢御用談いたし候

○七月十二日

一 御勘定奉行小笠原長門守に於小書院逢御用談いたし候

一 關東に宿次酉中刻差立之

○七月十三日

一 町奉行の訴狀箱被差越開封之處訴狀無之封印仕替返却いたし候

○七月十四日

一 無記事

○七月十四日

一 例年之通刺鯖進獻いたし候付家老に代見申付候上 御所使を以進獻いたし候

○七月十六日

一 去ル五日七日九日出紀伊守殿より被差越候宿次今未之中刻到來いたし候

○七月十七日

一 御代替ニ付 御判物 御朱印改ニ付妙法院門跡并同宮抱寺蓮華王院分  
共御本書役者持參受取候ニ付辰半刻使者罷出候上自分平服大書院例席  
に着坐前ニ文臺一脚差置帳面壹冊載下ニ料紙硯箱置右之脇ニ白木三方



出し置使者取次引披露是いと及會尺 御判物 御朱印箱之儘持出自分  
前ニ有之文臺之上ニ載少し退扣罷在

但外ニ添候書付有之時ハ文臺之脇ニ差置夫ハ文臺之上ニ  
御判物等箱之紐を解蓋を取通數を帳面と引合無相違候ハ、如元箱ニ入  
紐を結び請取候旨申達使者退去

但 御判物箱之儘白木三方ニのせ小書院床ハ公用人持運

夫ハ引懸小書院ハ出坐文臺之脇ニ三方ニ載差置自分箱之紐を解蓋を取  
御判物 御朱印等取出し 御代々様御順々壹通ツ、文臺之上ニ置寫ハ  
毛氈之上ニ置之公用人壹通ツ、讀之自分 御本書を扣校合いたし相濟  
元之如く仕舞退入

一校合之上若し不審之儀も候ハ、使者ハ公用人より掛合口上ニ難相分  
時ハ書付爲差出候事

一妙法院門跡使者爲待置 御判物 御朱印改相濟候ニ付大書院例席ハ出

坐前ニ文臺差置公用人 御判物 御朱印持出文臺之上ニ置之取次引披  
露是いと及會尺自分前ニ進ミ候時寫相違無之ニ付御本書返却候旨申達  
手自渡之受取持引夫ハ自分勝手ハ入

但使者出候時 御判物等請取候節若し改候者次ハ持退改候様兼ハ公  
用人より申達置候事

○七月十八日

一町奉行關出雲守ハ於小書院逢御用談いたし候

一關東ハ戌上刻宿次差立之

一去ル三日十一日出紀伊守殿より被差越候宿次今曉丑中刻到來いたし候

○七月十九日

一無記事

○七月廿日

一御勘定奉行小笠原長門守ハ於小書院逢御用談いたし候



一去ル十日出紀伊守殿より被差越候宿次今亥上刻到來いたし候

○七月廿一日

一町奉行より訴狀箱被差越開封之處訴狀無之封印仕替返却いたし候

○七月廿二日

一御進獻之御馬貳疋今辰半刻着宰領織田直吉使者之間に罷通公用人罷出  
諏訪部彌三郎より之書狀受取之御馬毛附並諸道具書付共馬役之者請取  
之

一御馬(不明) 洗相濟自分平服ニ大書院上之間椽頬に出席馬役指添厩小頭口  
附庭に牽入一之御馬二之御馬共一覽畢上之間例席正面に着坐御馬宰  
領之もの衝立脇より貳之間末壹疊目ニ取次引披露自分御馬無恙着一  
段之旨及挨拶宰領退去自分勝手に入

一右引掛於小書院御留守居戸川藩磨守に逢御用談いたし候

一慎徳院様御忌日ニ付知恩院に參詣可致之處御用多ニ付其儀無之

一去ル十七日出紀伊守殿より被差越候宿次今午中刻到來いたし候

○七月廿三日

一和宮様御結納被爲濟候爲御祝儀御由緒之方々より被獻物使者并梅溪  
少將被行向候處風邪氣ニ付町奉行原伊豫守に名代之儀申付夫々相濟

梅溪	少將
當番ニ付名代	
同侍	從
有栖川宮	
帥宮	
妙勝定院宮	
岸君	
伏見殿	
伏見入道宮	
同御息所	



近衛殿  
 近衛入道前左大臣殿  
 鷹司殿  
 鷹司入道准后殿  
 同政所  
 仁和寺宮  
 中宮寺宮  
 圓照寺宮  
 廣幡皇淨觀院  
 廣幡靜君  
 醍醐慈雲院  
 久我麗君

一御縁組被 仰出候爲御祝儀御由緒之方々より使者自分御役宅に被差出

候處風邪氣ニ付町奉行原伊豫守に名代之儀申付夫々相濟

仁和寺宮  
 微妙覺院御方  
 興正寺瑞華院

一關東に申中刻宿次差立之

○七月廿四日

一去ル十八日出紀伊守殿に被差越候宿次今曉寅之中刻到來いたし候

○七月廿五日

一八朔御進獻之御馬爲見分大御番頭町奉行御附入來自分出席可致之處風邪痔疾氣ニ付其儀無之

一稻葉長門守在邑ニ付爲伺 御機嫌出京入來ニ付可謁之處右同斷ニ付其儀無之

○七月廿六日

所司代日記第十一



一無記事

○七月廿七日

一關東の亥上刻宿次差立之

一去ル廿一日出紀伊守殿より被差越候宿次今亥中刻到來いたし候

○七月廿八日

一今日 禁裏の御茶御進獻ニ付女房奉書被差越候處自分不快ニ付以家老名代爲請取候事

一關東の申刻宿次差立之

○七月廿九日

一去ル廿三日出紀伊守殿より被差越候宿次今曉寅上刻到來いたし候

○七月晦日

一無記事

○八月朔日

一今寅刻東洞院五條下ル處出火有之壹手人數出候處無程消火いたし候

一御獻馬見分可致之處不快ニ付家老の代見申付候

一當日之禮可受之處右同斷ニ付其儀無之何も被申置候

但近藤遠江守不快ニ付入來無之

一例年之通關東の被進候橋折枝傳 奏衆雜掌持參之處右同斷ニ付家老名

代ニる請取之

○八月二日

一町奉行より訴狀箱被差越開封之處訴狀無之封印仕替返却いたし候

一關東の宿次申上刻差立之

○八月三日

一加藤越中守在邑ニ付爲伺 御機嫌出京入來之處不快ニ付公用人を以御機嫌能旨申達之

一町奉行關出雲守の於小書院逢御用談いたし候



○八月四日

一御勘定奉行小笠原長門守に於小書院逢御用談いたし候

○八月五日

一關東の兩街道より刻付宿次申下刻差立之

一去ル朔日出豊前殿より被差越候宿次今申下刻到來いたし候

○八月六日

一御勘定奉行小笠原長門守町奉行關出雲守に於小書院人別ニ逢御用談いたし候

一關東に刻付宿次亥下刻差立之

一去月廿六日廿七日出紀伊守殿より被差越候宿次今未下刻戌下刻到來いたし候

○八月七日

一長崎奉行高橋美作守今度御役所に罷越候付出京今日入來對話之儀昨日

町奉行を以申聞候付今日五ツ半時相越候様同人に申達之

一美作守旅宿迄到着ニ付押付可致同道旨町奉行の公用人迄申來候付勝手

次第相越候様公用人より及返答

一無程美作守町奉行同道ニ相越直ニ上竹之間に被通公用人の口上申置之

但勝手通兼の相濟候付如本文

一自分麻上下着例平服之處引續キ小書院ニテ口宣相渡候都合も有之候付如本文大書院例席に着坐町奉行差引

ニ美作守罷通關東御機嫌之儀被申置候と恐悦之旨自分申置之畢る年寄衆より之傳言有之御役儀之御禮申聞相應及挨拶退坐

一右相濟竹之間に引夫より自分小書院に出席口宣白木三方ニ載公用人

勝手口より持出右之方に差置公用人案内ニ美作守罷出口宣相渡之頂戴退引之節同間之内少々送之

一御目付中川監物下坂いたし候付爲暇乞入來於小書院御用談等いたし御



城代御定番等之傳言等申置歸り之節同間之内少々送之

一御勘定奉行小笠原長門守御勘定小田直太郎之於小書院逢御用談いたし候

一關東之戌下刻宿次差立之

一去ル三日出豊前殿より被差越候宿次今申上刻到來いたし候

○八月八日

一町奉行關出雲守之於小書院逢御用談いたし候

一温恭院様御忌日ニ付養源院之參詣可致之處御用多ニ付其儀無之

一去月廿八日出紀伊守殿之被差越候宿次今卯上刻到來いたし候

○八月九日

一和宮様 内親王 宣下ニ付爲御禮 御使高家大澤右京大夫今日到着白

宅之被參候ニ付公用人取次染帷子麻上下着用以下同斷

一大書院小書院之刀掛一宛出置

一爲伺 御機嫌御留守居戸川播磨守大御番頭町奉行御附御用人水野佐渡

守御門番之頭迄五半時入來之事

一右京大夫着ニ付可相越旨使者來ル是より案内可致旨申遣候事

一伺 御機嫌之面々相揃候付此方宜候間被參候様右京大夫之案内以使者申遣

一旅宿出宅見歩使并二條口同斷附置

一右京大夫出宅見歩使相歸申達候付公用人兩人取次兩人白洲之罷出取持之乘式臺迄出迎町奉行廊下疊之上拭板之寄候方之出迎戸川播磨守より御門番之頭迄上中溜縁頼通列坐

但先達之公用人壹人給仕方之者壹人上溜之内ニ扣居出迎之節上溜前之刀被差置其節右給仕方之者罷出刀持之大書院入側刀懸ニ掛置直ニ上溜前之引扣罷在小書院之誘引之節又刀持之

一自分染帷子半袴着二條口見歩使注進ニ大書院杉戸内迄出迎右京大夫



町奉行案内ニ被通刀上溜前ニ置會尺有之候間自分よりも及會尺直案内いたし大書院例席に着坐右京大夫内縁の方對坐自分扇子取少し進右京大夫ニも被進 御機嫌相伺候と 御機嫌能旨演說有之自分恐悅之旨申述之畢而復坐夫々自分之奉書被差出受取之此節公用人小廣蓋上之口より持出引之年寄衆より之傳言演說有之挨拶畢而 御機嫌伺之面々可差出旨申述衝立際之町奉行に及會尺候と戸川播磨守より順々罷出 御機嫌能旨申達候と自分に向恐悅之旨申聞候間輕及會尺次ニ年寄衆より之傳言被申述御門番之頭迄相濟尤御門番之頭ハ傳言無之畢而小書院に右京大夫誘引同人刀給仕方之者持之刀懸に掛置退双方挨拶申述且高家衆之傳言被申述持參之御用物箱公用人持出取持之者に相渡取持より右京大夫に相達左之通右京大夫差出

- 一 和宮様 内親王 宣下ニ付爲御禮被進物覺書
- 一 御口上書

一 銀證文

一 御納戸頭より之銀證文

一 右京大夫献上物書付

右之通差出候間請取之献上物伺之儀ハ先格之通たるへき旨直及差圖右書付共自分右之方の差置勝手口より公用人小廣蓋持出引之畢而町奉行被通候様公用人を以申達此節右京大夫に相應及挨拶勝手に入見計熨斗鮑三方持出引町奉行出坐多葉粉盆茶出之此節御附罷出挨拶引候と町奉行にも多葉粉盆茶出暫見合多葉粉盆引之町奉行退坐自分出坐及挨拶右京大夫退去之節公用人小書院廊下ニ扣罷在先立給仕方之者刀持之自分上溜前迄送町奉行使者之間前に列坐取持兩人式臺に如最前公用人白洲に出ル

但林肥後守近藤遠江守不快小笠原長門守關出雲守ニハ外御用ニ付入來無之



- 一 御留守居戸川播磨守に於 小書院逢御用談いたし候
- 一 去ル五日出豊前殿より被差越候宿次今申下刻到來いたし候
- 一 關東に酉上刻宿次差立之

○八月十日

- 一 去ル五日出豊前殿より被差越候宿次今子上刻到來いたし候

○八月十一日

- 一 今度 和宮様 内親王 宣下ニ付爲御禮 御使大澤右京大夫同伴參内いたし候ニ付染帷子麻上下着用五ツ時出宅供廻り惣上下着施藥院に相越同所門内の施藥院出迎候間及會尺取持三輪嘉之助中井保三郎下坐敷迄出迎候間是又及會尺刀取持之内に相渡之壹人ハ先立いたし書院に罷通

但右京大夫先達を被參居候ハ、玄關上取附之間迄出迎有之候間下ニ居及會尺

- 一 夫々書院次之間正面襖際に着坐刀取持之者持參後口ニ置之右京大夫出坐相應及挨拶先方よりも今日心添之儀厚被申述候ニ付後刻之進退等申談相濟而退坐自分ハ書院上之間休息所に入右京大夫ニも表坐敷休息所に被引候

- 一 於休息所取持之者并施藥院に逢相應及挨拶

- 一 同所に參着之案内御附に公用人ハ以奉札申遣之

- 一 御附入來之旨公用人申聞候ニ付右京大夫に取持之者を以及案内書院貳之間障子之方に罷出候後自分正面襖際に出坐御附兩人一同逢及挨拶今日之御次第相尋相替儀無之旨申聞候と相應及挨拶右京大夫ニも挨拶有之退坐自分休息所に入

- 一 時刻見合右京大夫并御附取持之者の支度差出自分も辨當相用候

- 一 見計髪結直し衣冠ニ着替いたし其段取持を以右京大夫に爲相知候

- 一 傳 奏衆より雜掌を以參 内時刻宜趣被申越候付右京大夫にも相通シ



貳之間障子際に被出候と自分太刀提出正面襖際に着坐太刀ハ脇ニ差置之雜掌敷居外に出候と傳 奏様雜掌衆と公用人披露是れと及會尺内に入候と御口上之趣致承知候追付參 内可致旨及挨拶右京大夫ニも挨拶有之雜掌退去

一夫より程合宜趣取持之者申聞候ニ付挨拶之上右京大夫は一寸及會尺自分先ニ立右京大夫一同太刀提出取持并施藥院等送り出迎之通尤沓用之外ニ乘輿大小ハ袋に入駕籠脇之者持之右京大夫ニも引續被參候  
一御唐門外ニ下乗沓用之太刀左ニ提中啓右ニ持自分右ニ立右京大夫一同平唐御門通り參 内

但雨天ニ候ハ、革沓用之

一御唐門内ニ御附出迎候間及會尺御車寄脇に御内之もの出居輕ク及會尺平唐御門内ニ御附與力諸大夫之間階下ニ雜掌罷出是又及會尺同所ニ太刀公用人の相渡是より御使之儀ニ付右京大夫先ハ昇殿自分跡より相

越椽上ニ非藏人出迎候間乍立及會尺同人案内ニ鶴之間に通り御庭之方を後口ニして右京大夫上坐自分次ニ着坐

一非藏人を以傳 奏衆に申込候處無程兩卿出會廣橋差合ニ付今日ハ坊城計其節自分少進ミ右京大夫同伴參 内いたし候旨申述之夫より同人に御口上を申候ハ、尙又同人被進御口上被申述次ニ 和宮様 天璋院様より御口上被申述右之内自分も手を突罷在傳 奏衆可及言上旨ニ復坐夫より自分之挨拶有之相應及挨拶

一議 奏衆昵近之衆出會關東御靜謐之段被申述候と 御機嫌能旨申述

一梅溪少將出會被伺 御機嫌候ハ、前同様申達

但右京大夫由緒之衆被逢候節ハ廊下ニ被逢候

一傳 奏衆再出會 御口上之趣被及言上候處後刻可有御對面之旨被申聞  
右京大夫伏承之自分も手を突罷在兩卿退入

一小御所 出御之後傳 奏衆鶴之間に被相越誘引ニ取合下北之方列



坐

一御進獻之御目錄傳 奏衆披露此時右京大夫於御中段被拜 龍顔復坐  
但 和宮様 天璋院様御進獻物ハ預置東廂

一自分之御禮貫首申次ニ傳 奏衆會尺右京大夫獻上之太刀折紙自身持  
出御中段御闕内ニ置廂ニ退被拜 龍顔尤膝行膝退ニ元之處ニ復坐引  
續キ自分ニ傳 奏衆會尺有之候間中啓持之如例膝行ニ於廂拜 龍顔  
膝退左リ廻リニ起坐元之處ニ復坐

但獻上物無之

一御長柄出候様子ニ傳 奏衆會尺ニ右京大夫罷出於御中段壹疊目  
天盃頂戴之膝行膝退夫より自分ニ傳 奏衆會尺有之中啓差置罷出膝行  
御中段壹疊目ニ出貳疊目ニ掛リ候程ニ進ミ御長柄左之方ニ出居候間右  
口ニ載有之候

天盃を取御上段之方ニ向直リ戴キ都合三獻相濟又御上段之方ニ向直リ

御土器左之手ニ載平伏右之手添御敷居外ニ膝退左リ廻リ起坐取合廊下  
元之處ニ復坐御土器ニ有之御酒を掌中ニしたみ給右御土器ハ非藏人  
相渡用意之檀紙ニ包ミ家來ニ相渡

一右相濟鶴之間ニ復坐此時より自分上坐傳 奏衆被出自分右京大夫一同

少し進ミ出拜 龍顔 天盃頂戴仕難有仕合之旨一同御禮申述復坐

一傳 奏衆ニハ 准后御殿ニ被參候ニ被待合候旨ニ扨拶之上退入

一夫より供宜旨非藏人申聞候と自分先ニ立諸大夫之間口より退出階下  
り自分右ニ立香用之太刀携之送り出迎之通及會尺唐御門外ニ乘輿

親王 御方之次第  
准后

一親王 准后御殿ニ參上御門外ニ下乘自分右ニ立御車寄敷石ニ沓脱  
之此處より右京大夫先ニ被立太刀携候儘上リ敷出ニ取次出迎乍立會尺  
階上ニ御附出迎下ニ居及會尺直案内ニ御客之間ニ通り御障子を後口



ニして右京大夫上坐次ニ自分と着坐太刀ハ後ニ差置

一傳 奏衆出會自分御口上をと申之右京大夫進ミ出御口上被申述次

ニ 和宮様 天璋院様より之御口上被申述其節自分も手を突罷在

一右相濟可被言上旨ニ兩卿退入

一肝煎三卿衆被出關東御靜謐之段被申述候ハ、御機嫌能旨申達

一傳 奏衆更ニ出會御口上之趣被申上 御返事追可被 仰出之旨被申

述右京大夫進坐伏承之自分も少し進ミ手を突罷在畢而復坐挨拶之上兩

卿退入

一准后御方上臈出會此方兩人銘々口祝有之相濟右京大夫御口上をと

申候同人進坐御口上被申述次ニ 和宮様 天璋院様より之 御口上

被申述其節自分も手突罷在

一右畢可被及言上旨ニ上臈退入 上臈再出會 御口上之趣被申上

御返事追可被 仰入之由被申述右京大夫進坐伏承之自分も少し進ミ

手を突罷在相濟復坐上臈尙又挨拶有之退入

一右相濟傳 奏衆出會自分より今日萬端無滯相濟候禮段々世話ニ相成候

挨拶も申述右京大夫ニも同様被申述供宜旨ニ付自分先ニ立退散御門外

ニ而乘輿施藥院之相越可申處都合ニ直ニ 關白殿傳 奏衆之廻勤何

も手扣を以申置歸宅

關白殿之

今日大澤右京大夫同伴參 内仕候處奉拜 龍顔 天盃頂戴 親王

准后之も參上難有仕合奉存候右爲御禮伺公仕候

八月十一日

名

傳 奏衆之

右同文言 致伺公候

一御勘定奉行小笠原長門守御勘定小田直太郎大竹庫三郎御普請役梶山榮  
太郎同見習大嶋東一郎明十二日發足罷下り候付先達而差出置候 御朱



印爲請取長門守相越自分平服大書院例席に着坐長門守持參之 御朱印  
共白木三方に載公用人勝手上之口より持出右之方ニ差置公用人案内ニ  
る長門守貳之間敷居際に罷出是れと及會尺側に進ミ候付 御朱印相渡  
復坐暇乞等相應及挨拶退去之節坐中少々送自分勝手に入  
但長門守持參之證文并直太郎庫三郎米太郎東一郎持參之證文共長門  
守の公用人を以相渡之  
一關東の宿次子下刻差立之

○八月十二日

一無記事

○八月十三日

一中井保三郎跡目申渡候付今五半時呼出之儀達置自分平服大書院貳之間  
正面着坐關出雲守原伊豫守北側ニ出席保三郎罷出左之通申渡難有旨御  
禮町奉行取合申述町奉行の書付相渡之出雲守伊豫守退坐畢亦自分勝手

の入

小膳養子 中井保三郎

右小膳取來地方並御扶持方保三郎に被下如養父時可相渡候

- 一和宮様御用人水野佐渡守の口 宣等相渡候付自分麻上下着小書院正面  
着坐口 宣等白木三方ニ載公用人勝手口より持出右之方ニ差置公用人  
案内ニ亦佐渡守罷出口 宣等可相渡旨申聞同人進候付三方之儘渡之
- 一右畢亦於同所原伊豫守に逢御用談いたし候
- 一町奉行より訴狀箱被差越開封之處訴狀無之封印仕替返却いゑし候
- 一關東の宿次申刻差立之
- 一去ル九日出豊前殿より被差越候宿次今戌上刻到來いたし候

○八月十四日

- 一町奉行關出雲守の於小書院逢御用談いたし候
- 一關東の刻附宿次已下刻差立之



一去ル十日出豊前殿より被差越候宿次今未之中刻到來いたし候

○八月十五日

一月次之禮例之通相濟大御番頭兩人此間相殘候組頭同道相越候付大書院例席着坐平服之處式日ニ付麻上下之儘松平丹後守近藤遠江守出席公用人壹人衝立際之罷出夫より組頭壹人ツ、罷出内椽貳本目柱際ニ銘々名披露貳之間敷居外之着坐不殘着坐之上丹後守遠江守より組頭共と披露勤向可入念と相應及挨拶兩人より取合有之何も退坐丹後守遠江守引自分夫より正面着坐家老用人公用人内椽之出席近習之者後詰有之三之間襖左右之開之

頂 妙 寺

右三之間より貳之間三疊目之罷出直披露繼目之禮申述衝立之方之引但言葉無之

○八月十六日

一月次進獻いたし候鮮鯛家老之代見申付候上 御所使を以進獻いたし候

一 高家大澤右京大夫今日參 内 御返事被 仰出御暇被下明日出立ニ付爲暇乞入來ニ付面會可致之處御用多ニ付其儀無之  
一 町奉行關出雲守之於小書院逢御用談いたし候  
一 關東之戌下刻宿次差立之

○八月十七日

一 禁裏附大久保大隅守御用有之候付出府可致旨老衆より奉書到來いたし候旨ニお持參ニ付一覽之上直ニ返却いたし候  
一 去ル十三日出豊前殿より兩街道之被差立候宿次東海道之方已上刻中山道之方未中刻到來いたし候

○八月十八日

一去ル十二日出豊前殿より被差越候宿次今曉丑上刻到來いたし候

○八月十九日

一 御代官石原清一郎小堀數馬布衣被 仰付候段申渡候ニ付今五ツ半時呼



出之儀昨夕町奉行より達置罷出候付自分平服大書院貳之間正面に着坐  
町奉行關出雲守原伊豫守北之方襖際に出席左之通申渡

御代官

石原清一郎

和宮様御下向御用格別出精相勤候ニ付別段之譯を以布衣被 仰付之  
向後所司代支配と可相心得候

右申渡伊豫守御禮申述引

御代官

小堀數馬

前同文言

右申渡伊豫守御禮申述引夫を申渡書付伊豫守に相渡之自分勝手に入  
一關東に酉下刻宿次差立之

○八月廿日

一町奉行關出雲守に於小書院逢御用談いたし候  
一去ル十四日出豊前殿より被差越候宿次今午中刻到來いたし候

○八月廿一日

一町奉行より訴狀箱被差越開封之處訴狀無之封印仕替返却いたし候

○八月廿二日

一慎徳院様御忌日ニ付智恩院に參詣可致之處御用多ニ付其儀無之

○八月廿三日

一町奉行原伊豫守に於小書院逢御用談いたし候

一去ル十九日出豊前殿より被差越候宿次今午下刻到來いたし候

○八月廿四日

一奈良奉行根岸肥前守御用召ニ付參府出京入來公用人を以申込候ニ付自  
分平服於小書院逢相應及挨拶年寄衆に傳言申述之退散之節坐中少々  
送之

一奥御右筆柳澤勉次郎に於小書院御用談いたし候

一關東に宿次酉下刻差立之



一去ル十六日出豊前殿より被差越候宿次今酉下刻到來いたし候

○八月廿五日

一無記事

○八月廿六日

一去ル十六日出豊前殿より被差越候宿次今卯下刻到來いたし候

○八月廿七日

一無記事

○八月廿八日

一禁裏御附大久保大隅守御用召ニ付參府明日出立ニ付爲暇乞入來公用人を以申込候間自分平服於 小書院逢相應及挨拶年寄衆に傳言申述之退散之節坐中少々送之

一御留守居戸川播磨守町奉行關出雲守御附阿部越前守に人別ニ逢御用談いたし候

○八月廿九日

一去ル廿四日出豊前殿より被差越候宿次今卯上刻到來いたし候

一關東に酉上刻宿次差立之

○九月朔日

一月次之禮受候ニ付大書院に出席都る例之通相濟

一右引懸於小書院大御番頭近藤遠江守町奉行關出雲守に逢御用談いたし候

○九月二日

一去月廿八日出豊前殿より被差越候宿次今巳刻到來いたし候

一町奉行より訴狀箱被差越開封之處訴狀無之封印仕替返却いたし候

○九月三日

一町奉行關出雲守に於小書院逢御用談いたし候

一去月廿八日出豊前殿より被差越候宿次今戌上刻到來いたし候



一 關東の亥上刻宿次差立之

○九月四日

一去月廿三日出豊前殿より被差越候宿次今曉丑中刻到來いたし候

一 奥御右筆柳澤勉次郎に於小書院逢御用談いたし候

一 關東の刻附宿次亥下刻差立之

○九月五日

一去月廿五日同廿六日同廿七日出豊前殿より被差越候宿次今午下刻到來いたし候

○九月六日

一 町奉行關出雲守奥御右筆柳澤勉次郎に於小書院逢御用談いたし候

○九月七日

一去月廿六日同廿八日出豊前殿より被差越候宿次今曉丑中刻今卯上刻到來いたし候

一去ル二日同三日出對馬殿より被差越候宿次今曉子下刻今辰下刻到來いたし候

○九月八日

一 俊明院様御祥忌日 温恭院様御忌日ニ付養源院に參詣可致之處御用多

ニ付其儀無之

一 町奉行原伊豫守に於小書院逢御用談いたし候

一 關東の刻付宿次兩街道の亥下刻差立之

○九月九日

一 今日重陽之禮受候ニ付四ツ時頃花色小袖半袴着用

一 表出禮之者相揃候段茶屋四郎次郎名代之者より公用人の申聞折本差出

宜旨公用人より申聞之

一 小書院正面の着坐貳之間襖左右の開之襖際北之方の公用人壹人南之方の取次出居定職人鍵屋九左衛門罷出取次披露言葉無之



一大書院出懸手水之間ニ取次披露

勝手通之

町人共

一寸膝を突目出度と言葉遣之公用人取合いたし候

一大書院例席着坐大御番頭始地役之面々順々罷出重陽之祝詞申述目出度

と及挨拶布衣以上之衆安否被尋候得ハ無御障哉と及挨拶御門番之頭よ

り以下御祝詞申述候節目出度と計申安否被尋候得ハ御無事と及挨拶

一大書院内椽の家老用人公用人出席自分上段際正面着坐貳之間末北之方

襖壹枚開之取次引出初一頬取次御組與力と披露組與力五人ツ、一同衝

立際より順々罷出目見北之方引言葉無之

一右畢る北之方襖閉之取次引披露衝立際より大久保大隅守組與力長屋左

平太阿部越前守組與力窪田政右衛門貳之間壹疊目ニ目通申付目出度

と言葉遣之

一右畢る取次引披露衝立際より大久保大隅守組與力堀内兵藏阿部越前守

組與力水野四郎左衛門貳之間壹疊目ニ目通申付初ると言葉遣之

一三之間襖左右の開之三之間ニ諸町人社人共取次視披露ニ目通申付

畢る襖閉之衝立内公用人壹人出居取次障子際ニ名披露

上 雑色

上 町代

一右畢る衝立開之立座敷居際ニ下雑色と名目披露

下 雑色

一右相濟公用人壹人上溜内椽南向出居取次北向ニ罷出通掛下町代と名目

披露

下 町代

一右相濟上溜之間より勝手入

○九月十日

所司代日記第十一



一去ル六日出對馬殿より被差越候宿次今亥上刻到來いたし候

○九月十一日

一關東の宿次今戌中刻差立之

○九月十二日

一去ル四日出對馬殿より被差越候宿次今辰下刻到來いたし候

○九月十三日

一町奉行より訴狀箱被差越開封之處訴狀無之封印仕替返却いたし候

一關東の宿次申下刻差立之

○九月十四日

一無記事

○九月十五日

一月次之禮受候ニ付大書院の出坐都亦例之通相濟

但林肥後守松平丹後守ニハ不快ニ付入來無之

一右引懸於小書院町奉行關出雲守の逢御用談いたし候

○九月十六日

一月次之鮮鯛並 内侍所の白銀獻備いたし候ニ付家老の代見申付候上

御所使を以進獻いたし候

一和宮様御下向ニ付御迎爲御用與御醫師多紀安常出京入來ニ付於小書院

逢 御朱印等預り置候事

○九月十七日

一登御目付大久保雄之助新庄右近 御朱印護持着入來ニ付出宅并二條口

見歩使附置

一五半時御留守居戸川播磨守始地役之面々揃候上宜候ハ案内可申遣旨町

奉行申聞同所より御目付に被參候様案内申遣ス

一雄之助右近一二町程先の御目付用人 御朱印梓ニ入守護いたし罷越公

用人關々の出迎受取之右梓之儘大書院上段の差置



一無程御目付兩人被參候節ハ公用人兩人取次兩人三枚敷出し中程白洲の外し公用人拭板迄先立いたし町奉行玄關上拭板迄出迎有之同所より町奉行案内ニ御目付被通御留主居始使者之間椽頼通ニ着坐

一自分服紗小袖麻上下着二條口見歩使來大書院衝立際迄出迎御目付上溜前障子際ニ置案内ニ町奉行同所ハ披キ御目付兩人自分前ハ進候間及會尺直案内いたし上ニ間例席ハ着坐御目付兩人ニハ内椽ニ方對坐位ニ着坐其節自分扇子取少進ミ手を突申候時雄之助ハ上意申述候間謹承之奉畏候段申述相濟復坐之上副使右迄進ミ年寄衆より傳言演說有之且奉書差出候付請取披見之上脇ニ差置此時上之口ハ公用人小廣蓋持出引

一御機嫌伺ニ面々出候儀鳥渡申述入側衝立際ニ扣居候町奉行ハ及會尺候と戸川播磨守罷出雄之助 上意申述候と自分ハ向御禮申述之且年寄衆より傳言右近申述夫より大御番頭罷出右同斷申述候と是又自分ハ向

御禮申述之次ニ大御番頭ハ奉書右近より渡候ニ付大御番頭進ミ出請取之披見之上自分ハ爲見一覽直ニ差戻復坐之上右近より年寄衆より傳言申述之右相濟番頭より後刻御目付同道北ニ御門より御城入いたし候旨申聞候間先格ニ通々及挨拶番頭退去右相濟町奉行ハ小堀數馬迄順順罷出

上意雄之助より申達右近より年寄衆より傳言申述自分ハ御禮申述之但此度ハ石原清一郎小堀數馬右兩人ハ上意無之

次ニ御門番ニ頭ハ御機嫌能被成御坐候旨雄之助ハ達之何事も恐悅ニ段自分ハ申聞退坐右相濟町奉行大書院敷居内ハ入候上雄之助側ハ進ミ御判物 御朱印引渡候段申聞右 御朱印長持ニ鍵封印ニ儘差出右ニ付ハ奉書副使右近より差出 御朱印請取候段及挨拶町奉行引大御番頭兩人罷出 御朱印山田奉行ハ御番衆を以遣し候奉書御目付相渡之披見之上自分ハ爲見一覽直ニ差戻大御番頭引



一御城入御番衆に 上意可申述旨且伏見表に罷越林肥後守に 上意申渡直ニ大坂に可罷越旨に伺書差出候付請取披見之上何も可爲先格之通旨及挨拶伺書え右之方ニ差置之公用人上之口より小廣蓋持出引之遠國御用被 仰付候御禮并在京中得差圖可相勤旨申述且時候口上被申述之相應及挨拶

一今日御城入之節北御門より入西御門より出候段雄之助申聞候ニ付先格之通と申達畢而兩人最初之處より少し下之方の復坐之時自分及會尺勝手に入

一右勝手に入懸直ニ小書院に着坐公用人案内ニ而雄之助右近小書院に通し對話大坂御城代御定番町奉行に傳言相達歸之節坐中少し送公用人下坐敷迄先立いゑし取次壹人出ル

但御藏證文町奉行の公用人を以相渡

一雄之助右近相越今日北御門より御城入御番所ニおゐて御番衆に 上意

申渡只今西御門より御城出いゑし候旨爲届入來被申聞

但松平丹後守不快戸川播磨守關出雲守阿部越前守水野佐渡守ニハ

御所御用ニ付入來無之

一石原清一郎小堀數馬ニハ布衣被 仰付候以前御目付江戸表出立ニ付此

度ハ 上意無之事

一關東に宿次亥刻差立之

○九月十八日

一今已刻九條殿家司呼出自分平伏大書院正面着坐右家司芝兵部權大輔取次引披露是に及會尺進ニ候節左之通申渡之

九 條 殿

御加増知攝津國豐嶋郡之内ニ而高千石御渡相成候此段御達可申旨申來候間可申上候

右申渡書付溜之間前ニ而家司の公用人より相渡之



一去ル十三日出對馬殿より被差越候宿次今巳中刻到來いたし候

○九月十九日

一去十日出對馬殿より被差越候宿次今巳中刻到來いたし候

一關東の宿次酉中刻差立之

○九月廿日

一下り御目付三淵縫殿助中川監物爲暇乞入來ニ付 東照宮 御名御判之

懸物并訴狀相渡候ニ付右兩人五ツ時過入來大坂表交代相濟只今京着之

段届申聞且出立ニ付暇乞之口上等公用人の申聞候付自分平服小書院例

席の着坐

一東照宮 御名御判懸物

壹箱

本印之封附之

一御神號掛物

壹箱

右同斷

右白木三方ニ載セ并此度登り御目付持參之奉書御請壹通先達之箱訴  
狀壹封廣蓋ニ載公用人持出自分右之方ニ置公用人案内ニ而兩人被通暇  
乞等被申述相應及挨拶掛物貳箱奉書御請壹通箱訴狀壹封直相渡被致持  
參年寄衆の被相達候様ニ申述御目付受取之少々退坐此時年寄衆の傳  
言宜被申傳候様申述之退去之節坐中少々送之

一御目付兩人上竹之間襖際正面の着坐右掛物貳箱右兩人より公用人請取  
貳之間境襖左右の開之公用人壹人襖際の出席下竹之間の定職人共外箱  
持出居候付御用物相渡之御目付目前ニ而外箱の入釘目張等爲致相濟  
御用物荷作爲致候旨御目付の公用人より申達

一御目付の宿次證文於上竹の間公用人より相渡之

一夫より鎗の間ニ而定職人共荷作相揃候上公用人より取次の相渡取次よ

り人足の爲相渡公用人使者の間入側の罷居御目付歸之節其段申達之

一町奉行關出雲守の於小書院逢御用談いたし候



一去ル十四日出對馬殿より被差越候宿次今辰上刻到來いたし候

○九月廿一日

一去ル十五日出對馬殿より被差越候宿次今午下刻到來いたし候

一町奉行の訴狀箱被差越開封之處訴狀無之封印仕替返却いたし候

一關東の宿次亥下刻差立之

○九月廿二日

一慎徳院様御忌日ニ付知恩院の參詣可致之處御用多ニ付其儀無之

○九月廿三日

一和宮様御下向ニ付御迎爲御用罷登候道中奉行酒井隱岐守到着入來於小

書院逢 御朱印等預り置畢る御用談いたし候

○九月廿四日

一去ル十八日出大和殿證文同廿日出對馬殿證文ニ被差越候宿次今辰上

刻巳中刻到來いたし候

一關東の宿次亥中刻差立之

○九月廿五日

一無記事

○九月廿六日

一町奉行兩人に於小書院逢御用談いたし候

○九月廿七日

一關東の宿次申中刻差立之

○九月廿八日

一去ル廿二日出大和殿より被差越候宿次今午下刻到來いたし候

一道中奉行酒井隱岐守に於小書院逢御用談いたし候

○九月廿九日

一去ル十九日出對馬殿より被差越候宿次今子中刻到來いたし候

一關東の宿次酉中刻差立之



○九月晦日

一去ル廿四日同廿六日對馬殿より被差越候宿次今子下刻申中刻到來いたし候

所司代日記第十二

(自文久二年正月元日 至同年三月晦日)

○正月元日

一年頭ニ付大御番頭始地役之面々入來

但御附ニ去御所參勤ニ付入來無之

一表出禮之者相揃候段茶屋四郎次郎名代之者公用人の中聞折本差出之

一自分熨斗目半袴着大書院の出掛ケ小書院二之間ニ取次披露

鍵屋九左衛門

右乍立目出度と軽く言葉遣之公用人取合夫とり手水之間取次披露

勝手通町人共

右中坐ニる目出度と軽く言葉遣之

一大書院例席に着坐大御番頭始地役之面々如例年順々出禮



但町奉行迄年頭嘉儀申述候節目出度と及挨拶少退キ猶又賀詞等被申述是も相應申述之夫以下は目出度と挨拶而已其内別段賀詞申述候向は御無事ニ越年一段之趣申述之退入

一再大書院上段際正面に着坐同椽の家老用人公用人出席近習向後詰三之間襖左右の開之取次引披露

諸家留守居

右壹人宛二之間東之方を一疊目に罷出目見目出度と言葉遣之

右畢る襖閉之家老壹人二之間南之方本間中程に出席二之間末之方襖壹枚開之取次披露

組與力

右五人ツ、一同ニ衝立脇に順々罷出目見目出度と言葉遣之家老取合北之方に引

但初一建御組與力と披露其後は出居候計ニ披露無之都度々々ニ言

葉遣之家老取合

右畢る北之方襖閉之三之間襖左右の開之取次引披露

儒者伊藤徳藏

同松永臨時郎

右壹人宛二之間東之方に罷出一疊目ニ目見目出度と言葉遣之

一夫とり三ノ間諸町人共御茶師等取次視披露ニ目通申付言葉無之

右畢る襖閉之衝立内ニ公用人壹人出居取次障子際ニ名披露

上 雜色

上 町代

右畢る衝立北之方に開之杉戸敷居際ニ取次名披露

東寺内町代

右畢る立坐敷居際ニ取次名目披露

下 雜色



右相濟家老用人上溜前例席の公用人壹人上溜前椽側南向出居取次北向  
= 罷出溜前内椽 = 群居通懸ヶ取次名目披露

下 町 代

右相濟上溜之間の勝手に入懸ヶ於手水之間取次披露

茶屋四郎次郎  
名代内役ノ者

福井次右衛門

右中坐 = 而目出度と言葉遣之勝手に入

一 御城入のたし候付御城内御役人宜段三輪嘉之助の公用人迄申越候筈之  
處不快之趣 = 而中井保三郎の申越自分熨斗目半袴着出掛ヶ中溜椽通の  
組同心指出置家老用人上溜前北向公用人壹人南向着坐取次中溜前北向  
支配與力南向出席通掛ヶ取次披露言葉遣之

但右 = 付上溜中溜通公用人先立

一 北御門潜の御城入御門内の中井保三郎出迎候間輕及會尺夫の同人先立

下之御門内の御門番之頭御鐵炮奉行御藏奉行出迎其末の御破損奉行出  
迎候間輕及會尺此處の同人先立足輕番所前の大御番頭兩人出迎候間及  
會尺跡の被相越

一 二丸大御番所の相越候付御臺所前邊より大御番頭 = 夫會尺之上先に被  
相越大御番所木戸内に入候と大御番所より檀下敷出し左右の組頭出迎  
大御番頭取合有之乍立罷出此處 = 而刀取携及會尺檀を上り椽頬之大御  
番頭の乍立及會尺大御番所御番衆一同竝居候正面の着坐刀を後 = 置熨  
斗三方出し有之組頭も跡の上り着坐定大御番頭 = 夫横坐 = 着坐取合の  
多し候と年始目出度何も御無事越年一段旨申述之又大御番頭取合有之  
組頭 = 夫送りとして先の出候を見計起坐大御番頭始送り出迎之通夫々  
及會尺後刀帶之罷出如始御破損奉行先立夫の東御番頭小屋の立寄候付  
松平丹後守 = は二丸御門外の先に被歸敷出迄出迎直 = 小書院の案内西  
御番頭近藤遠江守 = も着坐年始挨拶濟三方長熨斗丹後守持出候間祝火



鉢煙草盆茶持出相應及挨拶刀は取持之者刀掛掛置二之間ニ取持相詰罷  
 在供宜旨取持申聞候付退散遠江守ニ式臺迄丹後守ニ敷出シ迄被送  
 候間膝突及會尺刀を玄關上ニ受取提出會尺後帶之夫一同罷出西御  
 番頭ハ小屋立寄候付遠江守ニ御太鼓櫓之邊ハ先被歸敷出迄出迎直  
 ニ小書院ハ案内有之次第東御番頭同様退散之節送り出迎之通り丹後守  
 ニ式臺迄被送夫西御門ハ御城出ニ付與力番所前ニ御破損奉行暇  
 乞ハいハし夫保三郎先立西御番所前ニ御門番ニ頭暇乞其外地役之面  
 面西御門橋ニ暇乞及挨拶橋外ハ乘輿歸宅

○正月二日

一年始御禮參 内ハいハし候付今午刻出門之積り供揃置御附之者より唯今  
 參 内ハいハし宜旨案内有之衣冠着即刻出門唐御門ニ下乗御門内ハ御  
 附出居御車寄右之方ハ御内之者出居候間夫々及會尺御車寄より參 内  
ハ雨落ニ多太刀公用人ハ相渡御内ハ玄關相明廻取次  
ハ相渡夫ハ何公之間ハ着坐後ハ口ハ太刀執次置之 沓ハ箱段下ニ脱之階下ハ非

藏人出迎乍立會尺同人案内ニ鶴之間着坐非藏人を以傳 奏衆出會自  
 分少し進ミ年始御祝儀申上少退キ自分ニ嘉儀等相應申述兩卿退入  
 一議 奏衆一同被出關東御靜謐之旨被申候間 御機嫌能旨申述畢ハ嘉儀  
 被申述相應及挨拶一同退入

一再傳 奏衆出席 御返答被申述少し進ミ伏承之御對面は無之事

但獻上物ハ使者を以 御所御内ハ玄關ハ相納候事

一表相濟傳 奏衆誘引伺公之間ハ相越入口ニ御附出居候間膝を突及會尺  
 伺公之間ハ着坐兩卿對坐大御乳人出會口祝有之自分御祝儀申述大御乳  
 人退入右京大夫罷出長橋局より口上申述自分返答相濟同人退入火鉢  
 茶多葉粉盆出

一御祝可指出旨御附申聞菱葩雉子燒御吸物御酒出る兩卿相伴給仕中詰勤  
 之臺肴雉子羽盛等出ル

初獻 廣 橋 坊 城 自分



御肴御附勤之

二獻 自分 坊城 廣橋

右同斷

三獻 廣橋 自分 坊城

右三獻順盃相濟自分及挨拶廣橋の盃給り肴挾被吳坊城の挨拶有之右盃自分坊城の遣肴も挾進ス返盃有之肴挾ミ被吳坊城より挨拶有之右盃自分より御附の遣肴も挾遣返盃有之肴は臺之儘請之夫より廣橋挨拶之上自分より廣橋の返盃肴挾遣ス是ニ盃被納之

兩卿之内不參候得々

初獻 兩卿之内 自分

二獻 自分 兩卿之内

三獻 兩卿之内 自分

右之順々各盃三獻相濟候と自分より及挨拶兩卿之内の盃給り肴挾被吳

兩卿之内の挨拶之上自分御附之者の盃遣之肴も挾遣返盃有之肴臺之儘請夫の右盃挨拶之上兩卿之内の返盃肴も挾進シ是ニ納盃御膳部撤之薄茶出見計御祝頂戴之御禮申述之夫より來ル四日兩卿議 奏衆可被行向旨被申聞候ハ、指支無之旨及返答

一右相濟兩卿退入後御同所執次筆頭壹人出御附取合目出度と申退去供宜趣ニ太刀提御内玄關より清所御門の退去送り例之通夫々及會尺

准后御殿之式

一准后御殿御車寄より參入太刀持上り御附出迎案内有之御客之間の通り其段御附之者を以申入

一親王御方御乳人出會口祝有之年始之御祝儀口上申上御乳人居殘 准后御方上臈并御乳人御年寄指添出會上臈口祝有之年始御祝儀口上申上上臈承之退入御乳人御年寄等居殘菱葩雉子燒御吸物御酒羽盛等出る女房配膳御酒三獻御重肴は御年寄盛之相濟ニ膳部撤之薄茶出 親王御方御



乳人再罷出御返答被申述退入 准后御方上臈再出會御返事被申述伏承之畢も自分之嘉儀被申述之御乳人御年寄ニも同様被申述相應及挨拶一同退入御附案内ニ御車寄より退去送り出迎之通夫々及會尺

○正月三日

一表出禮之者相揃候段茶屋四郎次郎名代之者公用人に申聞折本指出之宜段公用人より申聞右折本差出之  
一熨斗目半褙着大書院出掛小書院二之間東之方ニ定職共初罷出居北之方ニ公用人壹人南之方ニ取次名披露  
但言葉無之

指物屋久左衛門  
檜物屋彦兵衛  
荒物屋庄兵衛  
同 悴 共

大工棟梁 塚本繁次郎

一大書院例席着坐伏見奉行御附兩人年始禮交夫より本間正面着坐公用人見計衝立脇より御内之衆順々繰出し二之間東之方より二疊目直披露  
但目出度と言葉遣之

一右相濟大書院入側の家老用人公用人出席三ノ間襖開之諸家留守居元日殘之分壹人宛取次引披露二之間東之方壹疊目ニ目見  
但目出度と言葉遣之

一右畢襖閉之二之間北之方襖壹枚開之家老壹人二之間南之方本間中程に出席元日不參之組與力五人宛衝立際より順々罷出取次披露ニ目見北之方引  
但一ト建毎ニ目出度と言葉遣之家老取合

一右畢北之方襖閉之

松平次郎兵衛組與力 窪田政右衛門



右衝立際より罷出二之間東之方より壹疊目ニ取次引披露目出度と言葉遣之

一右相濟三之間襖開之諸町人とも出禮取次視披露

一右相濟襖閉之衝立北之方開之

上京惣中

下京惣中

町々惣中

右杉戸敷居際ニ罷出取次敷居内南障子際ニ罷在披露公用人同所北之方ニ罷出居右禮相濟上溜前通り掛

新町六町之者

右廣間拭板東之方ニ罷出家老用人公用人上溜前ニ罷出公用人中溜椽頼南向ニ罷在取次南障子際ニ罷在披露右相濟

一勝手ニ入掛小書院二之間公用方出入町人共罷出居襖外北之方ニ公用人

壹人南之方ニ取次罷在公用方出入町人共と披露

丹波屋喜兵衛

大和屋喜久松

二文屋嘉七

大和屋越江

右通り掛目通申付

但言葉無之

一關東ニ宿次今酉刻差立之

一舊臘廿五日同廿六日出之宿次紀伊守殿より今朝卯上刻一同ニ到來

一關東ノ舊臘廿七日出廿九日出紀伊殿より之宿次今酉中刻到來

○正月五日

一年始ニ付傳 奏衆議 奏衆被行向候ニ付出宅并竹屋口見歩使白洲敷出



飭手桶出し公用人貳人取次貳人白洲に出迎先立送り等例之通り

廣橋一位

坊城中納言

右出宅案内ニ自分熨斗目長襦着竹屋口見歩使ニ杉戶外迄出迎大書院に誘引自分例席に着坐兩卿内椽之方に着坐兩卿被進候間自分も扇子取少進候と關東被伺 御機嫌候ニ付 御機嫌能旨申述次ニ年始御祝儀被申上候間關東に可申上旨申達復坐夫より自分祝儀被申述候間相應及挨拶畢而廣橋持參之太刀公用人大書院衝立際持參御持參之由申指出自分請取被入御念候旨會尺にたし右之方に差置之

但持出公用人直ニ引大書院之口を公用人壹人出右太刀引之

一右畢而雜掌兩人宛取次引連二之間下壹疊目に罷出名披露目出度と及挨拶候と兩卿も挨拶有之

一右畢而勝手は被通候様及挨拶上之口裏廊下通行小書院誘引兩卿内椽之

方着坐自分例席に着坐三方長熨斗近習之者出之畢而煙草盆火鉢茶出之相濟而被歸候節中溜前迄送之公用人取次出迎之通白洲に罷出

議奏

中山大納言

正親町三條大納言

飛鳥井中納言

久世三位宰相

右自分熨斗目半襦ニ出迎送等傳 奏衆之通

但持參之太刀無之雜掌も不出小書院に誘引無之

○正月五日

- 一爲年始知恩院養源院に參詣可致之處御用多ニ付其儀無之
- 一江戸表舊臘廿七日廿九日出紀伊殿より之宿次今酉中刻到來
- 一禁裏に御進獻之鶴御左右次第相納候様申來候ニ付家老に代見申付御所



使を以相納之

○正月六日

一稻葉長門守年始御祝儀且 和宮様御入 城被爲濟候爲恐悅入來ニ付上溜溜通シ置自分熨斗目半袴着大書院例席出坐公用人案内ニ長門守被通關東御機嫌被相伺候間 御機嫌克旨申達次 和宮様御入 城被爲濟候恐悅等被申述終る自分之嘉儀被申述是よりも相應及挨拶退散之節十万石以上ニ付杉戸外迄送之

一諸寺社并御禮之面々相揃候段茶屋四郎次郎名代之をのとり公用人之申聞折本指出之宜段公用人申聞右折本指出之

一自分熨斗目半袴着大書院正面着坐北面之衆并御醫師衆衝立脇より壹人宛罷出直披露

但目出度と詞遣之

一右相濟家老用人公用人出席三之間襖左右之開之諸家家老壹人宛罷出取

次引披露目出度と詞遣之

江州長原村郷士

中島武八郎

同

中島勝次郎

右壹人宛二之間東之方壹疊目ニ取次引披露詞無之

寺院

右壹人ツ、罷出直披露或ハ取次引披露

但僧正 衣紫目出度と詞遣之

寺院

右壹人宛三ノ間之罷出取次視披露畢る襖閉之自分勝手之入

一石原清一郎舊臘廿二日江戸表之出立昨五日大津之歸着右届且年始爲祝詞入來逢可申處自分疝癩氣ニ付其儀無之

○正月七日

一舊臘廿五日出紀伊殿より之宿次今申中刻到來

所司代日記第十二



○正月八日

一 江戸表の宿次今酉下刻指出之

一 今日養源院の參詣可致之處御用多ニ付其儀無之

一 禁裏の御鷹之鶴御進獻ニ付女房之奉書雜掌持參有之候處自分疝癢氣ニ付以家老名代請取之

○正月九日

一 今巳刻興正寺同新門跡同道爲年始祝儀來臨ニ付出門見歩使歸候付自分熨斗目半袴着大書院裏廊下迄出居二條口見歩使歸候ハ、自分衝立際迄出迎公用人壹人取次二人熨斗目麻上下着下坐敷迄出迎公用人先立ニ被通自分大書院の誘引例席着坐興正寺坐を少し被下關東被相伺 御機嫌候間 御機嫌能旨申達之尤扇子取之同輩より少し手高ニ申達夫々年始之祝詞被申述之相應及挨拶對話中右坊官家司之内一人衝立際より取次引連二之間下壹疊目の罷出名披露目出度と詞遣之畢而興正寺同新

門跡退散上溜前迄送之

○正月十日

一 舊臘廿八日出紀伊殿より之宿次今巳上刻到來

一 去ル三日出豊前殿より之宿次今申上刻到來

一 今日養源院の參詣可致之處御用多ニ付其儀無之

○正月十一日

一 今辰半刻爲年始御祝詞從 准后以 御使致拜領物候ニ付御臺所口并竹屋口見歩使壹人宛附置白洲三枚敷出シ門外の飭手桶立番人留等差出御臺所口より見歩使歸候而自分熨斗目麻上下着竹屋口見歩使歸候と大書院廊下ニ待合御使より前拜領之御品御薫物三鮮鯛壹折來候ニ付敷出ニ而徒士請取之取次附添上溜前杉戸敷居際迄持參同所ニ而給仕方請取之公用人用人附添大書院上段ニ兼而出置候盤臺之上の飭之白洲敷出シ東之方より取次貳人西之方より用人壹人公用人貳人罷出家老壹人下坐敷迄



出迎何も熨斗目公用人壹人先立致案内自分杉戸内迄立向此節案内之公用  
 人大原左近將監殿と披露及會尺夫御使を誘引大書院北側例坐の着  
 坐 御使二之間敷居際ニ被控候間及會尺候と對坐位ニ進候間自分も扇  
 子取進出候と 御使上臈方とり之口上被申述之自分伏承之 御使少シ  
 退坐自分上段際の進拜領之御品頂戴畢復坐右之内 御使敷居際の被  
 披候間自分御請可申上旨及會尺 御使元之席の被附其節自分左之通御  
 請申述之

益御機嫌能被成御坐恐悅奉存候爲年始御祝詞以 御使兩種頂戴仕難  
 有仕合奉存候此段上臈方迄宜御沙汰頼入存候

右之趣申述被歸候節中溜前迄送之家老用人公用人取次送り出迎之通罷  
 出

一 御附の右拜領物之爲吹聽以使者申遣之

一 右御使之仁の干鯛一折金三百匹以使者遣之

一 關東の宿次別狀箱共二ツ今酉中刻指出之

一 五ツ半時頃知恩院方丈爲年賀被參候ニ付出門附人二條口見歩使差出置

二 條口注進ニる公用人壹人取次兩人下坐敷の罷出公用人先立上溜の案  
 内の多し自分熨斗目長袴着衝立際の出迎大書院例席の方丈着坐挨拶相  
 濟家老用人公用人内椽の出席三之間襖開之役者并山役者迄壹人宛一本間  
 目取次引披露相濟襖閉之此節家老初退坐方丈被歸候節衝立外迄送之一并

山寺院役者等禮請茶屋名代より折本指出但一山寺院役者  
 罷出候節家老用人公用人出席三之間襖開之後口詰無之

一 於關東年始三ヶ日御規式如御吉例被爲濟候ニ付爲恐悅伏見奉行始地役  
 之面々罷出候公用人共の口上被申置

一 檢非違使堀川河内守小佐治右衛門大志年頭爲祝詞罷越可申之處御用多  
 ニ付其儀無之

○正月十二日

一 江戸表の宿次別狀箱二ツ今酉中刻差立之



○正月十三日

一諸寺社相揃候段茶屋名代之者公用人之申聞折本指出之宜段公用人申聞  
右折本指出之

一自分熨斗目半袴着大書院出掛小書院正面之着坐先達之岡崎藤丸姉江戸  
表之下向ニ付指添罷下候組與力御用相濟歸京ニ付目通申付候ニ付敷居  
内北之方之家老壹人出席敷居外之公用人壹人侍坐二之間之取次引披露  
江戸御用相勤候石崎八郎と披露太儀之旨詞遣之家老取次以多し八郎退  
坐

一大書院入側之家老用人公用人出席自分正面之着坐近習之者後詰有之三  
之間襖左右の開之

寺 院

右壹人ツ、罷出直披露僧正 紫衣は日出度と詞遣之

寺 社

右壹人ツ、三之間之罷出取次視披露畢而襖閉之自分勝手之入  
一夕八ツ時頃五山派寺院年始禮請候ニ付右相揃候段茶屋名代之者公用人  
之申聞折本指出之宜段公用人申聞右折本指出之  
一大書院入側之家老用人公用人出席自分熨斗目半袴着大書院正面之着坐  
近習之者後詰有之三之間襖左右の開之

相 國 寺  
建 仁 寺

一右一同間内之入直披露年頭嘉儀申述候間日出度と言葉遣之

南 禪 寺  
天 龍 寺

右代僧罷出二之間ニ取次披露言葉無之

五山派 院

右間内之直披露之分去詞遣之二之間之分去取次披露三之間之分去取次



視披露右何も言葉無之右畢る襖閉之勝手に入

一原伊豫守大久保土佐守に於小書院逢御用談ひ多し候

○正月十四日

一舊臘廿九日出宿次紀伊守殿を今辰中刻到來ひ多し候

○正月十五日

一今已刻未刻迄之内爲年始被行向候付宅并竹屋口に見歩使附置白洲敷出門外に飭手桶出シ公用人二人取次二人白洲に出迎先立等例之通但三位以下は公用人壹人取次二人罷出候事

難波前中納言

武者小路三位

橋本侍從

右出宅案内ニ自分熨斗目半袴着竹屋口見歩使案内ニ出迎大書院に誘引自分例席に着坐何も内椽之方に着坐關東御機嫌被相伺候矣御

機嫌克旨及挨拶年頭之御祝儀被申上候得去可申上段申述夫々自分之祝詞被申述畢る退散之節送之

一奈良奉行桑山左衛門尉出京入來自分熨斗目半袴着用大書院例席に出坐左衛門尉相通年始之御祝儀申上候旨申述候間關東に可申上旨及挨拶夫々挨拶相濟左衛門尉退散

一原伊豫守大久保土佐守に於小書院逢御用談ひ多し候

○正月十六日

一諸家爲年始今已刻より未刻迄之内被行向候付宅并竹屋口見歩使附置白洲敷出門内外飭手桶出シ公用人壹人取次貳人白洲に出迎先立送り等例之通

從三位

池尻宮内卿

正四位下

小倉侍從

從五位上

中園大夫



右出宅案内ニハ自分熨斗目半袴着竹屋口見歩使案内ニハ杉戸内迄出迎  
大書院ニ誘引自分例席ニ着坐何も内椽ニ着坐祝詞被申述退散ニ節  
上溜前迄送之

但關東御機嫌被相伺候得々御機嫌能旨及挨拶年頭ニ御祝儀被申上候  
得々可申上段申述之

非藏人惣代 松室大隅  
御附非藏人惣代 羽倉肥前  
知行非藏人惣代 赤坂周防

右爲年始祝詞入來ニ付中溜屏風仕切ニ通し取次口上承之自分熨斗目半  
袴着大書院正面ニ着坐公用人案内ニハ二之間敷居際ニ罷出直披露詞無  
之送りも無之

但右近例不逢事ニ付今日も不逢公用人迄申置  
一江戸表ニ宿次今酉刻指立ル

○正月十七日

一今日金地院ニ參詣可致ニ處痔疾氣ニ付其儀無之

○正月十八日

一無記事

○正月十九日

一無記事

○正月廿日

一今巳刻西本願寺爲年始祝詞來臨ニ付出門見歩使歸り候て公用人壹人取  
次二人熨斗目麻上下着用式臺迄出迎式臺際迄乘輿公用人先立被通自分  
熨斗目長袴着杉戸外迄出迎大書院ニ誘引例席ニ着坐關東御機嫌被相伺  
且自分ニ年始祝詞も被申述之相應及挨拶對話中右坊官家司兩人ニても衝  
一緒ニ罷出  
立際より取次引連貳ニ間下壹疊目ニ罷出名披露目出度々言葉遣之畢  
西本願寺新門跡退散中溜前迄送之



一今日泉涌寺の參詣可致之處 御用多ニ付其儀無之  
一去ル十四日出宿次美濃殿より今辰上刻到來

○正月廿一日

一町奉行の例年之通訴狀箱來則相改候處無之例之通封印仕替返却の多し候

○正月廿二日

一去ル十一日出同十五日出美濃守殿より被指越候宿次今曉丑中刻相達候  
一今日知恩院の參詣可致之處御用多ニ付其儀無之

○正月廿三日

一江戸表の宿次今刻半刻指立ル

○正月廿四日

一今日養源院知恩院の參詣可致之處痔疾氣ニ付其儀無之

○正月廿五日

一去ル十六日出美濃守殿より被差越候宿次今辰之上刻到來の多し候

一去ル十九日出美濃殿の被差越候宿次今酉上刻相達

○正月廿六日

一江戸表の今戌上刻宿次差立ル

○正月廿七日

一去ル廿三日出美濃守殿の被差越候宿次今未中刻相達

○正月廿八日

一年始残り候分出禮可請之處風邪氣ニ付其儀無之

一江戸表の宿次今酉半刻過差立之

一御勘定吟味役立田録助對州御用相濟歸府通行ニ付原伊豫守同道入來之處自分風邪氣ニ付其儀無之

○正月廿九日

一野々山丹後守對州御用相濟歸府ニ付當地通行爲届入來之處風邪氣ニ付



其儀無之公用人迄被申置候

一去ル廿六日午下刻出美濃殿被差越候刻附宿次今午中刻到來以多し候

一養源院に參詣可致之處風邪氣ニ付其儀無之

一和宮様御廣敷添番金田十左衛門 御朱印持參ニ付可請取之處風邪氣ニ付名代原伊豫守於大書院被請取候事

○二月朔日

一知恩院 御宮其外御修覆御用相勤候面々御褒美申渡候ニ付今日五半時夫々呼出之儀達置相揃候上自分平服着用大書院ニ之間正面着坐公用人案内ニ町奉行原伊豫守大久保土佐守北側に出席御目付大久保雄之助南側に着座

御入用取調役  
井上富左右

知恩院 御宮其外御修覆中見廻相勤候ニ付被下之

右申渡富左右引夫と給仕方北廊下下之口と銀臺持出貳疊目上ニ置

引富左右罷出頂戴之同人銀臺持引夫と富左右罷出拜領物仕難有旨伊豫守取合申述富左右退出夫と公用人案内ニ御附瀧川播磨守出席

銀五枚

御所勤使買物使兼  
坂本柳左衛門

元役之節知恩院 御宮其外御修覆御用附切相勤候ニ付被下之

右申渡濟引夫と拜領物次第前同斷柳左衛門自分銀臺持引又罷出拜領物仕難有旨御禮播磨守取合申述退坐

右相濟富左右に申渡書付壹通町奉行に相渡同様御修覆御用相勤之原伊豫守大久保土佐守組與力同心并御扶持人棟梁に御褒美被下候間可申渡旨申渡書付貳通相勤之柳左衛門に申渡書を播磨守に相渡之夫と雄之助に右申渡書付壹通爲心得相渡町奉行御附御目付退坐畢自分勝手に入

但夫と與力に町奉行中溜に出席申渡拜領物頂戴同心に使者之間ニ與力と申渡先格之通相濟候事



- 右相濟富左右柳左衛門立歸ニ御禮申之
- 一町奉行組與力同心共ニ被下物御禮町奉行申聞之
- 一御扶持人棟梁平棟梁ニ被下物御禮是又町奉行共申聞之
- 右(朱書)ニ通可申渡ニ處自分風邪氣ニ付町奉行名代ニ夫々被申渡相濟
- 一月次ニ禮可請處風邪氣ニ付不請地役ニ面々被申置
- 一松平丹後守近藤遠江守風邪ニ付以使者斷申達
- 一明日懺法講聽聞參 内可致ニ處風邪氣以奉札御附迄斷申遣ス

○二月二日

- 一關東ニ刻付宿次未中刻差立之
- 一懺法講ニ付 禁裡御所ニ薯蕷一箱致進献候

○二月三日

- 一大久保雄之助入來ニ旨公用人申聞候間自分平服小書院出坐公用人案内
- ニ御目付被通及挨拶公用人封印紙肉共小廣蓋ニ載持出訴狀箱給仕方

兩人ニ持出公用人請取上箱書付ニ方を御目付前ニ向置一覽相濟封印  
紙肉共御目付ニ差出印形相濟公用人ニ被相渡公用人請取自分被爲見



但御目付壹人ニ時は一印故紙ニ真中ニ印形有之

- 一覽相濟封爲致候旨御目付ニ及挨拶公用人目通ニ封印以爲し切取候
- 紙ニ兩端相改自分ニ爲見訴狀箱ニ給仕方罷出引之御目付退散
- 一江戸表ニ去月廿一日出ニ宿次今午中刻到來以爲し候
- 一江戸表ニ宿次申中刻差立之

○二月四日

- 一懺法講爲聽聞參 内可致處風邪氣ニ付以奉札御附迄斷申遣
- 一右御中日ニ付如先例檜重一合御所使を以致進上候



一關白殿にも杉重致進献候  
一町奉行より訴狀箱差出候ニ付鍵とも預り置

○二月五日

一江戸表より去月晦日出宿次今曉寅上刻到來に多し候  
一明六日懺法講ニ付參 内可致之處風邪氣ニ付以奉札御附迄斷申遣之  
一御目付大久保雄之助罷越於小書院訴狀箱致開封候處訴狀無之ニ付封印  
仕替町奉行に差返自分ニは風邪氣ニ付出坐不致候

○二月六日

一江戸表より去ル朔日出之宿次今曉子下刻到來に多し候  
一江戸表より去る廿六日同廿九日出之宿次今寅下刻同時ニ到來に多し候  
一懺法講御結日ニ付 禁裡に御粽致進献候

○二月七日

一年頭 御使高家宮原攝津守今日到着自宅に被參候ニ付可逢處自分風邪

氣ニ付右之儀斷 御機嫌伺夫々相濟

一仁孝天皇十七回聖忌懺法講相濟御精進解ニ付鮮鯛壹折 禁裡御所に致  
進献候

一林肥後守近藤遠江守風邪ニ付伺 御機嫌相斷不罷出候

一赤井孫四郎三輪嘉之助當病ニ付今日取持相斷不罷出候

一江戸表に宿次酉刻差立之

一宮原攝津守同道明日參 内可致之處風邪氣ニ付御斷之儀傳 奏衆迄今  
日御斷申達

○二月八日

一今日養源院に參詣可致之處風邪氣ニ付其儀無之

一江戸表に宿次今戌刻指立之

○二月九日

一今曉子刻頃新町頭邊出火一ノ手二ノ手人数指立候處無間消火に多し候



一去ル五日出大和殿より被差越候宿次今申下刻到來

○二月十日

一無記事

○二月十一日

一去ル朔日出豊前殿より被差越候宿次今辰中刻到來

一江戸表の宿次今夜亥ノ下刻指立之

○二月十二日

一宮原攝津守昨日參 内御返事被仰出御暇被下明日出立ニ付爲暇乞被參  
公用人を以被申入小書院の通茶多葉粉盆出之見計自分平服出坐對話相  
應及挨拶此度諸大夫法眼成等之位記口 宣箱公用人持出候付攝津守一  
覽後刻爲持可遣旨申述右箱引之畢年寄衆より之傳言有之候挨拶尙又  
宜頼候間演説並同役衆より傳言挨拶是又宜頼入候旨申述且年寄衆の之  
奉書請相頼暇乞申述候上退散之節手水間迄送之

一町奉行原伊豫守の於小書院逢御用談のたし候

一町奉行より訴狀箱指越候ニ付開封のたし候處訴狀無之封印仕替返却の

たし候

一去ル九日出大和殿より被指越候宿次今申上刻到來のたし候

○二月十三日

一無記事

○二月十四日

一無記事

○二月十五日

一今日職松原惣檢校願之通隠居申渡候付原伊豫守大久保土佐守五半時入  
來大書院の自分出坐公用人案内ニ而伊豫守土佐守大書院本間の出席公  
用人兩人三之間襖左右の開之取次召連職松原惣檢校罷出二之間二疊目  
の着坐



但職事手を引罷出職事直ニ三之間引  
 職松原惣檢校病氣ニ付名代富士岡檢校平塚檢校と披露自分左之通申渡  
 御聞届難有旨伊豫守取合有之職事罷出手を引兩檢校退去伊豫守に左之  
 書付渡之

職  
 松原惣檢校

就病氣隱居相願願之通被仰付之

右相濟伊豫守土佐守退去自分勝手に入

右之通可申渡之處自分風邪氣ニ付町奉行名代ニ被申渡相濟

一月次之禮請並昨年 和宮様御供ニ江戶表に罷下り候組與力山口達右

衛門佐藤柳三郎御用相濟歸京ニ付罷越候ニ付目通り可申付之處風邪氣

ニ付其儀無之

一梅溪少將被行向候處風邪氣ニ付被申置候

一關東に宿次今酉上刻差立之

○二月十六日

一去ル六日出大和殿より被差越候宿次今辰上刻到來

一例月之鮮鯛家老に代見申付進献いたし候

一去ル九日出大和殿より被差越候宿次今巳刻到來

○二月十七日

一去ル十一日豊前殿より被差越候宿次今曉子下刻到來

○二月十八日

一當月十一日 公方様御婚禮被爲濟候ニ付伏見奉行始地役之面々相揃候

旨町奉行より公用人を以申聞候付自分熨斗目麻上下着用大書院例席に

出坐一役ツ、順々罷出恐悅申上之

但布衣以上之面々相濟大書院裏廊下に一旦披

町奉行御附出席二條御門番々頭以下一統着坐之上大書院正面に出坐恐

悅請之右相濟勝手に入



一野々宮宰相中將議 奏役被 仰出候ニ付爲御禮已刻來臨ニ付白洲敷出  
 シ門内外飭手桶立番差出出宅並竹屋口見歩使附置竹屋口注進ニ而白  
 洲の公用人貳人取次貳人罷出自分服紗小袖麻上下着用杉戸外迄出迎大  
 書院の誘引例席着坐右御禮被述之相應及挨拶熨斗三方給仕方之者持出  
 直引之退散之節中溜前迄送之公用人取次出迎之通  
 一今已刻植松彈正少弼同道同新大夫元服爲御禮被行向候ニ付見歩使白洲  
 三枚敷出立番指出公用人壹人取次貳人白洲の罷出

植松新大夫

同道

植松彈正少弼

右出宅案内ニ而自分平服着用竹屋口見歩使ニ而杉戸内迄出迎大書院の  
 誘引自分例席の着坐彈正少弼新大夫内椽之方に着坐元服御禮申述候間  
 關東の可申上旨申述退散之節上溜前迄送之  
 一關東の宿次戌中刻差立之

○二月十九日

去ル十五日出大和殿より被差越候宿次今未中刻到來

○二月廿日

一今日知恩院の參詣可致之處御用多ニ付其儀無之  
 一江戸表の宿次申中刻差立之

○二月廿一日

勅使

廣橋一位

坊城中納言

親王使

日野中納言

准后使

廣橋左大辨宰相

一今日已刻 勅使 親王使 准后使御役宅の被參候付辰刻より外側木戸  
 切表門前與力同心固指出大目付竹屋口辻番所相詰家老用人公用人壹  
 人宛表門西ノ方取次東之方の罷出門より式臺迄假廊下掛ケ町奉行原伊



豫守大久保土佐守御附瀧川播磨守門内假廊下敷出西之方に出迎何も熨斗目無地ニあるも半袴着用自分花色無地熨斗目長袴返小紋ニ無之着用下坐敷東之方に出迎

但出迎之程合は 勅使始出宅承り上溜入側は相越町奉行御附も右場所は罷出待合竹屋口注進ニ町奉行御附直ニ假廊下は罷出自分廣間迄相越其時公用人壹人刀持候ニ居候計ニ面番ニ拂候 勅使門前ニ下乗を見掛自分下坐敷東之方に出迎候事刀持公用人ニ自分後ハ栗石之上に披居

勅使 親王使 准后使被參及會釋直ニ大書院上之間に案内

勅使上段際ニ着坐自分貳之間上北之方に着坐

但町奉行御附ニ之間東之方襖を後口ニして着坐

勅使會釋有之此時親王使 使南内椽ニ被扣居自分帶劍之儘ニ扇取 勅使前四尺程進ニ御口上承之

但御口上之内町奉行御附衝立際ハ披キ居近例居付也

關東ハ可申上旨申之自分貳之間に退 勅使南内椽に退次 親王使上段際ハ着坐會尺有之如最初自分 親王使前ハ進ニ御口上承之前同斷申述自分又二之間に退 親王使ニも南内椽に被退次 准后使上段際ハ着坐會尺有之如最初自分 准后使前ハ進ニ御口上承之前同斷申述自分又二之間に退 准后使ニも南内椽に被退次ニ 勅使 親王使 准后使例席ハ着坐自分ニも例席ハ對坐 勅使始被進自分ハ恐悅被申上可申上旨申之畢ハ町奉行土佐守ハ會尺ハたし候ハ長熨斗白木三方持出中央ニ居二之間敷居外ハ披キ 勅使始會尺有之自分一寸伊豫守ハ致會尺候ハ同人撤之畢ハ 勅使退散自分先立ハたし送り出迎之節ニ通

一右 勅使始退散送り濟ハ引候時直ニ自分大書院上之間ハ着坐町奉行御附一同通り逢無滯相濟候段及挨拶退去

但其後町奉行御附ハ上竹之間ニ先格ハ通支度差出公用人取計



一 町奉行より訴狀箱差越開封致し候處訴狀無之封印仕替返却致し候  
一 關東の宿次今酉上刻差立之

○二月廿二日

一無記事

○二月廿三日

一 山田奉行秋山安房守の差遣候 御朱印箇物大書院上段の直シ自分平服  
六時大書院例席の出坐路次人馬の御朱印白木三方ニ載並秋山安房守の  
遣候書狀小廣蓋ニ載公用人持出右の方ニ置之  
一 大御番頭近藤遠江守出席引續御番衆兩人ニ之間二疊目の罷出會尺側の  
進ミ候付山田奉行秋山安房守の差遣候 御朱印箇物相渡可入念旨申渡  
路次人馬の 御朱印相渡並秋山安房守の書狀相渡之御番衆元之席の  
復坐候と遠江守取合畢る御番衆大御番頭退坐  
一 御朱印箇物の人夫宿次證文壹通

一 御朱印入外箱の鍵並直封の儀添書壹通

右兩様旅封

右の通公用人より相渡之

一 奥御右筆中村又兵衛今日上京ニ付追付可致同道旨町奉行の公用人迄申  
越候付勝手次第被相越候様爲及返答無程中村又兵衛參下竹之間通

但勝手通兼る相濟候ニ付如本文

一 御朱印等持參候旨土佐守の公用人を以申聞之

一 自分平服着大書院例席の出坐此時白木三方勝手口より公用人持出自分

右の方ニ指置

御膳奉行格奥御右筆  
中村又兵衛

右公用人案内ニある二之間三疊目の着坐夫の自分側の進ミ

御朱印指出之少シ下り扣居預り置候旨申述引自分勝手に入  
但御證文は町奉行より公用人を以指出之



一去ル十六日出豊前殿より被指越候宿次今辰中刻到來

○二月廿四日

一去ル十八日出大和殿より被指越候宿次今寅中刻到來

○二月廿五日

一中御門大夫元服爲御禮被行向候處痔疾氣ニ付公用人迄被申置候

一關東に宿次今酉中刻差立之

○二月廿六日

一去ル廿一日出大和殿より被指越候宿次今卯中刻到來

一去ル廿日出豊前殿より被差越候宿次今午下刻到來

○二月廿七日

一御代替ニ付攝家親王宮方使者并堂上方に御判物 御朱印相渡傳 奏

衆爲立會卯半時出門ニ被行向候付白洲五枚敷出し門内外飭手桶門下  
徒士目付小頭立番人留足輕等指出廣間向服紗小紬麻上下公用人熨斗目

麻上下着出宅並竹屋口見歩使附置竹屋口見歩使罷歸公用人貳人取次貳

人白洲敷出し外迄罷出 自分熨斗目半袴着上溜前杉戶外迄出迎小書院

に誘引例席に着坐時候に挨拶等有之茶多葉粉盆火鉢出之 御判物 御

朱印等相渡候名前書壹帳宛兩卿自分の公用人より指出之

一辰半刻頃迄ニ堂上方追々來臨ニ付竹屋口に見歩使附置取次案内ニ大

書院二之間に被通揃之上町奉行御附御目付に公用人より揃宜旨申述町

奉行始入側に着坐を見請自分の公用人より揃宜段申聞候間兩卿誘引大

書院に相越上之間南側に兩卿着坐自分北側に着坐公用人壹人衝立際雜

掌貳人同所南側に伺公

一御判物 御朱印廣蓋ニ載之公用人持出自分側ニ指置兩卿壹人宛自分前

に被出 御判物御朱印相渡之被致披見自分の會尺有之候間從是も輕及

會尺次之間迄被持出雜掌に被相渡相濟復坐之上堂上方壹人宛御附肝煎

ニ被出順々相渡之披見有之退坐



但手續傳 奏衆同斷

一右相濟兩卿小書院の同道休息茶多葉粉盆火鉢椀盛菓子指出自分挨拶の上退坐右相濟再出坐兩卿被及挨拶候間及挨拶關白殿使者始相揃候段町奉行始の公用人とり申述之二之間北の方に着坐を見請宜旨自分の公用人申聞兩卿誘引大書院の如最前出坐衝立際南の方ニ公用人壹人雜掌貳人上溜前廊下敷居際の伺公

一御判物 御朱印廣蓋ニ載公用人持出自分側ニ差置雜掌とり取次及沙汰右使者順々繰出使者麻上下着帶刀ニ罷出 御判物 御朱印相渡之清華大臣迄次第ニ相濟近衛殿櫻木屋敷不斷光院の相渡右相濟兩卿小書院の同道茶多葉粉盆火鉢指出相應及挨拶勝手に入程合見合料理二汁五菜吸物三通肴二種重肴口取濃茶後菓子薄茶指出之自分及挨拶並御附之者も挨拶罷出ル

一右相濟再出席兩卿退散之節中溜前迄送ル公用人取次出迎之通白洲の出

但町奉行御附御目付一汁三菜之支度鉢盛菓子出之并雜掌にも同斷支度吸物肴三種鉢盛菓子指出之

名前書

廣橋	一位
坊城中	納言
德大寺	大納言
<small>依所勞名代</small> 德大寺	三位中將
大炊御門	大納言
烏丸	大納言
<small>依所勞名代</small> 烏丸	侍從
山科前	大納言
<small>依所勞名代</small> 山科	少將
綾小路前	大納言

四辻	中納言
<small>依所勞名代</small> 四辻	侍從
醍醐	中納言
菊亭	中納言
冷泉	中納言
水無瀨前	中納言
<small>依所勞名代</small> 水無瀨	大夫
日野西前	中納言
<small>依所勞名代</small> 河鱈	大夫
今城前	中納言



裏松前中納言  
 橋本宰相中將  
關東下向中三付名代  
 橋本侍從  
 野宮宰相中將  
 柳原右衛門督  
依所勞名代  
 三室戶伊勢權介  
 八條前宰相  
依所勞名代  
 萩原二位  
依所勞名代  
 萩原刑部卿  
依所勞名代  
 伏原二位  
依所勞名代  
 伏原三位  
依所勞名代  
 富小路二位  
依所勞名代  
 富小路中務大輔

七條三位  
 西洞院左兵衛督  
 梅園前右兵衛督  
依所勞名代  
 梅園大夫  
依所勞名代  
 愛宕三位  
依所勞名代  
 愛宕右京權大夫  
依所勞名代  
 西大路三位  
依所勞名代  
 西大路三位  
 竹屋三位  
 三室戶三位  
依所勞名代  
 五辻三位  
依所勞名代  
 五辻大夫  
 吉田三位

依差扣中名代  
 吉田侍從  
 石井三位  
 廣橋式部大輔  
依所勞名代  
 唐橋大夫  
 土御門民部卿  
 櫛笥中將  
依所勞名代  
 滋野井中將  
依所勞名代  
 高松三位  
依所勞名代  
 押小路遠江權介  
依所勞名代  
 押小路大夫  
依所勞名代  
 高野少將  
依所勞名代  
 高野左兵衛佐  
 河鱒少將

小倉少將  
依所勞名代  
 小倉侍從  
 姉小路侍從  
 樋口右馬權頭  
 高倉侍從  
 壬生修理權大夫  
 高辻少納言  
 竹內肥後權介  
 萬里小路權右少辨  
 甘露寺左少辨  
依所勞名代  
 四條大夫  
依所勞名代  
 四條新大夫  
 鷺尾大夫



冷泉 大夫  
藤谷越前權介

使者之分

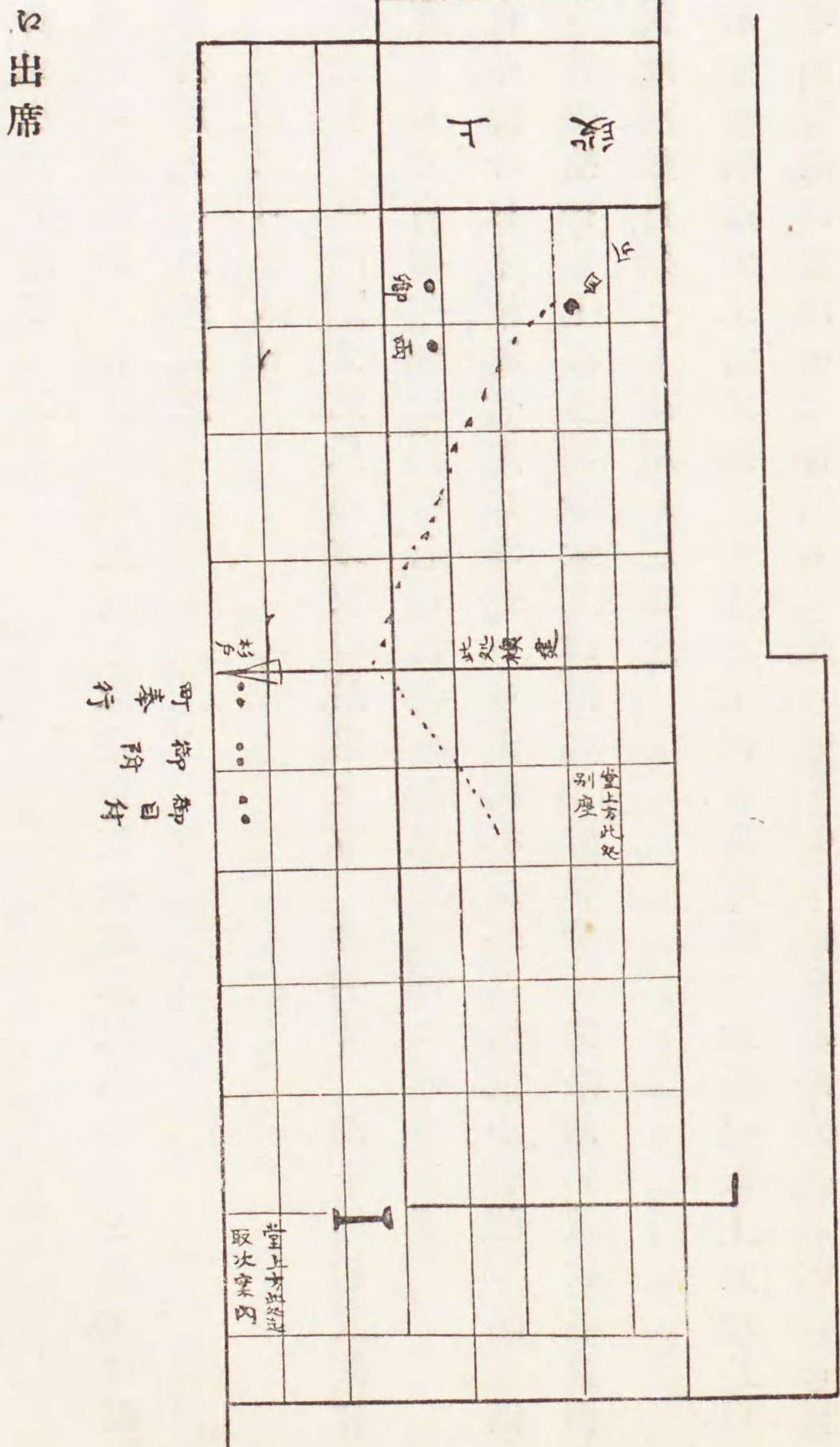
九條殿 石井治部少輔  
一條殿 岡本甲斐守  
二條殿 隱岐兵部少輔  
有栖川宮 藤木近江守

堂上方の御判物 御朱印相渡候節圖

◎圖は次頁に掲載

一 此度蝦夷地産物元仕入方爲取調御用箱館奉行支配組頭新藤鉛藏并支配定役二人上 京 御朱印等預り候ニ付自分平服用大書院例席に着坐公用人白木三方勝手口より持出自分右之方ニ差置夫より公用人案内ニ新藤鉛藏ニ之間に罷出會尺之上自分側に進ミ 御朱印差出之請取側ニ出置候白木三方の載之預り置候旨申聞退去右相濟町奉行ニ之間北側

三百二十二  
伏見宮 津田伊勢守  
近衛殿 北小路兵部權少輔  
鷹司殿 青木右京亮  
花山院前右大臣殿 梅戸紀伊守  
久我内大臣殿 森但馬守  
近衛殿櫻木屋敷 不斷光院  
北小路兵部權少輔



出席

定役

板倉庄次郎



喜多山八之助

右一同入側衝立之内に罷出町奉行とり名前申聞相應言葉遣之町奉行取  
 合退引自分勝手に入  
 一新藤鉛藏持參之證文は公用人を以差出庄次郎八之助持參之證文は町奉  
 行公用人を以差出之

○二月廿八日

一御代替ニ付門跡方比丘尼方便者並堂上方 御判物 御朱印相渡候付傳  
 奏衆爲立會卯半刻出門被行向白洲向初見歩使都る昨日之通  
 一自分熨斗目半襠着竹屋口注進ニ上溜杉戶外迄出迎小書院に誘引例席  
 に着坐挨拶之上茶多葉粉盆火鉢出之 御判物 御朱印相渡候名前書壹  
 張宛兩卿自分ニも公用人差出之  
 一辰半刻頃迄堂上方來臨ニ付揃之上例之通町奉行始着坐之上宜段公用人  
 申聞候間兩卿誘引大書院に而坐 御判物 御朱印渡方次第昨日之通

一右相濟兩卿小書院に同道休息茶多葉粉盆火鉢椀盛菓子出之自分及挨拶  
 退坐

一右相濟門跡方比丘尼方便者相揃候段町奉行初に公用人とり申達二之間  
 北之方に着坐を見請宜敷旨公用人申聞兩卿誘引大書院に如最前出坐  
 御判物 御朱印渡方次第昨日之通相濟兩卿小書院に同道休息茶多葉粉  
 盆火鉢差出之挨拶之上退坐夫とり引續料理等昨日之通差出候と出坐相  
 應及挨拶退坐夫とり吸物始昨日通指出見計御附之ものニも罷出相應及  
 挨拶町奉行御附御目付にも昨日同様支度鉢盛菓子出之  
 右相濟出坐之上兩卿被及挨拶候間相應及挨拶兩人退散ニ付中溜前迄送  
 之公用人取次白洲に出入る

但兩本願寺使者は兩人一同ニ尙左之方東右之方西兩寺ニも一同ニ相  
 渡候先格也

名前書帖折本

所司代日記第十二



中山大納言  
 廣幡大納言  
 正親町三條大納言  
 三條西中納言  
依所勞名代 高松三位  
 日野中納言  
 庭田中納言  
 難波中納言  
 六條宰相中將  
 久世宰相  
依所勞名代 清水谷宰相中將  
依所勞名代 清水谷大夫  
 藤波二位

神宮依御用名代  
 三室戶伊勢權介  
 持明院右兵衛督  
依所勞名代 勘解由小路三位  
依所勞名代 勘解由小路中務少輔  
 倉橋治部卿  
依所勞名代 岩倉三位  
依所勞名代 岩倉大夫  
 大宮三位  
依所勞名代 平松三位  
依所勞名代 平松甲斐守權介  
理宮依御用名代 堀川三位  
理宮依御用名代 樋口右馬權頭  
 西園寺三位中將

葉室頭右大辨  
 中御門左中辨  
 清閑寺頭右中辨  
依所勞名代 中院前侍從  
依所勞名代 中院宰相中將  
依所勞名代 油小路中將  
依所勞名代 油小路大夫  
 阿野中將  
 松木少將  
 梅溪中將  
 東園中將  
 三條少將  
 千種少將

植松彈正少弼  
 白川少將  
 裏辻侍從  
 園侍從  
 中園左馬權頭  
依所勞名代 藪大夫  
依所勞名代 藪新大夫  
 山本大夫  
 勸修寺侍從  
 使者之分  
仁和寺宮 芝築地師  
聖護院宮 今大路民部卿  
梶井宮 鳥居川宮內卿



知恩院宮  
 小山大藏卿  
 妙法院敦宮  
 菅谷宰相  
 聖護院宮兼帶  
 照高院宮  
 今大路民部卿  
 隨心院門跡  
 芝但馬守  
 大乘院門跡  
 福智院大藏卿  
 一乘院門跡  
 內傍原法印  
 三寶院淳君  
 北村伊賀守  
 靈鑑寺宮  
 田原左衛門少尉  
 中宮寺宮  
 田中采女  
 圓照寺宮  
 關大藏  
 瑞龍寺殿  
 法華寺五十君  
 岡山大膳

本光院殿  
 藤田隼人  
 寶慈院殿  
 石井左馬少允  
 聖護院宮抱室  
 積善院  
 今大路民部卿  
 華同  
 華臺院  
 今大路民部卿  
 妙法院敦宮抱寺  
 蓮華王院  
 菅谷宰相  
 靈鑑寺宮兼帶  
 禪智院  
 田原左衛門少尉  
 寶鏡寺殿上藤寺  
 繼孝院  
 森主計  
 同兼帶大慈院上藤寺  
 瑞華院

入江右兵衛  
 瑞華院兼帶  
 惠聖院  
 寶鏡寺殿末寺  
 養林庵  
 木下賴母  
 西本願寺門跡  
 島田右兵衛少尉  
 東本願寺門跡  
 下間大藏卿

興正寺門跡  
 金子掃部  
 佛光寺門跡  
 北村將監  
 東本願寺門跡兼帶  
 光澤寺  
 下間大藏卿  
 同  
 眞樂寺  
 下間大藏卿

◎原書此所に挿圖あり都合上次頁に掲載す

一今夜四ツ半頃小川頭下禪呂院町邊出火一ノ手人數指出無間消火致し候

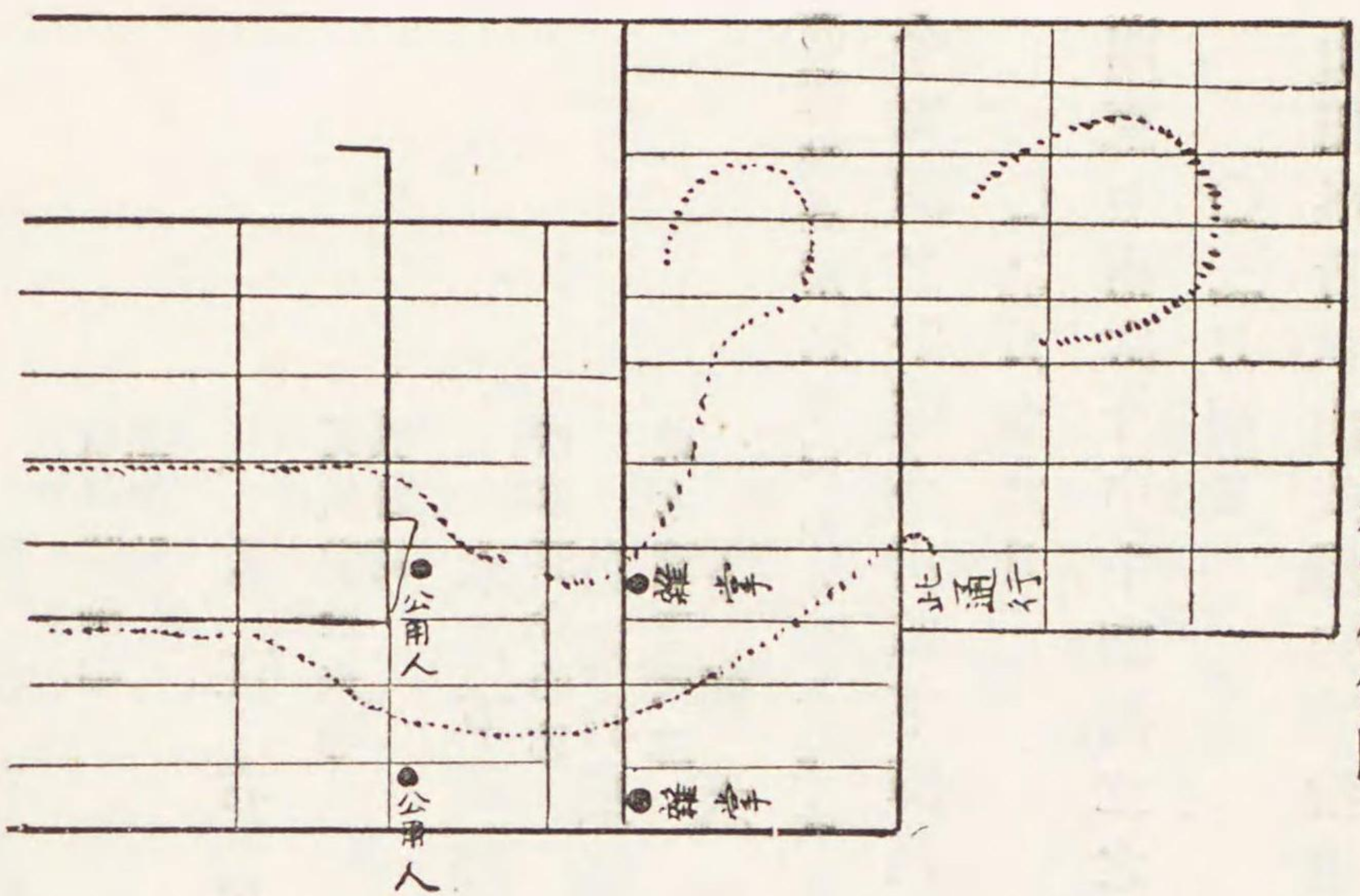
一關東の宿次今申中刻指立之

○三月朔日

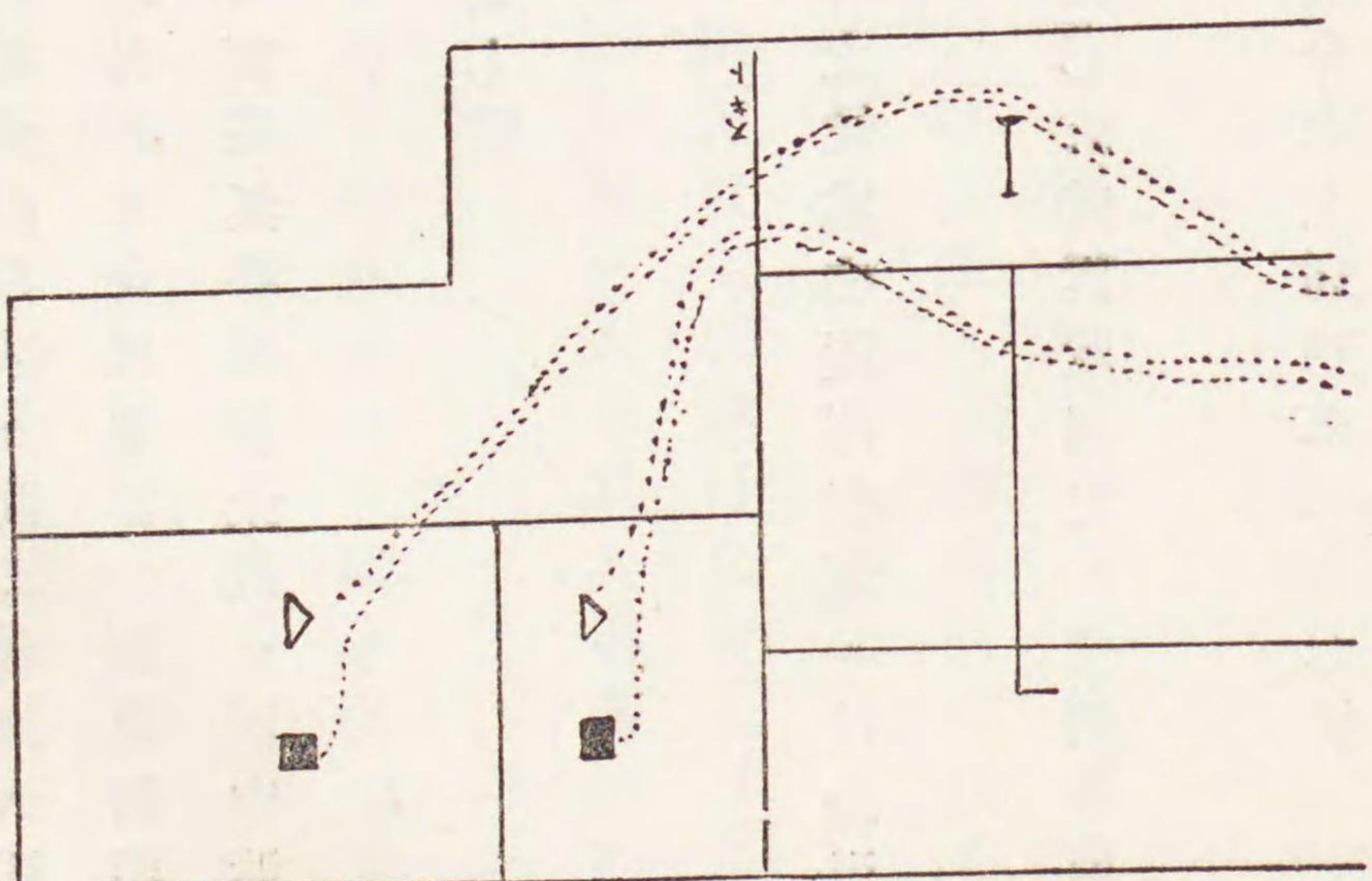
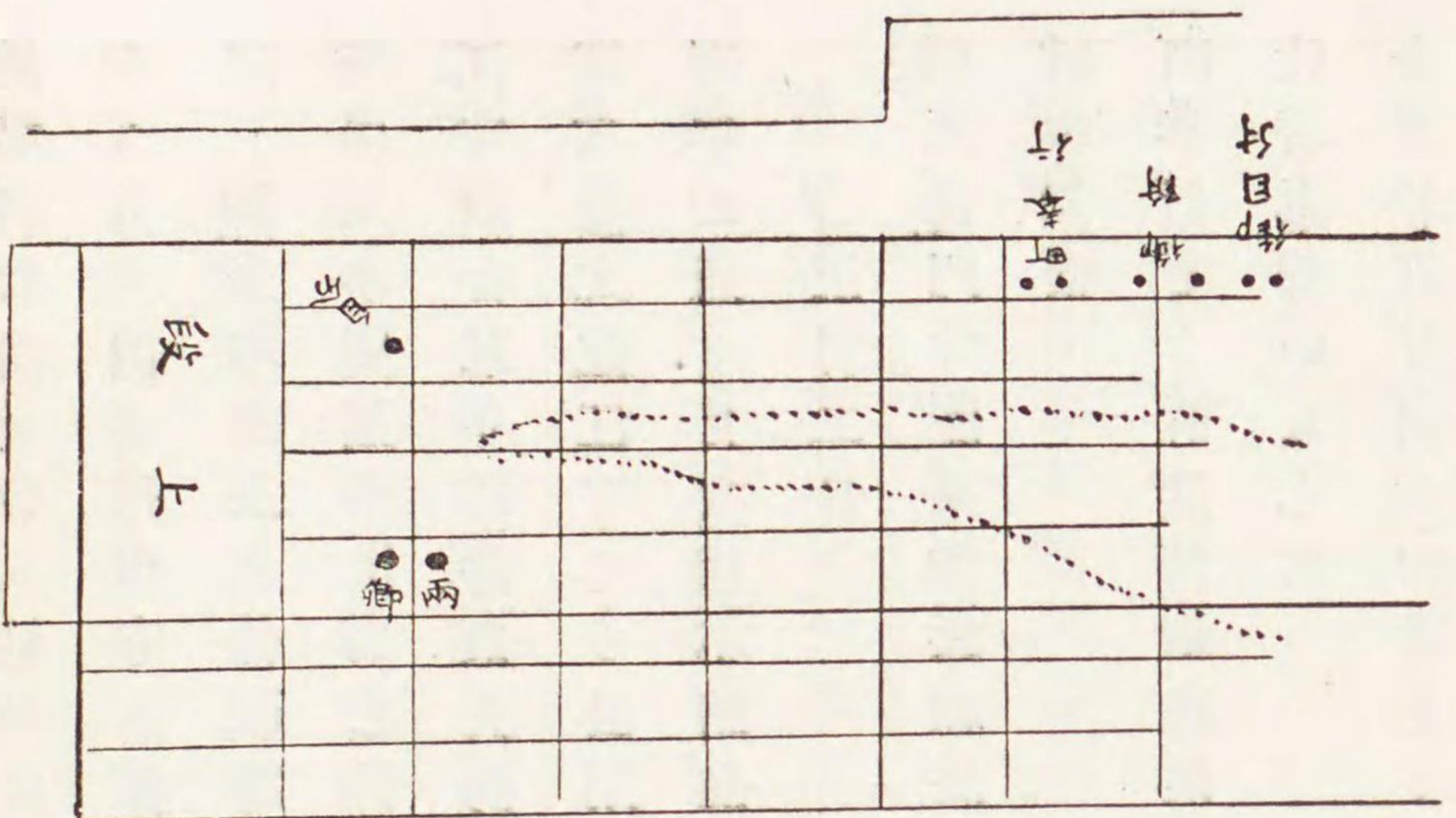
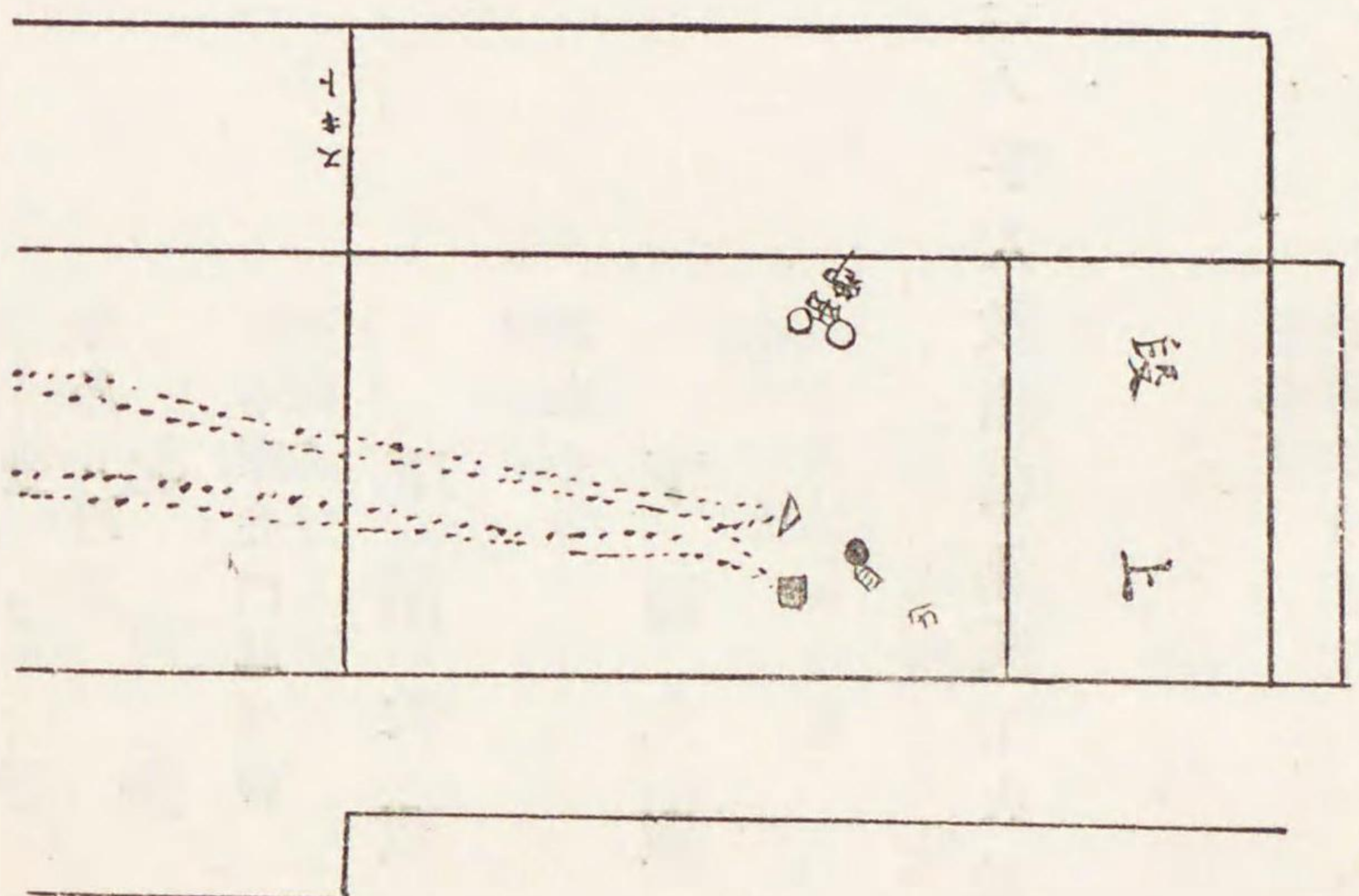
一山田奉行秋山安房守の指遣候 御朱印箇物指添之御番衆歸京ニ付大御番頭松平丹後守近藤遠江守御番衆同道自宅に被參公用人を以右兩人同



門跡比丘尼方堂上方使者御判物御朱印相渡候節圖



兩本願寺江御朱印相渡候節之圖





道罷出候段被申入見計自分平服大書院例席に出席白木三方公用人持出  
 右の方ニ置之丹後守遠江守出席引續御番衆兩人貳之間二疊目に罷出會  
 尺御朱印返上ニ付改請取三方ニ載之夫より安房守の書狀指出請取  
 公用人小廣蓋持出引之御番衆元之席に復座無滯相勤太儀之旨申渡之遠  
 江守取合畢御番衆大御番頭退坐  
 一宿次證文遠江守より公用人の返達に多し候  
 一例年を通り月次禮不請候

○三月二日

一稻葉長門守關東御婚禮濟爲恐悅入來有之候處疝積痔疾氣ニ付公用人の  
 被申置候  
 一町奉行より訴狀箱指越候ニ付開封いたし候處訴狀無之ニ付例ニ通封印  
 仕替返却いなし候  
 一去月廿五日出大和殿より被指越候宿次今未上刻到來に多し候

一江戸表に宿次指立之

○三月三日

一上巳に禮並岡村能登介初る目見申付候ニ付四ツ時頃熨斗目半袴着用  
 一表出禮之者相揃候段茶屋四郎次郎名代之者公用人の申聞折本出之宜段  
 公用人より申聞  
 一小書院側例席正面に着坐二之間三寶寺罷出取次披露目出度と言葉遣之  
 定職人鎰屋九左衛門罷出襖際北之間公用人南の方の取次出居披露言葉  
 無之  
 一大書院の出掛ケ手水之間取次披露勝手通之町人共一寸膝を突目出度と  
 輕ク詞遣之公用人取合  
 一大書院例席に着坐伏見奉行始地役之面々順々罷出上巳に祝儀申述候間  
 目出度と及挨拶畢大書院内椽の家老用人公用人出席自分上段際正面  
 着坐貳之間末北の方襖壹枚開之取次引出初一頬取次披露組與力五人宛



一同衝立際より順々罷出目見北之方は引  
但言葉無之

一右畢る北之方襖閉之取次引披露瀧川播磨守組與力黒田小左衛門松平次郎兵衛組與力窪田政右衛門二之間壹疊目ニる目見申付目出度と言葉遣之畢る衝立之方は引

一右畢る三之間襖左右は開之三之間ニる諸町人社人共取次視披露ニる目通申付畢る襖閉之衝立内は公用人壹人出居取次障子際ニる名披露

上 雜 色

上 町 代

一右畢る衝立開之立坐取次敷居際ニる下雜色と名目披露

下 雜 色

一右相濟公用人壹人上溜内椽南向出居取次北向罷出通り掛下町代と名目披露

下 町 代

右相濟上溜之間より勝手は入

一田頭檢校惣檢校職之禮請候ニ付大書院出坐家老用人公用人二之間内椽は出席三之間襖左右は開之三之間より取次召連罷出二之間三疊目は着坐職事兩人手を引罷出職新職惣檢校と披露目出度と言葉遣之畢る職事兩人罷出手を引退出

一小笠原大膳大夫御暇通行ニ付今日爲伺 御機嫌被相越候付上溜は通置自分平服大書院例席は着坐公用人案内ニる大膳大夫被通 關東 御機嫌能旨申達畢る自分之挨拶有之候間相應及挨拶夫より持參之太刀目録有之候ハ、取次持出披露自分請取是又相應及挨拶退散之節四品ニ付上溜前迄送之

但疝積氣ニ付送無之

一瀧川播磨守不快ニ付出禮無之



一 中村又兵衛當日爲祝儀入來別段於小書院逢御用談以多し候  
○三月四日

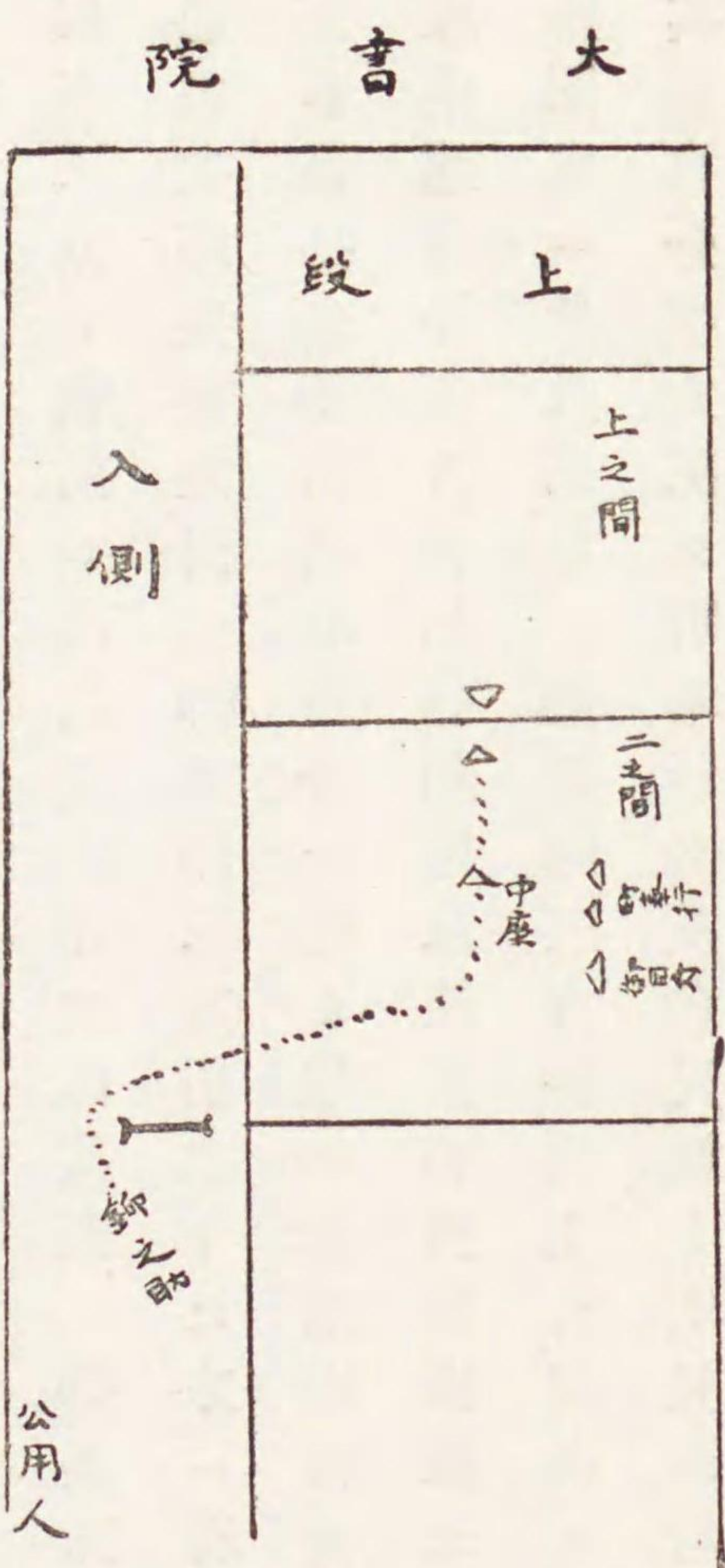
一 御代替ニ付 御朱印相渡候間爲御禮堂上方被行向公用人迄被申置並攝  
家宮門跡准門跡方便者被差出候  
○三月五日

一 御代替ニ付 御朱印相渡候爲御禮行向有之夫々昨日之通  
○三月六日

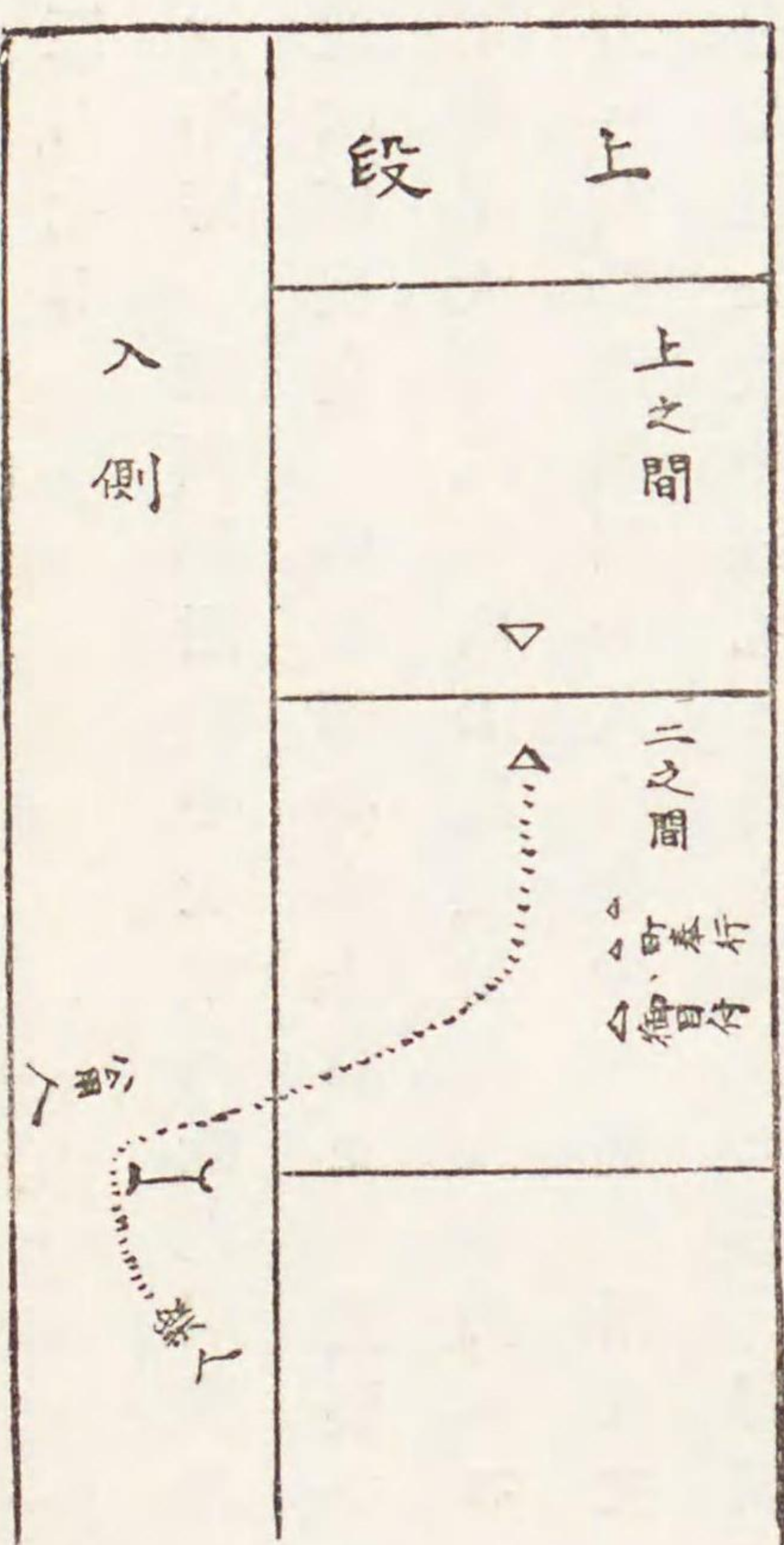
一 御代替ニ付上林御之助幼年ニ付名代木村宗右衛門並樂人ハ 御朱印相  
渡候付小頭立番等差出廣間向服紗麻上下公用人熨斗目麻上下着

一 四ツ時頃揃宜旨公用人より申聞自分熨斗目半袴着大書院正面ニ着坐  
御朱印廣蓋ニ載公用人持出自分側ニ差置圖之通罷出相渡之相濟退散

但御之助ハ相渡候節町奉行取合難有旨申述退去  
上林御之助ハ 御朱印渡之圖



樂人ハ 御朱印渡之圖



所司代日記第十二



○三月七日

一今日五ツ半時 禁裡御附松平次郎兵衛瀧川播磨守同道ニ相越上竹之間白木三方上竹之間罷通次郎兵衛 御黒印持參上着之旨播磨守申聞之間ニ爲差出置 自分麻上下着用大書院例席白木三方出坐公用人案内ニ次郎兵衛出席 御黒印白木三方ニ載持出同間白木三方入自分少シ進候得次郎兵衛御機嫌之旨申聞候付自分恐悦之段申述べ席白木三方着坐之節 御黒印三方次郎兵衛差出之時播磨守二之間敷居際迄出次郎兵衛儀同所白木三方退並居自分 御黒印拜見相濟三方白木三方載前白木三方出之播磨守次郎兵衛 御黒印頂戴難有旨申述べ播磨守退去次郎兵衛罷出 御黒印三方引之下白木三方方ニ着坐三方左白木三方方ニ置夫白木三方と奉書持參差出請取自分一覽之後年寄衆傳言次郎兵衛申聞並役儀之御禮申述べ自分安否被相尋相應及挨拶相濟御機嫌之段何白木三方も可申達哉之旨申聞候ニ付及挨拶 御黒印三方持引上之間南白木三方方四本目柱之間白木三方着坐其節自分衝立際之町奉行白木三方及會尺候白木三方と伏見奉行白木三方と順々御門番白木三方之頭

迄伺 御機嫌有之何白木三方も恐悦之段自分白木三方申聞年寄衆白木三方と之傳言次郎兵衛申達組御門番頭ハ傳言無之 畢白木三方自分勝手白木三方入夫白木三方と 御黒印三方次郎兵衛持竹之間白木三方引

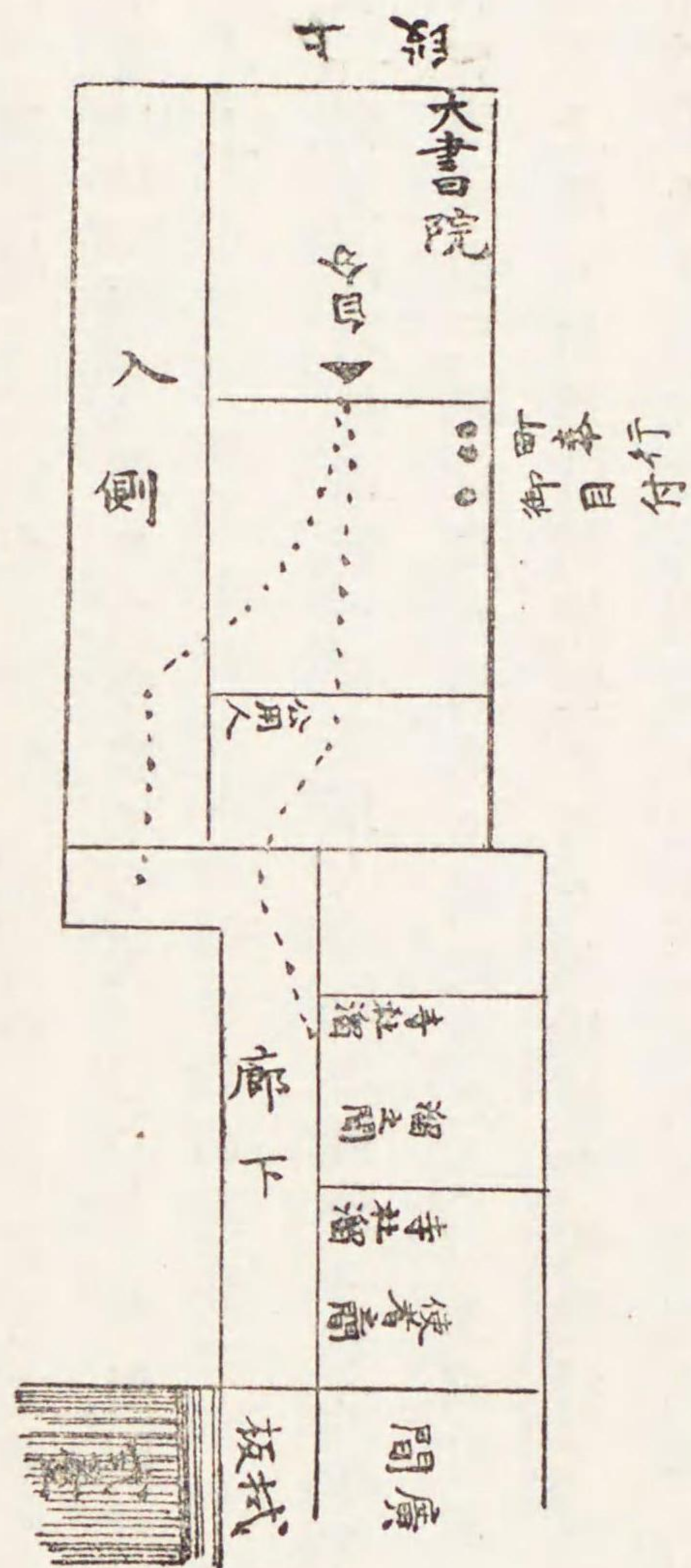
一其後 御黒印寫持出候ニ付公用人請取之自分白木三方差出畢白木三方播磨守同道退散一御目付妻木源三郎此度長崎表白木三方御用有之今日上京町奉行同道相越候付源三郎上溜白木三方相通御機嫌伺白木三方面々相揃候段町奉行白木三方とり公用人白木三方申聞自分服紗麻上下着大書院例席白木三方出坐二之間入側衝立際ニ罷在候町奉行白木三方及會尺候白木三方と町奉行案内ニ源三郎被通本間闕内白木三方着坐自分扇子取少進源三郎 御機嫌之段被申聞恐悦之旨申述べ夫白木三方年寄衆白木三方と之傳言被申聞相濟自分安否之口上も有之相應及挨拶源三郎少シ坐を下り着坐其節自分白木三方と 御機嫌伺白木三方面々可差出旨及挨拶二之間入側衝立際ニ罷在候町奉行白木三方及會尺候白木三方上大御番頭白木三方御門番白木三方之頭迄順々被伺 御機嫌源三郎白木三方御機嫌能旨申述べ之自分も恐悦之旨被申聞相濟年寄衆白木三方之傳言も被申聞



但御門番之頭には傳言無之畢る自分勝手に入

但最初上溜の相通町奉行の公用人を以勝手通之儀申聞候上上竹之間の相通茶多葉粉盆等差出之

一御代替ニ付五畿内之寺社に御判物 御朱印相渡候付門内外飭手桶門下徒士目付小頭立番等差出廣間向服紗麻上下着公用人熨斗目麻上下着用一門前を爲固東西與力同心并掛之與力同心其外雜色町代共相詰



一五ツ時前相揃宜旨公用人より申聞自分熨斗目半袴着大書院正面坐着坐町奉行御目付出席御判物 御朱印廣蓋ニ載公用人持出自分側ニ差置圖之通○圖前壹人ツ、無中坐直ニ側に進ミ名前直披露ニ而相渡之相濟勝手入

○三月八日

一勸修寺大夫元服爲御禮同侍從同道被行向候處臨期痔疾氣ニ付公用人の御禮被申置候

一關東に之刻付宿次西上刻指立之

○三月九日

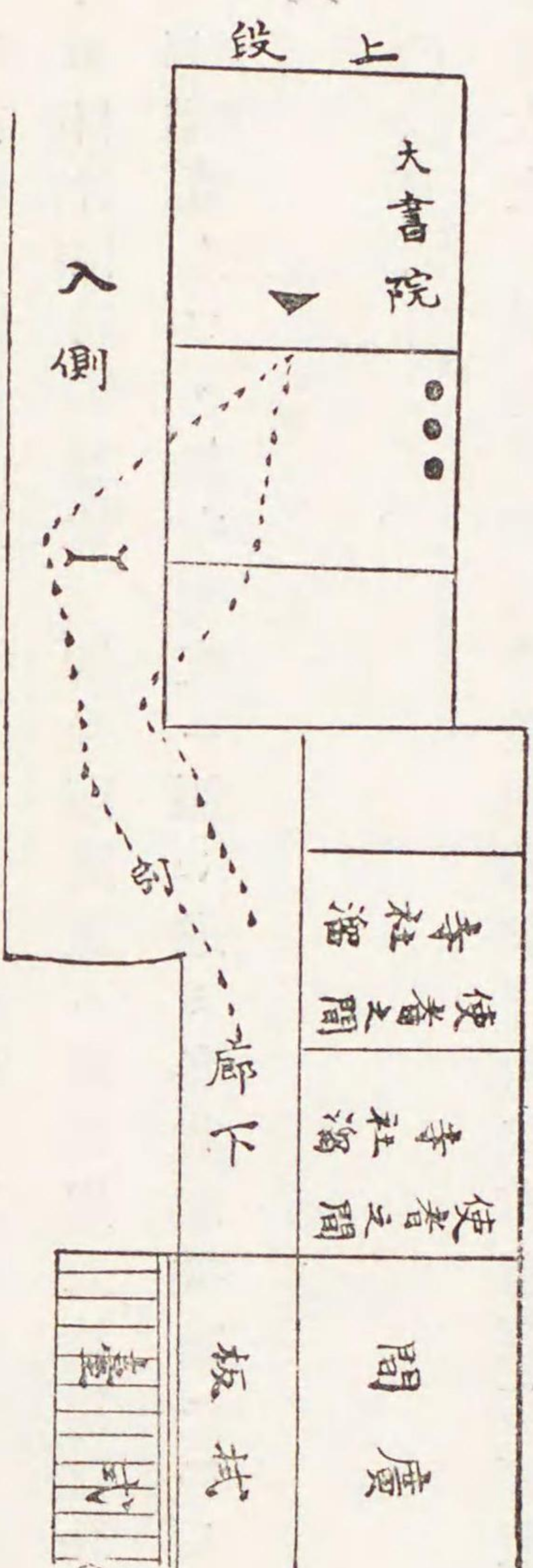
一御代替ニ付五畿内之寺社に御判物 御朱印相渡候付門内外飭手桶門下徒士目付小頭立番等指出廣間向服紗麻上下着公用人熨斗目麻上下着用一門前を爲固東西與力同心并掛り之與力同心此外雜色町代共相詰一五ツ時前相揃宜旨公用人より申聞自分熨斗目半袴着大書院正面坐着坐町



奉行御目付出席御判物 御朱印廣蓋ニ載公用人持出自分側ニ差置圖之  
通壹人宛無中坐直ニ側ニ進ミ名前披露ニ相渡之

但五山派泉州堺大安寺迄相濟候上ニる金地院役者兩人罷出壹人ツ、  
取次引連壹人々ニ之間貳疊目壹人ハニ之間壹疊目ニ罷出名披露 御  
判物 御朱印頂戴ニ御禮申述之言葉無之夫々り京都紫野大德寺以下  
ニ相渡之

右相濟勝手ニ入



一四ツ時九ツ時八ツ時渡シ右同斷  
一町奉行御目付一汁三菜支度出之

所司代日記第十二

洛東	南	天	相	豐	大	建	璋	萬	昇	南
山城國葛野郡嵯峨村	同國愛宕郡	(朱書)	(朱書)	(朱書)	同國同郡	(朱書)病氣ニ付代	山城國紀伊郡	(朱書)病氣ニ付代	(朱書)病氣ニ付代	南禪寺塔頭
龍	國	光	光	光	仁	西	壽	西	堂	京都東山
寺	寺	寺	寺	寺	寺	堂	寺	堂	堂	

山城國愛宕郡東山	山城國葛野郡梅津村	金地院兼帶	同國同郡同村	(朱書)金地院弟子	同國同郡一乘村	金地院兼帶	大和國葛下郡片岡王子村	(朱書)金地院弟子	同
松	傳	受	受	首	光	磨	敬	敬	河
院	寺	寺	寺	座	寺	座	座	座	內
									國
									灘
									川
									郡
									龜
									井
									村

三百四十三



(朱書)金地院弟子 眞 觀 座 寺  
 金地院兼帶 哲 首 座 寺  
 同國若江郡八尾村 常 光 座 寺  
 (朱書)金地院弟子 慎 首 座 寺  
 同津國八部郡坂宿村 禪 昌 座 寺  
 (朱書)金地院弟子 良 首 座 寺  
 山城國葛野郡嵯峨村 禪 昌 座 寺  
 京都北上 等 持 院 院  
 山城國愛宕郡上京 寶 嚴 院 院  
 同國葛野郡北山村 鹿 苑 寺 寺  
 京都東山 慈 照 寺 寺

同八坂 高 臺 寺  
 山城國紀伊郡 南 明 院 院  
 (朱書)病氣ニ付代 穩 藏 庵 庵  
 同國乙訓郡山崎 妙 喜 庵 庵  
 京今出川芝樂師領 大 興 寺 寺  
 和泉國大鳥郡堺 海 會 寺 寺  
 同國同郡所 大 安 寺 寺  
 (朱書)病氣ニ付代 莊 首 座 座  
 此間以金地院役者罷出 五山  
 御朱印頂戴之御禮申上  
 京都紫野 大 德 寺 寺  
 山城國愛宕郡鷹峰 讚 州 寺 寺

(朱書)病氣ニ付代 英 首 座 庵  
 同國綴喜郡薪村 酬 恩 庵 庵  
 和泉國大鳥郡堺 南 宗 寺 寺  
 同國同郡所 禪 通 寺 寺  
 攝津國川邊郡尼崎 栖 賢 寺 寺  
 同國同郡所 廣 德 寺 寺  
 山城國葛野郡木辻村 麟 祥 院 院  
 同國同郡京都北山 龍 安 寺 寺  
 同國宇治郡 萬 福 寺 寺  
 (朱書)病氣ニ付代 龍 福 寺 寺  
 攝津多田院村 多 田 院 院  
 (朱書)病氣ニ付代 南 之 坊 坊  
 大和國葛下郡當麻 當 麻 寺 寺

四ツ時渡分

(朱書)惣代 不 動 院 院  
 同國添上郡南都 興 福 寺 寺  
 山城國愛宕郡大原草生村 寂 光 院 院  
 和泉國大鳥郡堺 極 樂 寺 寺  
 山城國愛宕郡京都 妙 顯 寺 寺  
 同國京都二條 頂 妙 寺 寺  
 和泉國大鳥郡堺 妙 國 寺 寺  
 山城國乙訓郡灰方村 本園寺塔頭 瑞 雲 院 院  
 京妙顯寺家 大 妙 寺 寺  
 和泉國大鳥郡堺 經 王 寺 寺



九ツ時渡分

同國同郡同所 櫛 筥 寺  
 仁和寺宮院家 乘 院  
 真乘院兼帶 寶 院  
 勝兼帶 證 院  
 理 證 院  
 (朱書)所勞ニ付代 成 願 寺  
 仁和寺宮院家 真 光 院  
 (朱書)所勞ニ付代 明 星 院  
 聖護院宮家 若 王 寺  
 京東山 無 量 壽 院  
 三寶院御門跡院家 醍醐松橋  
 山城國宇治郡醍醐松橋  
 同國同郡醍醐 同國同郡醍醐

(朱書)報恩

理 性 院  
 (朱書)護持ニ付代 寶 光 院  
 同國同郡醍醐 報 恩 院  
 同國同郡醍醐 同國同郡醍醐  
 同國同郡醍醐 釋 迦 院  
 大和國添上郡南都 喜 多 院  
 (朱書)先格ニ付名代 太 田 采 女 院  
 同國山邊郡 內 山 寺  
 (朱書)惣代 無 量 壽 院  
 京 都 前 島 主 膳 寺  
 (朱書)惣代 賢 院

同大佛 智 積 院  
 (朱書)病氣ニ付代 光 照 寺  
 智積院兼帶 同北野  
 養 命 坊  
 大和國式上郡初瀬村 小 池 坊  
 (朱書)所勞ニ付代 惣 持 院  
 山城國葛野郡 高 雄 山 院  
 神 護 寺  
 (朱書)所勞ニ付代 中 性 院  
 同國愛宕郡 柵 尾 寺  
 同國葛野郡太秦村 廣 隆 寺  
 (朱書)年預 勝 鬘 院  
 同國愛宕郡 同國東山 院

七 觀 音 院  
 和泉國大鳥郡堺 大 觀 寺  
 (朱書)惣代 五 大 院  
 同國同郡同所 向 泉 寺  
 河內國石川郡 上 太 子 機 長 山 院  
 (朱書)惣代 花 藏 院  
 同國錦部郡 觀 心 寺  
 (朱書)惣代 觀 心 寺  
 (朱書)惣代 威 德 院  
 大和國十市郡香久山 興 善 寺  
 (朱書)惣代 遍 照 院  
 山城國紀伊郡竹田村 安 樂 壽 院



(朱書)年寄

同國愛宕郡京都

千本野

上品蓮臺寺

同國同郡同所

閻魔堂

京都六波羅

引

(朱書)病氣二付代

同國葛野郡嵯峨

法

(朱書)病氣二付代

同國乙訓郡西岡

今里村

善院

上品蓮臺寺

接門寺

東之坊

法輪鐘坊

平預柳寺

同國乙訓郡西岡

(朱書)病氣二付代

同國葛野郡京都

北野

大聖院

(朱書)病氣二付代

同國乙訓郡山崎

清寂院

(朱書)病氣二付代

同國宇治郡白川

觀音寺

同國葛野郡京都

出水道

同國同郡

寺

院

院

寺

坊

院

院

(朱書)惣代

同國錦部郡

河內國

正曆寺

(朱書)惣代

同國高市郡

觀音院

大和國添上郡

恩厚山

圓城寺

(朱書)惣代

同國同郡東光山

報恩院

河內國古市郡

通法寺

(朱書)病氣二付代

同國志紀郡道明寺村

延壽院

(朱書)先格二付名代

同國同郡

三根兼次郎

大和國宇治郡

寶生寺

實生寺

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

(朱書)病氣二付代

同國同郡

善提山

正光坊

(朱書)病氣二付代

大和國添上郡南郡

十輪院

同國高市郡

觀音院

同國同郡東光山

大聖院

同國山邊郡桃尾山

龍福寺

(朱書)惣代

同國式上郡三輪山

金藏院

同國同郡

寶生院

同國同郡

長岳寺

(朱書)惣代

地藏院

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二

所司代日記第十二



同國式下郡法貴寺村

河內國古市郡  
譽田八幡宮領

大和國廣瀨郡  
箸尾村

大福

大寶

攝津國菟原郡  
摩那山

切利

大乘

和泉國泉郡  
牛龍

山城國宇治郡山科  
安祥

攝津國八郡郡音堂領  
須摩上野山觀音堂領

真光

(朱書)惣代

同國嶋下郡

(朱書)惣代

河內國丹南郡  
葛井寺村

剛

攝津國嶋下郡  
補陀落山

八ッ時渡分

大和國添上郡  
南都

(朱書)惣代

南都

福祥寺

蓮生院

勝尾寺

小池院

剛琳寺

總持寺

大藏寺

東地

南都

同國式下郡法貴寺村

河內國古市郡  
譽田八幡宮領

大和國廣瀨郡  
箸尾村

大福

大寶

攝津國菟原郡  
摩那山

切利

大乘

和泉國泉郡  
牛龍

山城國宇治郡山科  
安祥

攝津國八郡郡音堂領  
須摩上野山觀音堂領

真光

(朱書)惣代

大和國添下郡南都

(朱書)惣代

大和國添下郡南都

(朱書)惣代

同國同郡同所

(朱書)惣代

京都東山

京都東山

京都東山

同

同

世尊院

花嚴寺

藥師寺

地藏院

招提寺

十如院

西大寺

華藏寺

東涌寺

戒光寺

悲田院

安樂院

山城國葛野郡  
京都西八條

六孫王社領

山城國京都所料

同國乙訓郡山崎

京都泉涌寺塔頭

同北野

南都東大寺內

(朱書)病氣ニ付代

大和國南都

東大寺內

同國添上郡

遍照院

遍照院

誠心院

神宮寺

長福寺

觀音寺

觀音院

地氣院

真言院

眉間寺

同國添上郡



同國同郡南都  
(朱書) 忽元 龍興寺  
 南都東大寺  
(朱書) 忽龍 藏寺  
 八幡宮領  
 塗師屋主殿  
 大和國添上郡南都  
 新藥師寺  
 同國十市郡安部山  
(朱書) 忽滿 願寺  
 同國添下郡南都  
 秋篠院  
(朱書) 忽釋 迦院  
 同國城上郡三輪山  
 三輪山若宮領  
 大御輪寺  
 同國添上郡南都  
(朱書) 病氣二付代 空院  
 白毫寺

三百五十二  
 同國同郡同所  
(朱書) 行中二付代 海龍王寺  
 同國同郡同所  
(朱書) 若輩二付代 般若寺  
 同國同郡同所  
(朱書) 若輩二付代 極樂寺  
 同國同郡同所  
(朱書) 若輩二付代 不樂寺  
 同國同郡同所  
 福智院  
 同國同郡同所  
 白毫寺  
 同國同郡同所  
 圓證寺  
(朱書) 若輩二付代 福智院  
 同國添下郡南都  
 鎮守天神社領  
 喜光寺  
 同國添上郡南都  
(朱書) 若輩二付代 本光寺  
 同國同郡南都  
(朱書) 病氣二付代 大御輪寺  
 同國同郡南都  
 不退寺

招提寺中十如院兼帶  
 大和國平群郡生駒山  
 竹林寺  
 同國添上郡南都  
 十如院  
 傳香寺  
 山城國葛野郡京都  
 壬生地藏堂領  
 壬生寺

(朱書) 輪番 法華院  
 大和國添上郡南都  
 正覺寺  
 山城國葛野郡  
 法金剛院  
 和泉國泉郡貝塚  
 下半  
 眞教寺

○三月十日

一 妙心寺派豐後臼杵月桂寺徹傳和尚出世之爲御禮罷出逢可申之處疝積氣  
 二 付其儀無之  
 一 去月廿八日出大和殿々り之宿次今未上刻到來  
 一 關東之宿次今申中刻指出之

○三月十一日

一 原伊豫守大久保雄之助於小書院逢御用談以多し候



一去ル七日出豊前殿之宿次今申中刻到來

○三月十二日

一今巳刻三室戸伊勢權介同道同大夫元服爲御禮被行向候付見歩使白洲三枚敷出立番差出公用人取次二人敷出罷出

三室戸大夫

同道

三室戸伊勢權介

右出宅案内ニ自分平服竹屋口見歩使ニ杉戸内迄出迎大書院ニ誘引自分例席ニ着坐伊勢權介大夫内椽ニ方ニ着坐元服御禮被申述時候挨拶等相濟退散ニ節上溜前迄送之

一去ル三日出豊前殿之宿次今丑上刻到來

一去ル六日出豊前殿之宿次今辰中刻到來

○三月十三日

一町奉行より訴狀箱指出開封之處訴狀無之例ニ通封印仕替及返却候

○三月十四日

一去ル九日出豊前殿之宿次今曉丑中刻到來

二今夜酉半刻寺町廣小路輪王寺御里坊出火有之一ノ手人数指出候處無間消火ニ多し候

○三月十五日

二月次之禮例之通相請候

一大坂町奉行鳥居越前守到着ニ付追付可致同道旨町奉行ノ公用人迄申來候ニ付勝手次第被相越候様爲及返答無程原伊豫守越前守上溜之間ニ被通越前守勝手通之儀伊豫守公用人を以申聞則勝手ニ被通候様相達 自分服紗麻上下着用大書院例席ニ着坐公用人を以被相通候様申達越前守罷通自分前ニ直ニ被相越候間自分例席ニ扇子取少シ進ミ候と越前守御機嫌ニ段申聞恐悅申述又例席ニ自分着坐年寄衆より傳言被申述少シ退御役替并御暇拜領物之御禮被申聞相應及挨拶夫より越前守自分之



向の着坐伺 御機嫌之面々指出候旨申述衝立際ニ扣居候町奉行に及會  
尺候と大御番頭初御門番之頭迄順々 御機嫌相伺年寄衆傳言被申述御  
門番之頭計は年寄衆傳言無之且又大御番頭計本間敷居内其外ニ被伺  
御機嫌何れも恐悦は自分被申聞候

一 右相濟越前守に猶又勝手ニ可逢旨申入夫より越前守は上竹之間に退  
去自分直ニ小書院例席に坐公用人案内ニ越前守相通御用談等相濟  
大坂御城代御定番同役奉行に傳言申述歸り之節同間之内少々送ル  
一 於小書院林肥後守組與力同心共一昨年金子孫次郎其外召捕方一件ニ付  
御褒美被下申渡之

一 大御番頭兩人に小書院ニおゐて逢御用談に多し候  
一 中村又兵衛に於小書院逢御用談に多し候  
一 關東に之宿次今申下刻差立之

天龍寺招慶院

清穩巴山長老

一 今已刻自分平服着今日式日ニ付麻上下之儘大書院正面着坐三之間襖左右に開之清隱

巴山長老罷出同間に入朝鮮書契御用輪番ニ付近日對州に致渡海候旨申  
述之入念候様自分申聞清隱巴山長老退坐自分勝手に入

一 小堀數馬屋敷相對替願之通申渡候ニ付今辰半刻自分平服今日式日ニ付麻上下之儘大  
書院二之間正面に着坐町奉行北側に出席左に通申渡之

小堀數馬

願之通屋敷相對替被 仰付候御普請奉行可被談候  
右畢る書付數馬に相渡之

○三月十六日

一 林肥後守組與力同心に昨日御褒美申渡候ニ付右爲御禮同人可被相越候  
處齒痛ニ付斷有之候

○三月十七日

所司代日記第十二

三百五十七



一無記事

○三月十八日

一瀧川播磨守於小書院逢御用談以多し候

一去ル十四日豊前守より之宿次今未上刻到來

一松平丹後守近藤遠江守於小書院逢御用談以多し候

○三月十九日

一横瀬山城守旅中藤澤驛より之宿次油紙包狀箱到來以多し候

○三月廿日

二井伊掃部頭家老木保清左衛門留守居永田權右衛門同道目通申付罷越此度爲先用出京之由掃部頭より口上公用人承之申聞自分家老用人公用人入側に出席近習之者後ニ詰有之三之間襖開之二ノ間二疊目は木保清左衛門取次引出名披露是はと挨拶入御念候御口上共忝宜と及直答相濟元席は退清左衛門自分之日通初ると言葉遣太刀馬代持參入念候旨并此度

御太儀之旨及挨拶清左衛門退引之上永田權右衛門壹疊目ニ同様目通

初ると言葉遣之此節公用人壹人三之間襖際ニ罷出

但清左衛門持參之太刀馬代取次より最初請取勝手ニ指立之

一關東は之宿次今酉上刻指立之

○三月廿一日

一山田奉行秋山安房守は指遣候 御朱印簡物持參之御番衆は褒美申渡候

ニ付今五半時呼出之儀達置相揃候上自分平服著用大書院二ノ間正面着

坐公用人案内ニ大御番頭御目付出席左之趣申渡拜領物左之通

金壹枚

林 榮太郎

山田奉行は之 御朱印持參骨折候付爲御褒美金壹枚被下之且道中上

下并逗留中拾貳人扶持之壹倍之積を以被下之

右申渡濟引夫は北廊下之口より金臺給仕方持出置榮太郎罷出頂戴引給

仕方右拜領物衝立之方は引



金壹枚

戶田金次郎

山田奉行に之 御朱印持參骨折候付爲御褒美金壹枚被下之且道中上下并逗留中拾貳人扶持之壹倍之積を以被下之

右申渡濟引夫の北廊下之口を給仕方金臺持出置金次郎罷出頂戴引給仕方右拜領物衝立之方引

右相濟榮太郎金次郎一同罷出拜領物仕難有旨松平丹後守近藤遠江守取合申述退坐右兩人申渡書付貳通丹後守遠江守に相渡夫の御目付に右申渡書付壹通爲心得相渡大御番頭御目付退坐畢而自分勝手に入

一右相濟榮太郎金次郎立歸ふて御禮申之

一榮太郎金次郎被下物御禮立歸ニ大御番頭共申聞之

一松平出羽守參府通行ニ付爲伺 御機嫌被罷越候間上溜に通置自分平服大書院例席に出坐公用人案内ニ出羽守被通

關東 御機嫌被相伺候間 御機嫌能旨申達次ニ自分之太刀目錄取次持

出披露自分請取是又相應及挨拶退散之節少將ニ付使者間前迄送之

一去ル十六日出豊前殿の宿次今曉寅下刻到來

一町奉行の訴狀箱差越開封之處訴狀無之例之通封印仕替及返却候

一去十七日出豊前殿の宿次今午中刻到來

○三月廿二日

一御目付淺野伊賀守出京ニ付追付同道可致旨町奉行の公用人迄申越候ニ付勝手次第被相越候様爲及返答無程伊賀守町奉行同道服紗小袖麻上下着被相越伊賀守儀を初ニ付上溜に被通勝手通之儀町奉行申込候付勝手次第之旨爲及挨拶竹之間に被通

一御機嫌伺之面々相揃候上自分服紗小袖麻上下着大書院例席に出坐公用人案内ニ伊賀守同間に入着坐自分少し進候と伊賀守 御機嫌之旨申聞候付恐悅之旨申述復座夫の伊賀守年寄衆とりの傳言演說有之安否等申聞相應及挨拶畢而 御機嫌之儀何も可申達哉之旨申聞及挨拶自分



町奉行の會釋ニ大御番頭初御門番之頭迄順々罷出 御機嫌相伺何も  
 恐悦之段自分の申聞年寄衆より之傳言も伊賀守より申述御門番之頭  
 之傳言無之畢る伊賀守退坐自分勝手に入  
 一右同人に於小書院逢御用談ひ多し候

○三月廿三日

一御婚禮服爲濟候御祝儀御使并伊掃部頭指添高家横瀬山城守到着入來ニ  
 付三條口上使屋敷并掃部頭旅宿鞍馬口屋敷見歩使指出門前に爲警固與  
 力四人同心拾四人足輕小頭共六人指出  
 一白洲に五枚敷出し并門内外に飭手桶指出  
 一當地諸役人揃之上山城守に案内使者指出候事  
 一無程山城守被參候付玄關白洲に左之通罷出

家 老 一 人  
 用 人 一 人

公 用 人 三 人  
 取 次 三 人

一式臺に三輪嘉之助木村宗右衛門中井保三郎出迎伏見奉行より御門番之  
 頭迄上溜中溜椽類ニ列坐町奉行ニ之使者之間椽類に出向此節月番之町  
 奉行より今日 御機嫌伺之面々名前書山城守に相渡之自分ニ之大書院  
 衝立際迄出迎大書院に誘引例席に着坐一通挨拶およむ畢る上之口より  
 小書院に誘引

但自分着服熨斗目半袴廣間向諸士以上熨斗目其外之服紗小袖麻上下  
 着大書院小書院に白木刀掛二ツ宛出之山城守刀之上溜前に被差置候  
 付見計給仕方取之大書院刀掛に掛小書院に被通候節も跡より持之小  
 書院刀掛に掛之  
 一 小書院例席着坐山城守障子之方對坐より引下り着坐相定相應之挨拶有  
 之山城守左之書付被指出



- 一 御口上書寫 壹通
- 一 御臺様御口上書寫 壹通
- 一 天璋院様御口上書寫 壹通
- 一 御意書寫 壹通
- 一 御臺様同 壹通
- 一 被進物被下物覺書寫 壹通
- 一 御證文 壹通
- 一 御納戸頭證文 壹通
- 一 山城守自分獻上物書付 壹通
- 一 省中拜見之儀書付 壹通
- 一 洛中洛外巡見之儀書付 壹通
- 一 御入城之儀書付 壹通

右書付請取之被進物其外被下物先達之年寄衆より申來支度申付置候旨

及挨拶且獻上物伺洛中洛外巡見之儀先格之通勝手次第被致候様及挨拶  
 省中并 御鳳輦拜見之儀ハ追之可達旨及挨拶  
 一 右畢之茶塗之葉粉盆出及挨拶勝手之入山城守ニ之竹之間ハ罷越被待合  
 一 山城守被參候間掃部頭之案内使者指出  
 一 掃部頭被參候付竹屋口ハ見歩使附置注進ニ之白洲ハ左之通罷出

家老 貳人  
 用人 貳人  
 公用人 貳人  
 雨落 取次人 六人

一下屋敷ハ嘉之助宗右衛門保三郎式臺東之方ハ町奉行出向西之方ハ伏見  
 奉行出迎大御番頭より御門番之頭迄之溜中溜椽頼ニ列居自分山城守  
 上溜内通り相越使者之間ニ待合尤自分中溜を後口ニして罷在刀近習之  
 者持中溜内ニ扣居山城守ニ之裏手襖之方ニ被扣刀之給仕方之者持後口

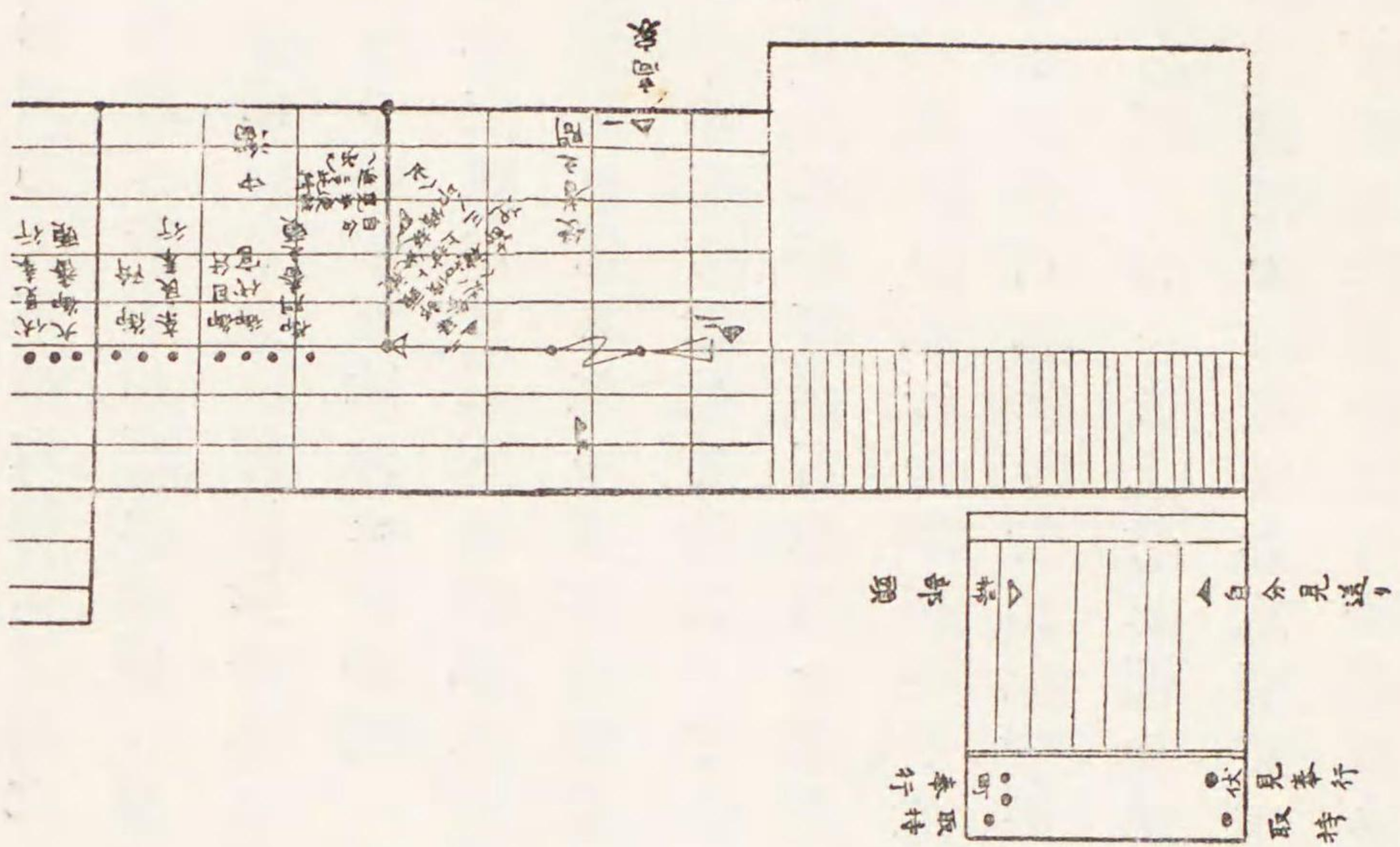


罷在掃部頭式臺迄被見候節月番之町奉行案内此節山城守使者之間椽  
 頗際迄出迎會尺同所ニ右案内之町奉行より今日御機嫌伺之面々名  
 前書相達其頃自分使者之間椽頗迄出迎拭板之方より  
三疊目之末此節掃部頭會尺有之  
 夫より大書院の案内掃部頭山城守之入側之方に着坐自分例席より少々  
 下之方ニ着坐夫より掃部頭下之方に着坐扇子取前ニ進御機嫌相伺御  
 機嫌能旨掃部頭被申述恐悦之旨申述夫より扇子取例席に着坐致し山城  
 守より年寄衆傳言被申述同人自分前ニ進御所御機嫌被相伺御安全之  
 旨申述畢ニ掃部頭御使被仰付難有旨被申述是とも悦申述  
 但掃部頭先格ニ御所御機嫌伺無之  
 御機嫌伺之面々可指出旨掃部頭申述衝立際ニ扣居候町奉行の自分輕  
 及會尺伏見奉行初御門番之頭迄順々出御機嫌能段掃部頭被申聞候与  
 右之面々自分方被向恐悦被申自分輕會尺山城守年寄衆より傳言無  
 之相濟之上之口より小書院の誘引

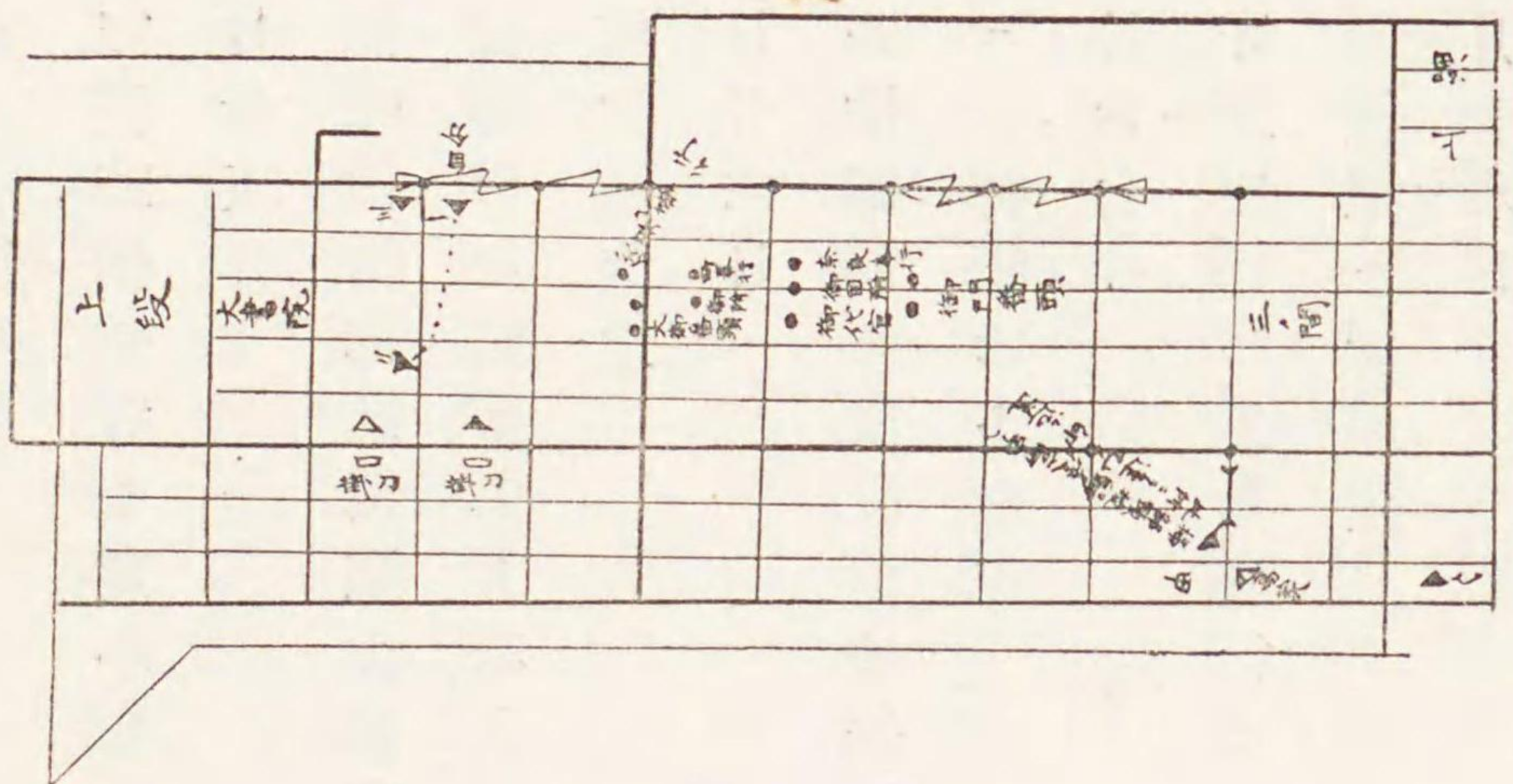
但掃部頭刀之都取持之者持之

小書院例席に着坐相應及挨拶御所々々の御進獻物之儀并掃部頭自分  
 獻上物之儀省中御鳳輦拜見御城入并洛中洛外巡見之儀宜取計之  
 儀口上ニ被申述承知之旨申達御所々々御進獻物之儀先達ニ年寄衆  
 より申來支度申付置候御城入巡見等之儀先格之通可被致候省中  
 御鳳輦拜見之儀之追可申達旨及挨拶  
 一熨斗匏白木三方給仕方持出中央ニ指置中坐會尺有之引之自分及挨拶勝  
 手之入伏見奉行町奉行取持之者罷出挨拶有之取持之者取合之町奉行い  
 多し候掃部頭山城守の茶多葉粉盆等出之椀盛菓子吸物肴二種酒指出諸  
 事取持之者差引相濟見計山城守多葉粉盆引之自分上之口より出坐對話中  
 伏見奉行町奉行ニ之上竹之間退山城守ニ之使者之間邊に被出待合掃  
 部頭の御所々々檜圖并施藥院宅檜圖相渡  
 但右檜圖公用人持出自分取候ニ相渡一覽有之公用人請取勝手之入封





候而掃部頭供之者に相渡其段  
 公用人罷出申聞  
 一夫たり參 内之式等被相尋一ト  
 通相咄挨拶有之而被歸此節玄關  
 式臺迄送山城守ニも使者之間迄  
 被送伏見奉行町奉行下座敷迄取  
 持敷出迄送家老以下如最前出ル  
 但送り之節刀持近習等大書院  
 裏廊下ニ扣居  
 一山城守ニ大書院衝立邊ニ挨拶  
 拶有之歸之節上溜前迄送ル  
 一伏見奉行林肥後守町奉行原伊豫  
 守ニ之當病ニ付不參



一引續供揃ニ而熨斗目半袴着掃部  
 頭方ニ爲歡相越式臺ニ而申置  
 口上  
 今日は無御滞御到着珍重存候  
 右爲御歡致伺公候  
 但公用人跡乘熨斗目麻上下  
 但爲歡可相越之處痔疾氣ニ付其  
 儀無之  
 一去ル十六日出豊前殿より之宿次  
 今丑中刻到來  
 ○三月廿四日  
 一江戸表ニ之宿次今寅中刻指立之  
 一去ル十三日十四日出豊前殿より



之宿次今寅下刻到來

一横瀬山城守淺野伊賀守に於小書院逢致御用談候

○三月廿五日

一今日 上使井伊掃部頭横瀬山城守同道參 内可致之處兼る痔疾之上今朝別る不相勝折々出血等も有之に付無據御斷申上候事

一關東に之宿次指立之

○三月廿六日

一明廿七日井伊掃部頭横瀬山城守同道參 内可致之處先日來痔疾氣格別不相勝候に付御斷申上候事

○三月廿七日

一織田筑前守此度始る參勤通行に付爲伺御機嫌入來有之痔疾氣に付公用人を以 御機嫌之旨申達

○三月廿八日

一井伊掃部頭横瀬山城守今日御暇被 仰出候に付同道參 内可致之處出門刻に至り痔疾以之外不宜出血容易に難止無據御斷申上候事

一江戸表に之宿次今寅中刻指立之

○三月廿九日

一今巳刻大原三位同道同備後權介元服爲御禮被行向候に付見步使白洲三枚敷出し立番指出公用人壹人取次貳人白洲に罷出

同道 大原 三位  
大原 備後 權介

右出宅案内に亦自分平服竹屋口見步使に亦杉戸内迄出迎大書院に誘引自分例席に着坐三位備後權介内椽之方に着坐元服御禮被申述時候挨拶等相濟退散之節上溜前迄送之

一箱館奉行支配組頭新藤鉛藏に預之 御朱印相渡候に付自分平服大書院例席に着坐 御朱印白木三方に載公用人上之口をり持出右之方に指置



夫より公用人案内ニテ鉛藏ニ之間ハ罷出會尺之上自分側ハ進ミ候ニ付御朱印相渡鉛藏ニノ間ハ下リ相應及挨拶退去自分勝手ハ入

但證文并定役喜多山八之助證文ハ公用人より鉛藏ハ相渡之

町奉行ニハ外御用有之同道無之候事

一御目付淺野伊賀守於小書院逢致御用談候

○三月晦日

一去ル廿一日廿三日出之紀伊守殿方之宿次今午申刻到來

一町奉行大久保土佐守於小書院逢致御用談候

所司代日記第十三

(自文久二年四月朔日  
至同年七月六日)

○四月朔日

一井伊掃部頭横瀬山城守 御城入且掃部頭ニテ暇乞兼入來ニ付夫々ハ見  
步使差置

一白洲ハ五枚敷出し門外ハ筋手桶立番人留等差出

一三輪嘉之助木村宗右衛門中井保三郎爲取持相越

但廣間向諸士以上熨斗目麻上下其外服紗小袖麻上下着用

一山城守案内使者差出無程被參候付公用人壹人取次壹人敷出ハ罷出

一式臺ハ取持之者出迎山城守刀給仕方之者取之中溜椽類ハ町奉行御目付

出迎直ニ小書院ハ公用人案内ニテ通し自分熨斗目半袴着出坐及挨拶勝

手ハ入掃部頭被相越候迄山城守ニテ上竹之間ハ相通待合茶多葉粉盆出之



一掃部頭の時刻宜頃以使者案内遣之  
 一竹屋口見歩使注進ニ下坐敷に取持之者此内ニハ白洲に用人壹人公用  
 人貳人雨落に取次三人御目付中溜前迄出迎町奉行敷臺に  
 出迎玄關上迄町奉行案内見計披自分熨斗目半袴ニ使者之間廊下  
 に出迎山城守ニも被通掃部頭刀を取持之者被出迎自分誘引ニ  
 小書院に通し山城守ニも被引御城入之式申談之畢暇持之刀掛に  
 懸置相應挨拶有之見合山城守被引御城入之式申談之畢暇乞之  
 廉ニ熨斗匏白木三方給仕方之者持出之自分一ト先勝手に入夫  
 とり取持を以家老用人公用人の逢可被申由ニ逢有之相濟町奉行  
 出候上白木多葉粉盆茶給仕之者持出之取持之者挨拶ニ出ル  
 但先例菓子吸物等差出候得共省略ニ付不差出  
 三輪嘉之助ニ去 御城入揃之様子聞合罷越追付 御城中支度  
 宜旨案内嘉之助罷出公用人申述承知之旨返答ニ及其節取持之者  
 先罷越北之御門外ニ待合夫より案内

一自分小書院出坐町奉行退引多葉粉盆引之候と家老初に被逢候  
 挨拶并御城入程合宜旨且暇乞等申述掃部頭被歸候節町奉行御目  
 付下坐敷に出取持之者敷出に山城守ニ去使者之間迄被送自分  
 式臺迄送用人公用人取次出迎之通尤掃部頭刀を取持之者持之  
 中溜邊ニ差出之但掃部頭同道 御城入可致之處痔疾氣ニ付其儀  
 無之 一去月廿四日出豊前殿より被差越候宿次今已上刻到來  
 候御目付淺野伊賀守に於小書院逢御用談候 一江戸表に宿次  
 今申ノ下刻差立之

○四月二日

一松平次郎兵衛 御推任叙御請之儀申渡候付今五ツ半時罷出候  
 様相達置自分平服大書院ニ之間正面に着坐公用人案内ニ次郎  
 兵衛罷出諸大夫被仰付候御請之儀左に通申渡書付相渡之

松平次郎兵衛



此度諸大夫被 仰付從五位下伊賀守 勅許候付御請之儀被相伺候可  
任 叡慮旨被 仰出候段申來候ニ付御請可被申上候

四月

一 高家横瀬山城守明日出立ニ付爲暇乞入來於小書院逢及挨拶暇乞等申被  
歸候節手水之問迄送之

一 町奉行より訴狀箱差越開封の多し候處訴狀無之封印仕替返却の多し候

○四月三日

一 去月廿七日豊前殿より被差越候宿次今未中刻到來の多し候

○四月四日

一 一年始御祝儀一條殿より被献物使者差出候

一條 殿

一條 大納言殿

萬津宮御方

右被献物大書院上ノ間入側の毛氈敷並置自分熨斗目半袴着大書院正  
面の着坐右使者罷出取次披露畢而自分前の進ミ口上申述目錄指出候付  
請取之關東の可申上旨申述之

但目錄被献物箱ニ入候節口上計申述

一 今日原伊豫守の續月番相勤候御褒美拜領物申渡候付同人并御目付大久  
保雄之助五半時相揃

但伊豫守當病ニ付名代大久保土佐守罷越

一 自分平服着大書院二ノ間正面着坐御目付大久保雄之助出南側着坐申渡  
拜領物左之通

時服四

名代

原 伊豫守

大久保土佐守

去々申十二月より當戌正月迄久々壹人ニ而月番相勤其外御用多之處  
骨折候付拜領物被 仰付之



右申渡直自分側の進候付申渡書付相渡引夫より北廊下下之口より拜領物給仕方持出置候名代出頂戴引給仕方右拜領物衝立之方の引名代又候罷出御禮申述退坐

但御目付にも右申渡書付相渡

一所司代御役屋敷御修復御用相勤候面々の御褒美申渡候付今四時呼出之儀達置相揃候上自分平服着用大書院二之間正面の着坐公用人案内ニある町奉行大久保土佐守北側の出席御目付大久保雄之助南側の着坐

銀七枚

御入用取調役  
井上富左右

所司代御役屋敷御修復中見廻り相勤ニ付被下之

右申渡富左右引夫より給仕方北廊下下之口より銀臺持出二疊目上ニ置引富左右罷出頂戴之同人銀臺持引夫より富左右罷出拜領物仕難有旨土佐守取合申述富左右退去夫より公用人案内ニ御附瀧川播磨守松平伊賀守出席

銀二枚

御所勤使買物使  
坂本柳右衛門

先役之節所司代御役屋敷御修復御用附切相勤候付被下之

右申渡濟引夫より拜領物次第前同斷柳右衛門自分銀臺持引又罷出拜領物仕難有旨御禮播磨守取合申述播磨守伊賀守退坐右相濟富左右の申渡書付壹通町奉行の相渡同様御用相勤候原伊豫守大久保土佐守組與力同心并平棟梁の御褒美被下候間可申渡旨書付貳通相渡之夫より雄之助の右申渡書付壹通爲心得相渡町奉行御附御目付退坐畢亦自分勝手に入但夫より與力の右町奉行中溜の出席申渡拜領物頂戴同心の使者之間ニ亦與力より申渡先格之通相濟候

一右相濟富左右柳左衛門立歸ニ御禮申之

一町奉行組與力同心共の被下物御禮町奉行申聞候

一平棟梁の被下物御禮是又町奉行共申聞之

一柳左衛門の被下物御禮御附申聞之



一 中井保三郎罷越平棟梁共被下物御禮申聞之  
 一 御目付大久保雄之助於小書院逢御用談ひ多し候并兼預り置候 御  
 朱印相渡候

一 去月廿六日出之豊前殿より被差越候宿次今已上刻到來ひ多し候  
 一 御目付淺野伊賀守於小書院逢御用談ひ多し候  
 一 關東の宿次今戌下刻差立之

○四月五日

一 此度新調之御具足出來之分爲見度旨大御番頭申聞今日御具足奉行關傳  
 藏加藤音三郎持參大書院に飭付置自分平服大書院に出座見分ひ多し宜  
 出來候旨御具足奉行の申聞大御番頭にも其段申聞候様申聞勝手に入

○四月六日

一 去月晦日出豊前殿より被差越候宿次今午上刻到來いたし候  
 一 御目付淺野伊賀守も於小書院逢御用談いたし候

一 去ル二日出對馬殿より被差越候宿次今申中刻到來ひ多し候  
 一 關東の宿次今亥上刻差立之

○四月七日

一 御目付淺野伊賀守於小書院逢御用談いたし候

○四月八日

一 今日養源院に參詣可致之處御用多ニ付其儀無之  
 一 御目付淺野伊賀守於小書院逢御用談ひ多し并明日歸府ニ付兼預り  
 置候御朱印相渡之

○四月九日

一 去ル五日出對馬殿より被差越候宿次今午中刻到來ひ多し候  
 一 關東の宿次申ノ中刻差立之

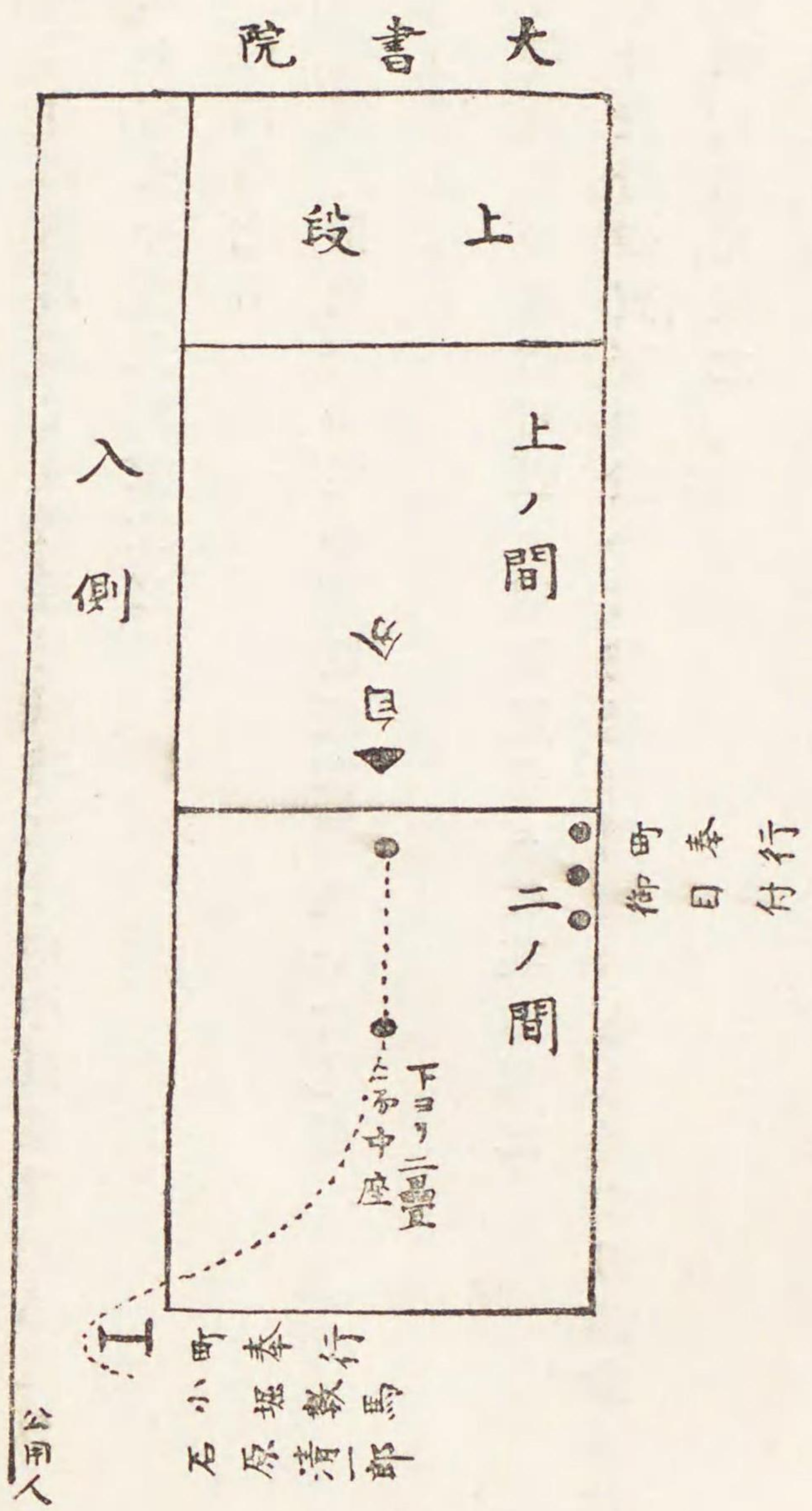
○四月十日

一 御代替ニ付町奉行并小堀數馬石原清一郎に 御朱印相渡候ニ付小頭立



番等差出廣間向服紗袷麻上下公用人熨斗目麻上下着  
一五半時頃揃宜旨公用人とり申聞自分熨斗目半袴着大書院正面着坐 御

町奉行并小堀數馬石原清一郎に 御朱印相渡候圖



朱印廣蓋ニ載公用人持出自分側の差置圖之通壹人ツ、罷出相渡之相濟退散

一今日登大御番頭大久保長門守到着ニ付下り大御番頭松平丹後守近藤遠江守同道ニ相越<sup>三人共</sup>上竹之間に被通一同口上被申入夫より自分服紗袷麻上下着大書院<sup>例席</sup>に着坐公用人案内ニ三人共例席に出長門守少シ進ミ  
公方様益御機嫌能被成御坐恐悅之旨被申述自分も恐悅之旨申述年寄衆之奉書并二條大坂御藏證文貳通持出候付請取之披見右之方ニ差置候と公用人上之口より小廣蓋持出引之畢年寄衆之傳言申聞且今日北御門より御城入之儀等長門守申聞元之席に着坐夫丹後守進ミ年寄衆之奉書指出候ニ付一覽之上直ニ指戻丹後守遠江守退坐長門守居殘御暇拜領物等之御禮申述相應及挨拶時候安否等相尋候ニ付右同様及挨拶直ニ退坐此節敷居外壹疊日程送之



但長門守の請取候二條大坂御藏證文貳通町奉行に以公用人相渡之  
一右引掛小書院正面着坐組與力柳下仙藏の左之趣申渡

柳下仙藏

此度同心支配申付候役筋入念可相勤候  
右申渡家老取合柳下仙藏引自分勝手に入

○四月十一日

一大御番頭松平丹後守明十二日爲暇乞被相越候處自分痔疾氣付逢之儀及  
斷

○四月十二日

一去ル七日出紀伊守殿より被差越候宿次今未ノ上刻到來以多し候  
一關東の宿次今戌下刻差立之

○四月十三日

一町奉行より訴狀箱被差越開封之處訴狀無之封印仕替返却致し候

○四月十四日

一去ル九日出紀伊守殿より被差越候宿次今曉丑上刻到來以多し候

○四月十五日

一月次之禮例之通相請引續き今日大御番頭建部内匠頭到着ニ付大久保長  
門守近藤遠江守同道ニ相越自分平服當日ニ付麻上下之儘着大書院例席着坐公用  
人案内ニ三人共出坐内匠頭ニハ麻上下外兩人ニハ平服ニ付三人共麻上下着用内匠頭進ミ公方様  
益御機嫌能被成御坐候旨申聞畢内匠頭上着之旨長門守遠江守申聞遠  
江守明後十七日内匠頭と交代之由申聞長門守遠江守退坐内匠頭居殘御  
暇且拜領物等之御禮并安否承候付相應及挨拶退坐此時敷居外壹疊日程  
送之

但跡登大御番頭之差出物等無之年寄衆之傳言も無之

一引續キ組與力柳下仙藏同心支配申付候禮佐竹七之助悴龜八郎見習勤申  
付候禮請候付自分平服式日ニ付麻上下之儘大書院正面着坐家老用人公用人内椽へ



出席近習之者後口詰有之二之間末北之方襖壹枚開之家老壹人二之間の進ミ

柳下仙藏

右衝立之方とり罷出襖際ニ取次披露同心支配申付候禮家老取合有之北之方襖明ヶ置候方引

七之助  
佐竹龜八郎

右同斷罷出直披露見習勤申付候禮家老取合北之方襖明ヶ置候方引

一妙顯寺紫衣參 内之禮請候付自分平服式日ニ付麻上下之儘大書院正面着坐家老用

人公用人近習共前同斷三之間襖左右の開之

妙顯寺

右同間に入直披露紫衣并參 内之禮申述目出度と言葉遣之

一關東の宿次今子ノ下刻差立之

○四月十六日

一例月之通鮮鯛家老の代見申付進献いゝし候  
一大御番頭近藤遠江守明日出立爲暇乞被參候處自分痔疾氣ニ付逢之儀及斷

○四月十七日

一去ル十一日出紀伊殿より被差越候宿次今卯ノ上刻到來  
一今日金地院の參詣可致之處痔疾氣ニ付其儀無之  
一町奉行大久保土佐守へ於小書院逢御用談いゝし候  
一去ル十日出紀伊守殿を被差越候宿次今午中刻到來  
一關東の宿次今子ノ上刻差立之  
一右同斷刻附宿次同刻差立之

○四月十八日

一無記事

○四月十九日

所司代日記第十三



一無記事

○四月廿日

一今日養源院へ參詣可致之處痔疾氣ニ付其儀無之

○四月廿一日

一町奉行より訴狀箱差越開封のみし候處訴狀無之封印仕替返却のみし候

○四月廿二日

一關東に宿次今酉ノ上刻差立之

○四月廿三日

一御藏奉行假役小野源右衛門致誓詞候付自分平服ニ而上竹之間に出席町奉行御目付出席源右衛門着坐誓詞公用人讀之血判相濟誓詞御目付の公用人より相渡御目付を爲見候付一覽之上自分も又御目付に渡町奉行にも爲見其後公用人に渡源右衛門誓詞被仰付難有旨町奉行取合源右衛門退坐自分勝手に入

一町奉行大久保土佐守御附瀧川播磨守御目付新庄右近へ壹人ツ、於小書院逢御用談いたし候

一去ル十三日出同十四日出紀伊守殿を被差越候宿次今巳之中刻到來

○四月廿四日

○四月廿五日

一關東に刻付宿次今申ノ下刻差立之

○四月廿六日

一御附松平伊賀守へ於小書院逢御用談のみし候

一去ル十九日出紀伊守殿を被差越候宿次今午上刻到來

○四月廿六日

一日光御門跡に差添被遣候溝口隼人助久志本左京入來御扶持方證文差出候付於大書院可逢之處持病氣ニ付其儀無之公用人を以爲取計候事

一關東に宿次今亥ノ下刻差立之

○四月廿七日



一日光御門跡昨日御京着ニ付執當圓覺院人馬 御朱印持參自分平服大書院例席ヨ出坐白木三方公用人持出側ニ置之公用人案内ニ罷通自分側ヨ罷出日光御門跡人馬 御朱印并圓覺院ヨ被下候人馬ヨ 御朱印右貳通差出自分兩通り三方之上ニ 披見相濟直ニ差戻右寫差出候付直ニ受取側ニ有之三方之上ニ載セ公用人引之圓覺院退去

一御附瀧川播磨守松平伊賀守ヨ於小書院逢御用談ヨ多し候

一大御番頭大久保長門守建部内匠頭ヨ於小書院逢御用談ヨ多し候

一町奉行大久保土佐守ヨ於小書院逢御用談ヨ多し候

一去ル廿三日出紀伊守殿ヨ被差越候宿次今午刻到來

○四月廿八日

一關東ヨ刻付宿次今戌ノ下刻差立之

○四月廿九日

一去ル十八日出紀伊守殿ヨ被差越候宿次今曉寅ノ上刻到來

一去ル廿五日出紀伊守殿ヨ被差越候刻附宿次今申ノ下刻到來

○四月晦日

一松平長門守御暇通行ニ付爲伺 御機嫌入來上溜ヨ通し置自分平服着用大書院例席ヨ出坐長門守被通關東御機嫌被相伺候間御機嫌旨申達恐悅之旨被申述夫ヨ被居直自分ニ挨搦有之相應及挨搦持參之太刀目錄有之候ニ付取次持出披露自分請取是又相應及挨搦退散之節少將ニ付使者之間前廊下障子際迄送之

一去ル廿七日出紀伊守殿ヨ被差越候宿次今中刻到來

一關東ヨ刻附宿次并宿次共今亥上刻差立之

一下鴨一社惣代鴨脚新三位北小路下總守上加茂同梅辻采女大夫山本下總守關東へ献上之葵桂持參ニ付可逢之處痔疾氣ニ付其儀無之

○五月二日

一今日巳刻柳原右衛門督日光より歸京ニ付被行向於大書院逢可申之處自